

取扱説明書
ライダー プロフレックス18
ライダー プロフレックス21

本機をご使用になる前にこの取扱説明書を注意深く
お読みいただき内容を必ずご確認下さい。



日本語

取扱説明書

ライダープロフレックス18&プロフレックス21

目次

目次	1	ワイヤーホルダー	37
はじめに	3	駐車ブレーキの調整	38
お礼	3	エアーフィルター交換	39
公道での運転と運搬	3	燃料フィルター交換	42
牽引	3	パルスエアーフィルターの清掃	42
ご使用	3	燃料ポンプのエアーフィルター点検	42
良質なサービス	4	タイヤ空気圧の点検	43
製造番号	4	バッテリー液レベルの点検	43
シンボルマークの意味	5	イグニッションシステム	43
安全な取り扱い	7	ヒューズ	44
一般注意事項	7	安全装置の点検	45
斜面での運転作業	9	ヘッドライトバルブの交換	46
子供	10	カッティングユニット構成品	47
メンテナンス	10	カッティングユニット装着	47
運搬	12	カッティングユニット	
プレゼンテーション	13	刈高、平行度、接地圧の調整	50
コントロール配置	14	カッティングユニットのサービスポジション	51
スロットルレバー	15	カッティングユニットのモデル	52
チョークレバー	15	ブレードの点検	52
走行ペダル	15	カッティングユニットの取り外し	53
カッティングユニット	16	ユニットフレームの取り外し	55
アクセサリ	16	ベルトの取り外し	55
ライトと電源コンセント	16	ベルトの取り付け	56
刈高調整レバー	17	カッティングユニット・ベルト交換	57
油圧式リフトレバー (プロフレックス21)	17	バイオクリッププラグの取り外し	58
カッティングユニット昇降レバー (機械式)	18	給油	59
駐車ブレーキ	19	給油スケジュール (プロフレックス18)	59
シート	19	給油スケジュール (プロフレックス21)	60
給油	19	概要	61
ディファレンシャルロック		ワイヤーへの給油	61
(プロフレックス21)	20	アクセサリ	61
油圧駆動ロック解除レバー	20	給油スケジュールに従った給油法	62
カウンター (アワーメーター)	20	1. フレーム内部のペダル機構	62
芝刈り作業の要領	21	2. フレーム内部のチェーン	63
油圧駆動ロック解除レバー	21	3. ディファレンシャルロック・ワイヤー	
運転	22	(プロフレックス21)	63
始動前に	22	4. エンジンオイル	64
エンジンの始動	22	5. 油圧駆動ロック解除レバー	66
ライダープロフレックス18の運転	24	6. トランスミッション	66
エンジンの停止 (プロフレックス18)	25	7. カッティングユニット	66
プロフレックス21の運転	26	8. シート	66
ディファレンシャルロック		9. スロットル/チョークワイヤー、	
(プロフレックス21)	27	レバーベアリング	67
エンジンの停止 (プロフレックス21)	27	10. 油圧オイルフィルター交換、	
メンテナンス	29	プロフレックス21	68
メンテナンス・スケジュール	29	11. オイルフィルターの交換	68
本機のカバー取り外し	32	12. 駐車ブレーキワイヤー	69
左側フェンダーカバー	33	13. トランスミッションオイルレベル	69
エンジン冷却エアーインテークの点検	33	トラブルシューティングガイド	71
エンジンとマフラーの清掃	34	保管	73
トランスミッションのエアーインテーク点検	34	冬季の保管	73
ステアリングワイヤーの点検と調整	35	サービス	74
スロットルワイヤーの点検と調整	36	電気システム	75
チョークワイヤーの点検と調整	36	油圧システム (プロフレックス21)	77
ディファレンシャルロックの調整		テクニカルデータ	78
(プロフレックス21)	36	EU (欧州連合) 適合宣言	81
油圧トランスミッションワイヤーの調整	37	整備記録	83

重要情報

本機をご使用になる前に取扱説明書を注意深くお読みいただき、操作方法やメンテナンスについて理解して下さい。

本書に記載されていないサービスに関するお問い合わせは、部品とサービスを提供できる正規販売代理店にお尋ね下さい。

はじめに

はじめに

お礼

ハスクバーナ製ライダーをご購入して頂き、ありがとうございます。ハスクバーナ製ライダーは、フロントに装着されたカッティングユニット、特許を取得している後輪ステアリングシステムを持ち、独創的に設計されています。ライダーは小さく制限された区域でも最大の効率を得られるように考慮されています。集中されたコントロールと油圧トランスミッションの操作ペダルもまた、この機械の特徴です。この取扱説明書をぜひ活用して頂き、本書（操作、サービス、メンテナンス等）に従うことにより、機械の寿命を延ばし中古機としての価値も伸ばすことになるはずです。

ライダーを売却される時は、新しいオーナーに取扱説明書を渡して下さい。取扱説明書の最終章は、整備記録が含まれています。すべての整備や修理が記録されていることを確認して下さい。しっかりと記載されたサービス記録は、季節毎のメンテナンスを減らし、中古機としての価値を高めます。ライダーを正規販売代理店に持ち込む際には、取扱説明書も一緒にお持ち下さい。

公道での運転と運搬

公道を運転あるいは運搬する時は、運転前に道路交通法を確認して下さい。機械を他の乗り物で運搬する時は、常に認証された装置を用い、機械がしっかりと固定されていることを確認して下さい。

牽引

油圧トランスミッション搭載機の場合、トランスミッションを傷めないために、必要であれば低速で牽引することが出来ます。

ご使用

この機械は、石、切り株などの障害物のない平らな通常の芝を刈るためのみを目的として設計されています。メーカーからの特殊なアクセサリを装着していたとしても同様です。

他の目的で使用することは間違いです。本書に記載される、運転、メンテナンス、修理に関しての事項は正確に守って下さい。

本機の特長や安全規則を理解した人のみが、機械の操作、メンテナンス、修理をしてください。

事故予防規則、その他一般的な安全規則、職業安全規定、道路交通法を遵守してください。

不当改造された機械による人体の怪我や機械の損傷などに関しては、一切の責任を負いかねます。

はじめに

良質なサービス

ハスクバーナ製品は、世界中でサービス体制の整っている販売店を通してのみ販売されています。これにより、お客様への最高のサポートやサービスを確実にしています。例えば、お客様への納入前に、販売店により機械の検品や調整が行われます。この取扱説明書のサービスジャーナルにある証明書をご参照下さい。スペアパーツが必要な時や、サービス問題、保証期間に関するご不明な点は、販売店にお尋ね下さい。

本取扱説明書は下記の 機械製造番号用：	エンジン	トランスミッション

製造番号

製造番号プレートは、フロント、シート下の左側に貼ってあります。製造番号プレートの上から次の内容が記載されています。

- ・ 機械タイプ名称
- ・ 製造工場番号
- ・ 機械製造番号

スペアパーツご注文の際、機械タイプ名称と機械製造番号が必要になります。

エンジン製造番号は、セルモーター前のクランクケース左側に、バーコードステッカーとして貼ってあります。エンジン製造番号は次の内容が記載されています。

- ・ エンジン製造番号（E/NO）
- ・ コード

部品ご注文の際は、これらが必要になります。

トランスミッションの製造番号は、車軸左側ハウジング前にバーコードステッカーとして貼ってあります。

- ・ タイプ名称はバーコード上部に、“K” から始まる文字で記載されています。
- ・ 製造番号はバーコード上部に、“S/N” から始まる文字で記載されています。
- ・ 製造工場タイプ番号はバーコード下部に、“P/N” から始まる文字で記載されています。

部品ご注文の際は、これらが必要になります。

シンボルマークの意味

シンボルとシール

これらのシンボルマークは機械の上と取扱説明書の中にあります。
意味を十分理解し、安全作業を行って下さい。



取扱説明書を読んで下さい。

R

後退

N

中立



速い



遅い



エンジン
停止



バッテリー



チョーク



燃料



オイル圧力



刈高



後進



前進



イグニッション



保護メガネと
耳栓着用



油圧駆動
ロック



油圧駆動
解除



駐車
ブレーキ



ブレーキ



警告！



騒音規制



危険！
ブレード回転中



警告！
機械転倒の危険



斜面の横断禁止



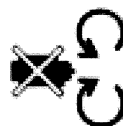
CE 承認マーク



立入禁止



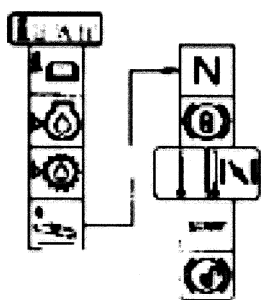
二人乗り禁止



ブレード回転中
危険！



カッティングユニット
なしの場合、低速運転の
こと。



始動方法

取扱説明書を読むこと。
エンジンオイルのレベル点検
HSTオイルのレベル点検
カッティングユニットの上昇
ニュートラル
駐車ブレーキ
冷機の場合チョーク使用
スタート
駐車ブレーキ解放

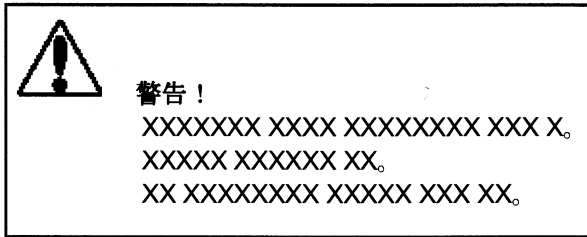


前進スピード制限ペダル
ニュートラル（中立）
後進スピード制限ペダル

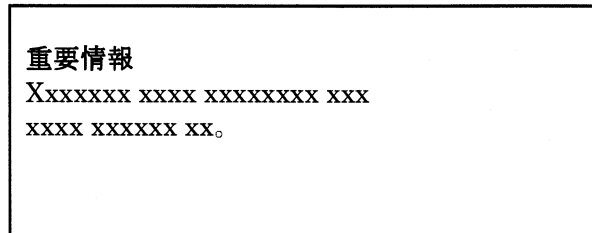


修理やメンテナンスの前に
エンジンを停止し、
イグニッション
ケーブルを取り外すこと。

シンボルマークの意味



このシンボルマークは、取扱説明書の手順に従わないと**人身傷害**の可能性があることを示しています。



このシンボルマークは、取扱説明書の手順に従わないと**機械を損傷する**可能性があることを示しています。誤った使用や間違った組み立てによっても同様の可能性があります。

シールには高圧の水をかけないで下さい。損傷したシールは機械使用前に交換して下さい。

安全な取り扱い

安全な取り扱い

安全のための説明です。注意深く読んで下さい。



警告！

このシンボルマークは、安全のために特に重要であることを示しています。身の安全と信頼性のある機械の操作のために説明されています。

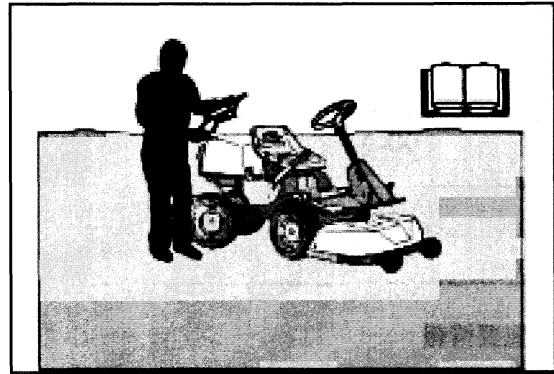
一般注意事項

- ・ 始動前に取扱説明書をよく読み、説明に従うこと。
- ・ 操作と停止方法を会得すること。また、安全ステッカーの意味を理解すること。
- ・ 取り扱い方法を会得した大人のみが操作すること。
- ・ エンジン始動時、運転時は機械の周囲に人がいないことを確認すること。
- ・ 動物や人が機械から安全な距離を保っていることを確認すること。
- ・ 作業現場に人が近づいてきたら、機械を停止すること。
- ・ 作業現場にある石、木片、おもちゃ、ワイヤー等はブレードによって飛散するので予め取除くこと。
- ・ 草の排出方向を人に向けないこと。
- ・ 草の排出口の清掃が終わるまでは、エンジンを停止し始動しないようにすること。
- ・ 作業者は危険や事故に対して責任があることを忘れないこと。
- ・ 人を運ばないこと（二人乗り禁止）。
- ・ 後ろや下を見て、後進すること。大小両方の障害物を見続けること。
- ・ ハンドルを切る前に走行速度を下げること。
- ・ カッティングをしない場合は、ブレードを停止すること。



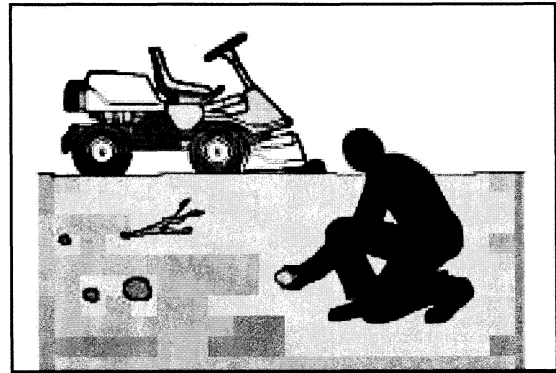
警告！

この機械は手足を切断する恐れや、異物を飛散する可能性があります。取扱説明書を遵守しないと重大な事故に至る恐れがあります。



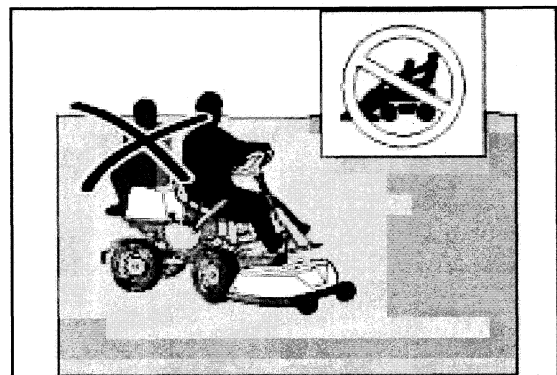
80116-047

運転前に取扱説明書を読むこと



80079-002

カッティングの前に石や木片等を取り除くこと



80116-052

二人乗り禁止

安全な取り扱い



警告！

エンジンの排気ガス成分は、癌、出生異常、その他生殖機能障害などを引き起こす恐れがあります。エンジンは無色有害な一酸化炭素を排出します。機械を密閉された場所で使用しないこと。

- ・ 日中あるいは十分に照明された状態でのみ本機を使用すること。地面の穴やその他凹凸などから、安全な距離を保つこと。その他可能性のある危険に注意を払うこと。
- ・ 疲れているとき、アルコール飲料を飲んだ後、視力や判断力の低下に影響を与える薬を服用している場合は、本機を使用しないこと。
- ・ 公道の近くで作業をするときや、公道を横切るときは十分に交通に注意を払うこと。
- ・ エンジンをかけたまま本機から離れないこと。常にブレードを停止し、駐車ブレーキを作動し、エンジンを停止し鍵を取り外すこと。
- ・ 子供やトレーニングを受けていない人には決して使用または修理をさせないこと。条例により使用者の年齢制限をしている場合もあります。



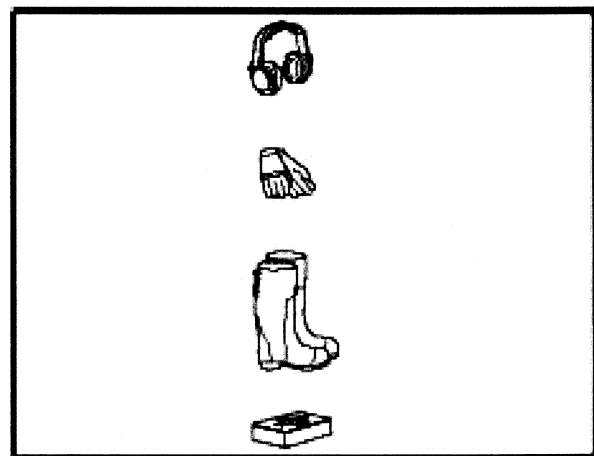
作業範囲内に子供の立ち入り禁止



警告！

機械を使用するときは必ず認証された保護用具を着用すること。事故が発生した場合、個人用保護用具はケガの危険性を取り除くことは出来ませんが、ケガの度合いを低減します。正しい装具の選択に際しては販売店にお尋ね下さい。

- ・ 聴力障害の危険性を低減するため、イヤーマフを着用すること。
- ・ 組立時や運転時は、認証された保護メガネやバイザーを常に着用すること。
- ・ 可動部品に挟まれないように、ゆったりとした衣服は着用しないこと。
- ・ 裸足で本機を使用しないこと。つま先に金属が入っている安全靴などを常に着用すること。
- ・ 本機を使用する際には、救急用具を手元に常備すること。



安全装具

安全な取り扱い

斜面での運転作業

斜面での運転作業は、操作不能になったり、機械が転倒して重大な人身事故が発生する危険性があります。十分注意して下さい。後進できなかったり、不安を感じたら、作業を中止して下さい。

重要情報

ユニットを上げたまま傾斜面を下り運転しないこと。

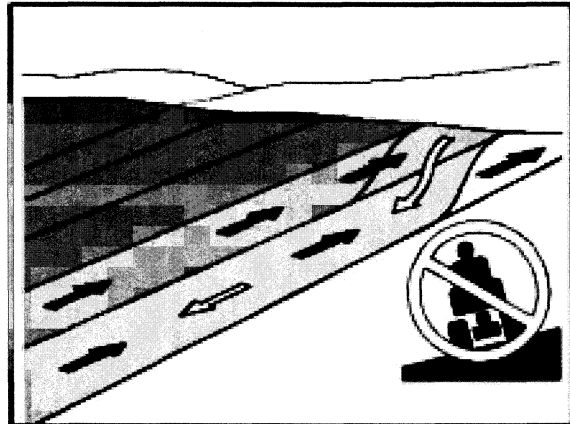
次の事項を守ること

- ・ 石や木片等の障害物は取り除くこと。
- ・ 上り下りでカッティングをすること。横切って作業をしないこと。
- ・ 傾斜角が15°以上の斜面では、機械を使用しないこと。
- ・ 斜面では始動や停止をしないこと。タイヤがスリップし始めたら、ブレードを停止して斜面をゆっくりと降りること。
- ・ 斜面では、滑らかにゆっくりと運転すること。
- ・ 急に速度や方向を変更しないこと。
- ・ 斜面での旋回はしないこと。ハンドルを切る場合はゆっくりと静かに、出来れば下側に向かって切ること。
- ・ 溝や穴あるいは小山は注意して避けること。凹凸の地面は機械が転倒し易く、背丈の高い草は障害物を隠します。低速ギヤでエンジブレーキを使用すること。
- ・ 低速で運転すること。急旋回しないこと。
- ・ 集草コレクターや他の装置を取付ける場合、特に機械の安定性に注意すること。
- ・ 端や溝あるいは土手の近くでカッティングをしないこと。車輪が穴に落ちたり、土手に乗り上げたりすると、機械が突然転倒してしまいます。
- ・ 濡れた草はカッティングをしないこと。滑りやすくタイヤがグリップを失い、機械が滑ります。
- ・ 片足を地面に置いてバランスをとらないこと。
- ・ シャーシを清掃するときは、端や溝近くで行わないこと。
- ・ 必要に応じて、安定性を増すためカウンターウエイトやホイールウエイトを取付けること。

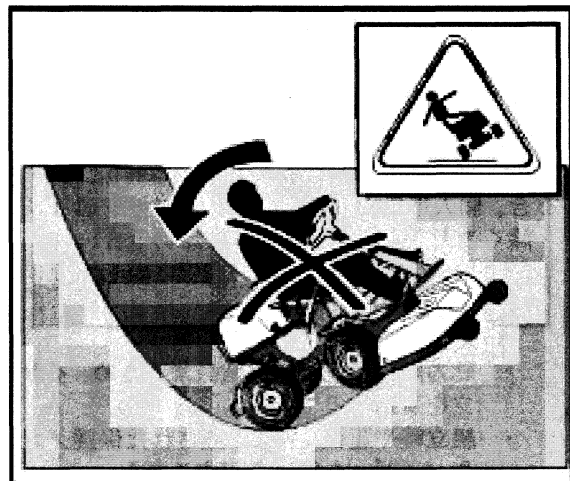
重要情報

斜面での作業時は、より安全な操縦性や安定性のために後輪にウエイトを取り付けることもあります。

不明な点は正規販売代理店に問い合わせ下さい。



上り下りでカッティングすること。横切って作業をしないこと。

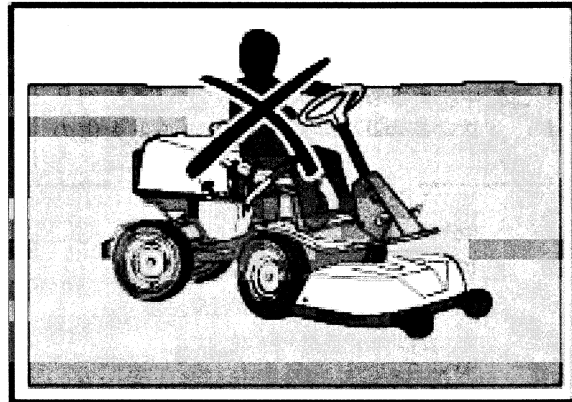


斜面での運転は特に注意が必要です。

安全な取り扱い

子供

- ・ ドライバーが近くの子供に注意を払わないと、悲惨な事故が起ります。子供は、機械や芝刈作業に興味を持つことがあります。子供は最後に見た所にいると推測しないこと。
- ・ 子供は芝刈現場から遠ざけて、他の大人の監視下に置くこと。
- ・ 子供が作業現場に近づいて来たら、機械を停止すること。
- ・ 後進走行する場合、小さい子供のために、後ろや下をよく見て行うこと。
- ・ 子供を機械に乗せないこと。機械から落ちて、重大な人身事故になったり機械操作の妨げになります。
- ・ 子供に機械を運転させないこと。
- ・ コーナー、ブッシュ、木あるいは他の障害物の近くは視界が悪くなるので、特に注意すること。

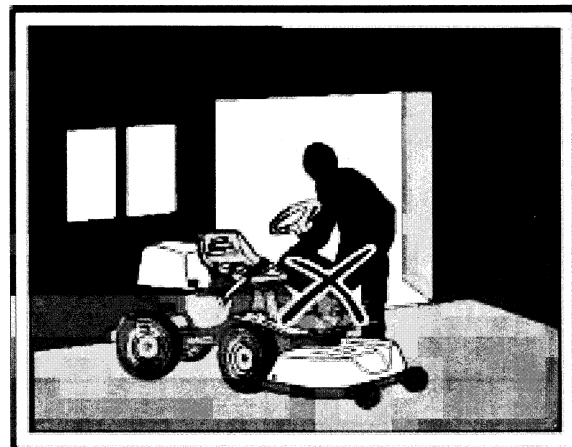


8010-089

子供の運転禁止

メンテナンス

- ・ エンジン进行停止すること。スパークプラグからイグニッションケーブルを抜いたり、調整やメンテナンス前にイグニッションキーを抜くことにより、不慮のエンジン始動を防ぐこと。
- ・ 屋内で給油しないこと。
- ・ ガソリンとその蒸気は有毒で、非常に高い可燃性があります。取り扱いには十分注意すること。怪我や火傷を引き起こす場合があります。
- ・ 規格品の容器に保管すること。
- ・ エンジン運転中は燃料タンクキャップを外したり、給油をしないこと。
- ・ エンジンが冷えてから給油をすること。禁煙のこと。裸火や火花の近くで給油をしないこと。
- ・ オイル、オイルフィルター、燃料、バッテリーは環境に配慮して取り扱うこと。リサイクル規則を遵守すること。
- ・ 感電に注意すること。エンジン始動中はケーブルに触れないこと。指でイグニッションシステムのテストをしないこと。



8010-090

屋内で給油禁止

安全な取り扱い



警告！

運転中、エンジンと排気及び油圧系統部品は非常に高温になります。触れると火傷の危険があります。

- ・ 燃料系統で漏れが発生した場合、問題が解決されるまでエンジンを始動しないこと。
- ・ 機械と燃料は、燃料あるいは蒸気の漏れにより爆発などの危険がない場所に保管すること。
- ・ 機械を使用する前は、常に燃料のレベルをチェックすること。エンジンや太陽の熱によって燃料が膨張するので、タンクを満タンにしないこと。
- ・ 燃料を入れ過ぎないこと。燃料を機械にこぼしてしまった場合、燃料を拭き取り完全に乾燥してからエンジンを始動すること。服などに燃料をこぼしてしまった場合、服を着替えること。
- ・ エンジンルームの作業を行う前には、常にエンジンを冷やすこと。

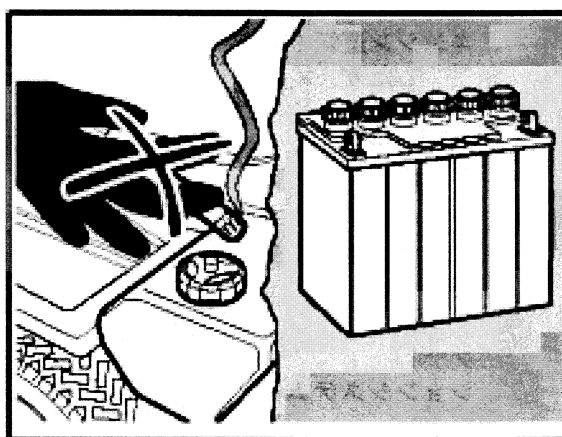


警告！

バッテリーは鉛と鉛化合物と薬品を含んでおり、それらは癌、出生異常、その他生殖機能障害などを引き起こす恐れがあります。バッテリーに触れた後は手を洗うこと。

- ・ バッテリー液の取り扱いには十分注意すること。バッテリー液が皮膚に触れると火傷をします。皮膚にバッテリー液をこぼしてしまった場合、直ちに水で洗い流すこと。
- ・ バッテリー液が目に入ると失明の恐れがありますので、直ちに病院へ行くこと。
- ・ バッテリーのメンテナンスには注意すること。バッテリーの中で爆発性ガスが発生します。バッテリー取り扱い中は禁煙とし、裸火や火花がある場所では取り扱いをしないこと。最悪の場合、バッテリーは爆発し、重大な怪我をする恐れがあります。
- ・ すべてのナットとスクリューが正しく締結され、装置が良い状態であることを確認すること。

- ・ 安全装置は改造しないこと。定期的に正しく動作するか、点検すること。保護プレート、保護カバー、安全スイッチあるいはその他保護装置が取り外されていたり不良の場合は、機械を運転しないこと。
- ・ ガバナー設定の変更をしないこと。そしてエンジン過回転を避けること。エンジン過回転は、エンジン構成部品の損傷につながります。



バッテリーや燃料の近くでは禁煙

安全な取り扱い

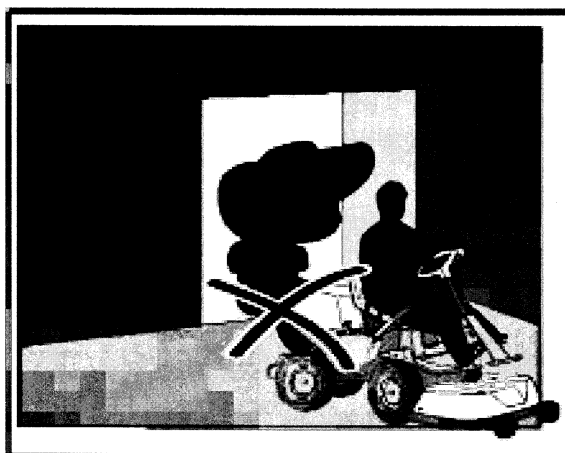
- ・ 室内や換気が不十分な場所で、機械を使用しないこと。排気ガスは無色無臭の有毒ガスの一酸化炭素を含んでいます。
- ・ 何かを引いてしまったり衝突してしまった場合は、運転を停止して点検すること。必要であれば始動する前に修理すること。
- ・ エンジン回転中は調整をしないこと。
- ・ 機械は安全のためにテストされることがあります。メーカーが供給あるいは推奨した装置のみが承認されています。
- ・ ブレードの刃は鋭いので怪我をする恐れがあります。ブレード取り扱い時は、ブレードを覆うか保護手袋を着用すること。
- ・ 定期的に駐車ブレーキを点検すること。必要に応じて調整とメンテナンスを行うこと。
- ・ より高品質な芝刈りが要求される場合、地形を十分に理解してからマルチングユニットを使用すること。
- ・ 機械に付着した芝、落ち葉、その他瓦礫などを取り除き、火災を予防すること。保管する前に機械を冷却すること。

運搬

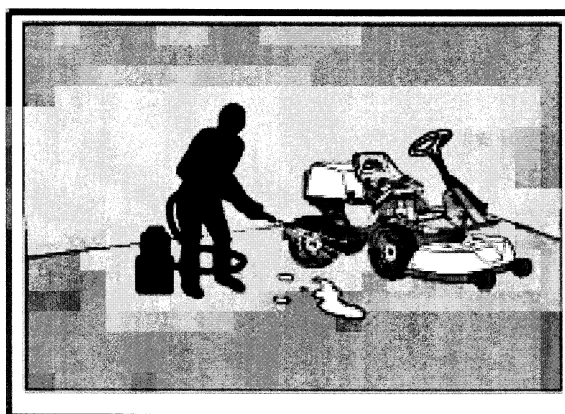
重要情報

輸送中、機械を固定する際に駐車ブレーキは十分ではありません。輸送用機関にしっかりと固定すること。

- ・ 本機は重たいので挟まれないように注意すること。本機を車の荷台やトレーラーに載せ下ろす際には、十分注意すること。
- ・ 本機運搬時は、認可されたトレーラーを使用すること。駐車ブレーキを作動し、運搬時はストラップ、チェーン、ロープなどの固定具でしっかりと本機を固定すること。
- ・ いかなる道路を運搬あるいは運転する前に、地域の交通規則を確認すること。



屋内での運転禁止



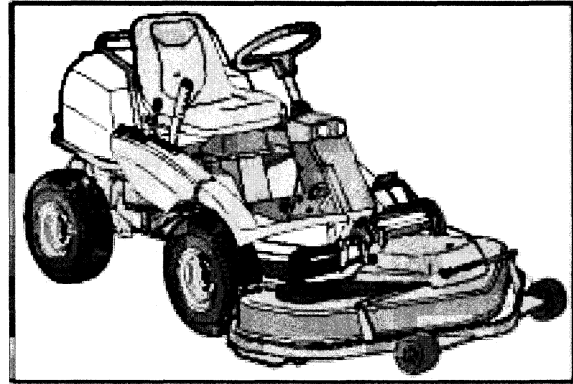
定期的に清掃すること

プレゼンテーション

プレゼンテーション

最高品質を誇る製品をお買い求め頂きありがとうございます。この取扱説明書では、ライダープロフレックス18、ライダープロフレックス21について説明しています。

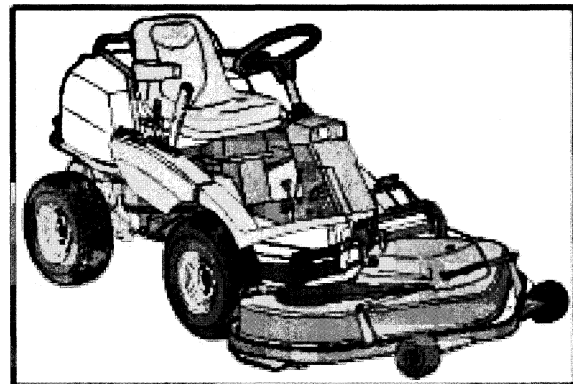
ライダープロフレックス18は、18馬力のカワサキV型2気筒4ストロークエンジンが搭載されています。



プロフレックス18

ライダープロフレックス21は、21馬力のカワサキV型2気筒4ストロークエンジンが搭載されています。

ライダープロフレックス21は、ギアボックスとディファレンシャルロックからのパワーステアリングと油圧リフトを装備しています。

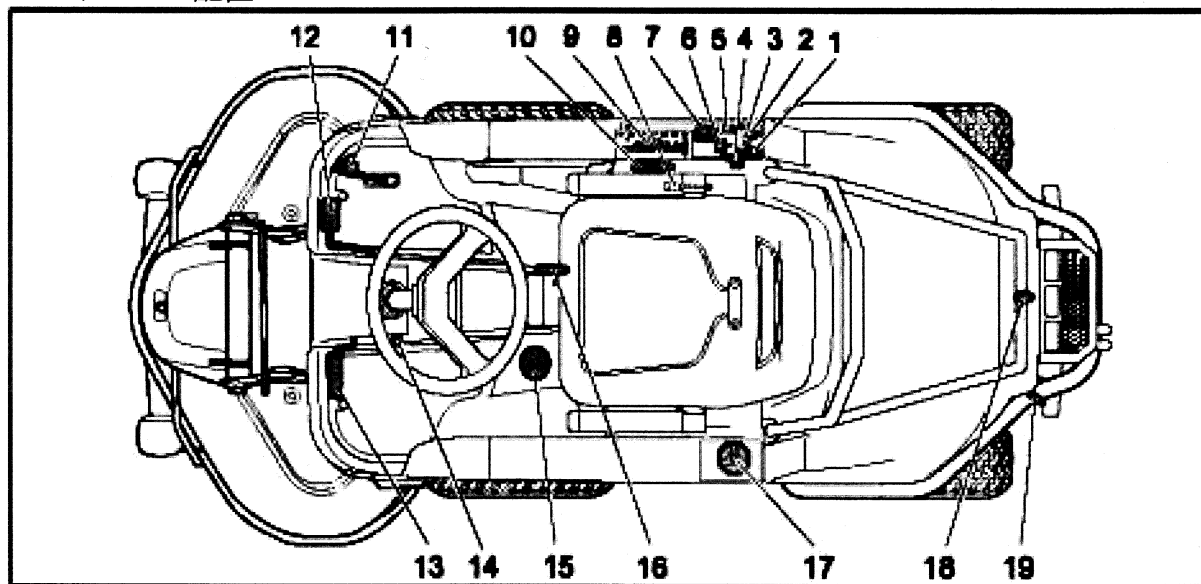


プロフレックス21

どちらのモデルも、エンジンからのトランスミッションは、油圧式ギアボックスとなっており、フットペダルによって無段階に速度を制御できます。前進用と後進用のペダルがそれぞれあります。ライダープロフレックス18、プロフレックス21共に、ヘッドライトが装備されています。

プレゼンテーション

コントロール配置

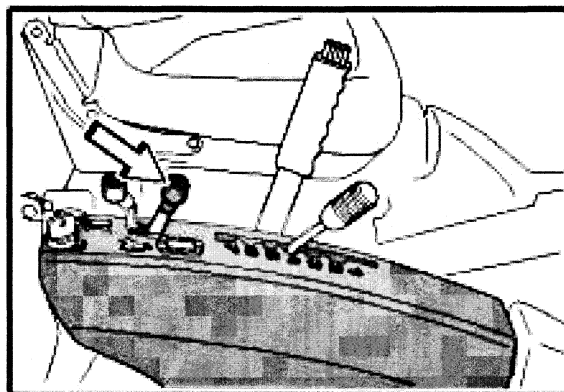


- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 電源コンセント | 11. 後進ペダル |
| 2. イグニッションキー (スタータースイッチ) | 12. 前進ペダル |
| 3. 電源コンセント用スイッチ | 13. ブレーキペダル |
| 4. チョークレバー | 14. 駐車ブレーキ用ロックボタン |
| 5. ライトスイッチ | 15. ディファレンシャルロックペダル
(プロフレックス 21) |
| 6. スロットルレバー (エンジン回転制御) | 16. シート調整レバー |
| 7. カウンター (アワーメーター) | 17. 燃料キャップ |
| 8. 油圧式リフトレバー (プロフレックス 21) | 18. フードロック |
| 9. 刈高調整レバー | 19. 油圧駆動ロック解除レバー |
| 10. カッティングユニット昇降レバー
(ロックボタン付) | |

プレゼンテーション

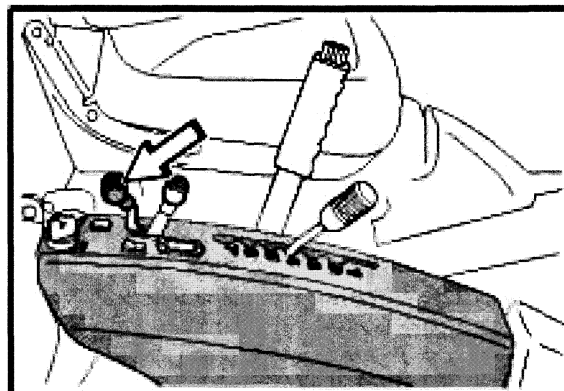
スロットルレバー

スロットルレバーはエンジン速度を制御し、それによって、ブレードの回転スピードも制御します。エンジン速度の増減は、レバーを前方にあるいは後方に動かします。スパークプラグにカーボンが堆積するため、長時間のアイドリングは避けます。



チョークレバー

チョークレバーは、冷機始動の場合に使用され、エンジンの燃料混合気を濃くします。冷機始動の場合、レバーを後方に端の位置まで動かします。



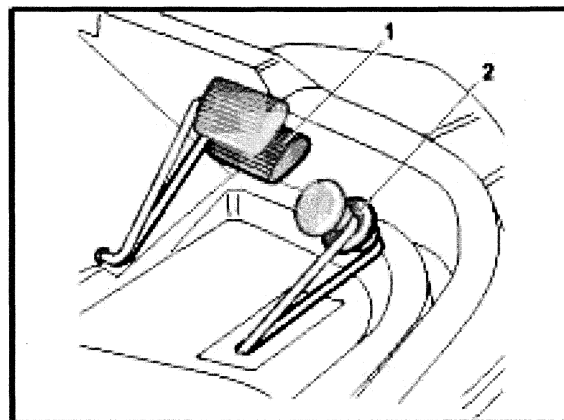
走行ペダル

本機の手速度は2個のペダルで無段階に制御されます。ペダル(1)は前進走行用で、ペダル(2)は後進走行用です。



警告！

低木や茂みで芝刈りをする際には、枝がペダルに干渉しないことを確認すること。



プレゼンテーション

カッティングユニット

ライダープロフレックスは112cm刈幅のコンビ112デッキと、122cm刈幅のコンビ122デッキを装着することができます。

バイオクリッププラグを装着してバイオクリップユニットとして機能する一方、バイオクリッププラグを取り外すことにより後方排出としても使用できます。

バイオクリップユニットは芝を何度も切断して細かくし、肥料として戻します。

後方排出は芝を細かく切断することなく、排出します。

アクセサリー

アクセサリーに関しては別冊の説明書（カタログ）に記載されています。アクセサリー必要時には、正規販売代理店までお問い合わせください。ライダープロフレックス用のアクセサリー（日本で取り扱っていないものも含まれます）：

- ・ ブラシ
- ・ スノーブレード
- ・ ホイールウェイト
- ・ 雪用チェーン
- ・ ホー形鉄（レーキ）
- ・ エッジトリマー（エッジャー）
- ・ グラベルハロー（砂利道整備用レーキ）
- ・ トレーラー
- ・ スプレッダー

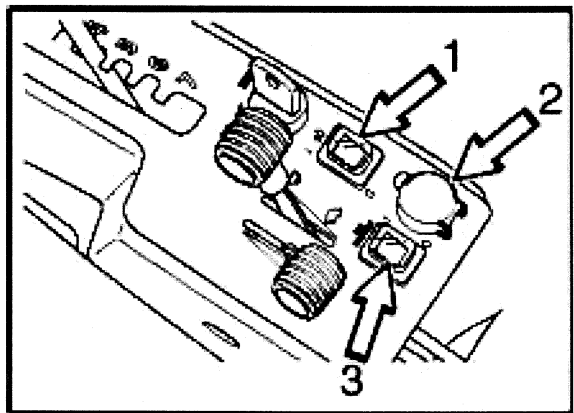
ライトと電源コンセント*

ライトは、コントロールパネルのスイッチ（1）により入り切りされます。

シートヒーターあるいは携帯電話充電器として、電源コンセント（2）を使用します。

電源コンセントは、コントロールパネルのスイッチ（3）により入り切りされます。電源電圧は12Vです。

* 電源コンセントで使用できない機器もあります。



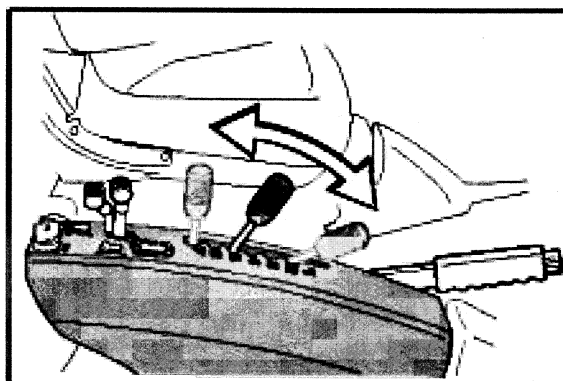
8705-540

プレゼンテーション

刈高調整レバー

このレバーにより、芝の刈高を7段階に調整することができます。

均一な刈高を得るために、左右フロントタイヤ空気圧を60kPaにすることが重要です。



8000-527

油圧式リフトレバー

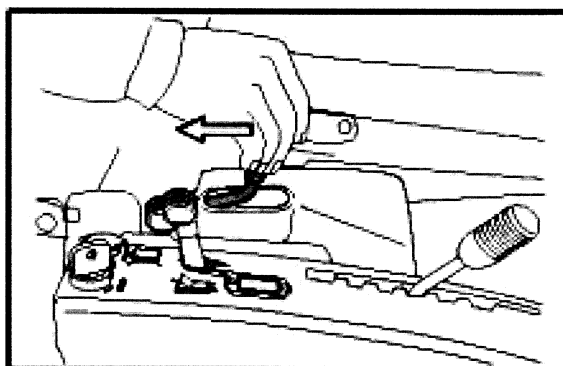
(プロフレックス21)

リフトレバーは油圧により、カッティングユニットを昇降することに使用します。

デッキ移動用位置では、ブレードブレーキが自動的に働き、5秒以内にブレードは停止します。

カッティングユニット上昇（移動用位置）

移動用位置にするには、レバーを後方に引きます。ユニットが上昇し、ブレード回転は停止します。カッティングユニット昇降レバーを使用して、必要であればカッティングデッキをしっかりと固定します。



8000-528

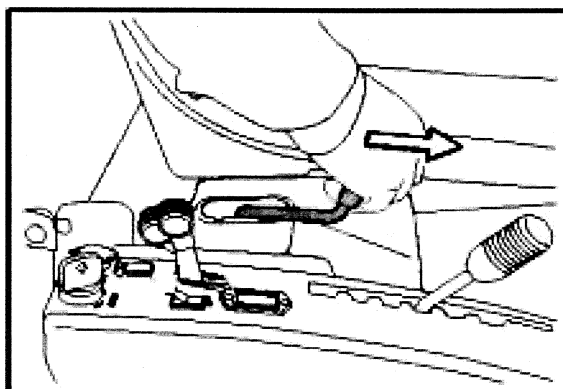
油圧式レバーによるカッティングユニット上昇

ユニットの下降（芝刈り位置）

カッティングユニット昇降レバーによりカッティングユニットが移動用位置に固定されている場合、レバーを前方に下ろし芝刈り作業位置にします。

油圧式リフトレバーを前方に倒し、芝刈り位置にします。ユニットが下降し、ブレードが回転し始めます。

油圧シリンダーが外側位置であることを確かめるために、レバーを前方位置に半分程度保持します。



8000-529

油圧式レバーによるカッティングユニット下降

プレゼンテーション

カッティングユニット昇降レバー (機械式)

このレバーは、油圧システムが不可能になった場合、カッティングユニットを昇降させるバックアップのレバーとして使われます。また、このレバーはカッティングユニットを移動用位置に機械的に固定する場合に使用されます。

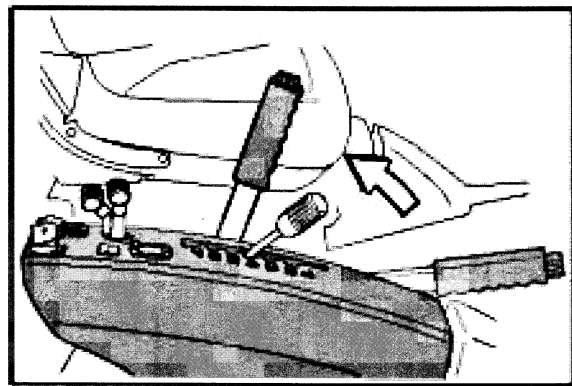
エンジンを始動する際にこのレバーは使用されます。もし、ユニットが芝刈位置でエンジンが停止していた場合、ユニットを上昇させてエンジンを始動できるようになります。

移動用位置では、ブレードブレーキは自動的に作動し、ブレードは約5秒以内に停止します。

移動用位置

レバーをロックされる位置まで後方に引くと、移動用位置になります。

ユニットは上昇しブレードは回転停止します。

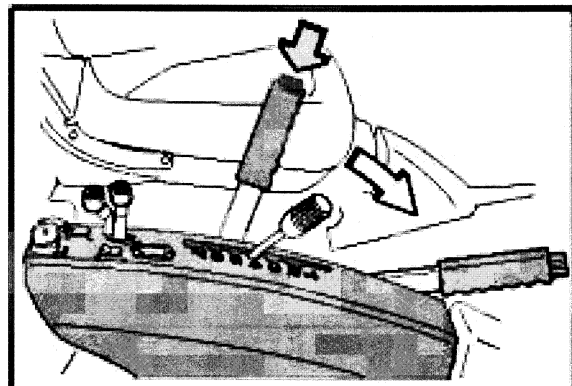


カッティングユニット昇降レバーによる上昇

芝刈位置

ロックボタンを押し込み、レバーを前方に移動することにより芝刈位置になります。

ユニットが下降しブレードは回転し始めます。



カッティングユニット昇降レバーによる下降

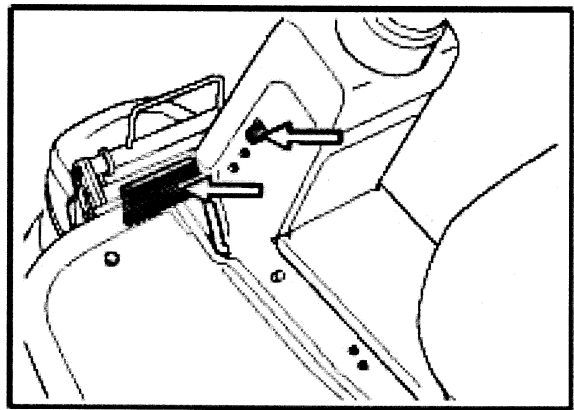
プレゼンテーション

駐車ブレーキ

駐車ブレーキは下記の手順で作動させます：

1. ブレーキペダルを一杯に踏み込みます。
2. ステアリングコラム横にある駐車ブレーキロックボタンを押します。
3. 駐車ブレーキロックボタンを押したまま、ブレーキペダルを放すと駐車ブレーキがかかります。

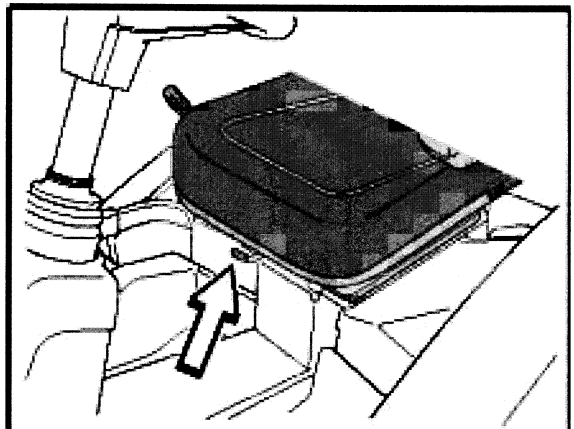
解放する場合、ブレーキペダルを踏み込むと自動的にロックが外れます。



シート

シート前端にジョイント部があり、前方に倒すことができます。

シートの位置は、前後に調整することができます。シートの左側の前端にあるレバーを動かしてシートの位置を調整します。



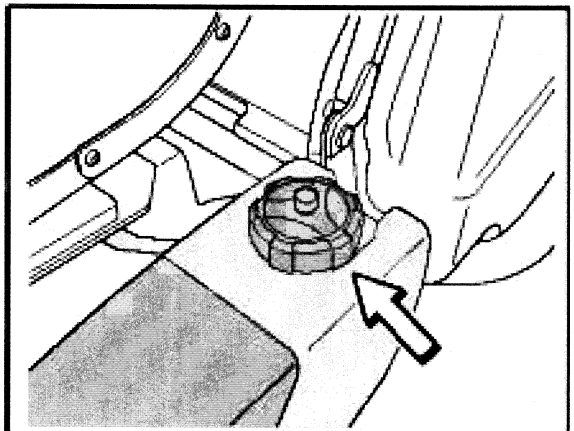
給油

オクタン価 87 以上の無鉛ガソリン（オイル混合ではありません）を使用して下さい。タンク一杯に給油せず、最低 2.5 cm の膨張のためのスペースを設けてください。



警告！

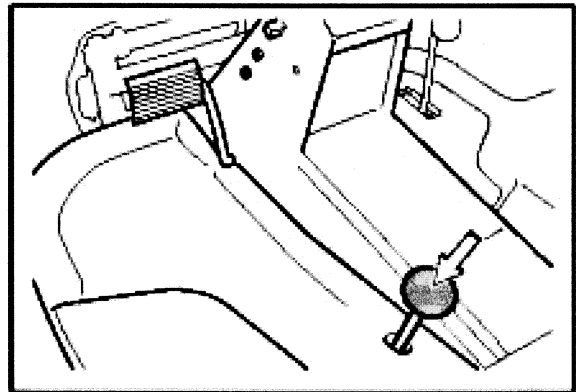
燃料は非常に可燃性が高いので、注意を払い屋外で給油すること（“安全な取り扱い”参照）。



プレゼンテーション

ディファレンシャルロック (プロフレックス21)

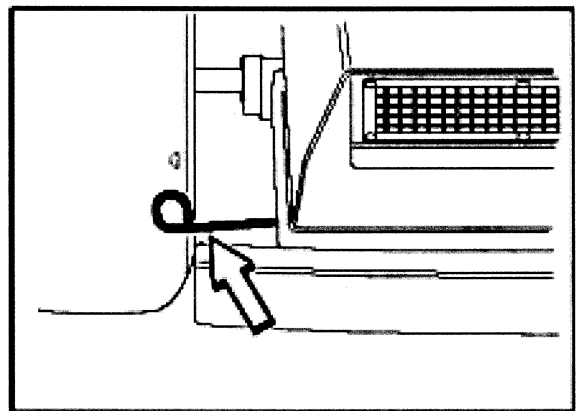
ディファレンシャルロックは2つのドライブホイールを連結しますので、ホイールは空転しません。
ディファレンシャルロックを作動するにはペダルを押します。



油圧駆動ロック解除レバー

油圧駆動ロック解除レバーは、エンジン不動時にライダーを動かす際に使用します。

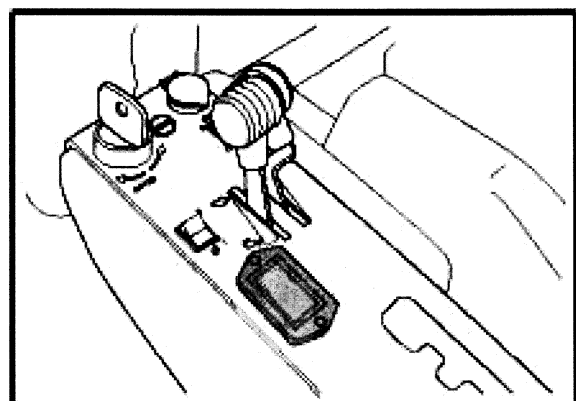
- ・ レバー引き出し時、駆動は解除されます。
- ・ レバー押し込み時、駆動は接続されます。



カウンター (アワーメーター)

カウンター (アワーメーター) は、何時間エンジンが運転しているかを表示します。エンジンが回転しているときにカウントされますが、イグニッションがオンでエンジンが停止しているときはカウントされません。

末尾の数字 (最小単位) は6分 (1/10時間) です。



運転

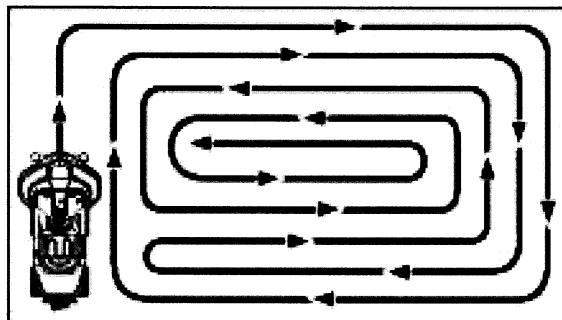
芝刈り作業の要領



警告！

ブレードにより飛散する恐れがあるため、芝面にある石やその他異物を取り除くこと。

- ・ 岩や動かせない障害物には予め印を付けブレードや本機の衝突を防止して下さい。
- ・ 最初は高い刈高調整からスタートし、徐々に刈高を下げて最終の刈高が得られるよう作業します。
- ・ 最良の作業結果を得るためには、エンジン回転数を高くしてブレード回転を高速に保ち、遅い走行スピードで作業して下さい。芝の背丈がそれほど高くなく、密集していない場合は、走行スピードを上げるか、エンジンスピードを下げても作業することができます。



8007-212

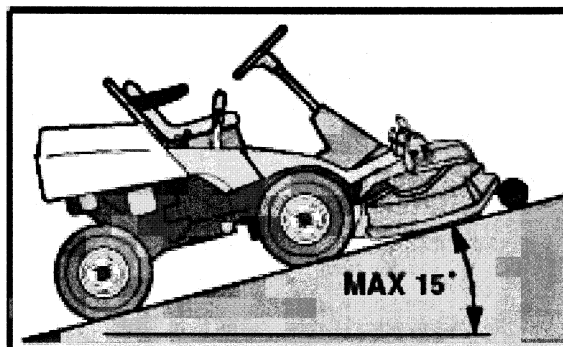
芝刈りのパターン



警告！

15度以上の傾斜面では決してライダーを運転しないこと。斜面では上り下りでカッティングし、決して横切らないこと。急な方向転換は避けること。

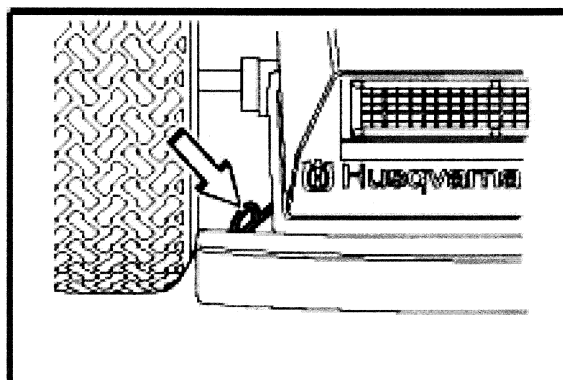
- ・ 芝刈り作業は、頻繁に行うと良い結果が得られます。芝面は均一になり、刈られた草は均一に芝面に飛散されます。このため速い走行スピードで作業ができるので、トータル時間は短縮されます。
- ・ 濡れた芝面の作業は避けて下さい。車輪が芝面に沈むので良い作業結果が得られません。
- ・ 作業終了後は、毎回必ず、カッティングユニットの下側を必ず水で洗浄して下さい。カッティングユニットは持ち上げてサービスポジションにして清掃して下さい。
- ・ マルチングにて作業する場合、より頻繁に芝を刈ることが大切です。



8014-104

油圧駆動ロック解除レバー

エンジンを停止して本機を移動する場合、このレバーを後方に引っ張って、ロックを解除します。



8004-307

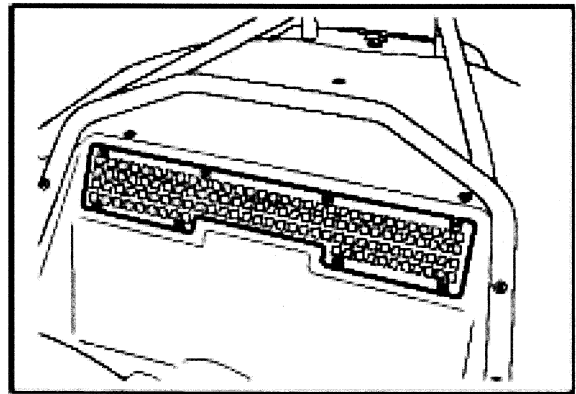
運転

運転

重要情報

シート後のエンジンカバーにあるエアークリーナーは、衣服、落ち葉、草あるいはゴミなどにより、決してふさがれないようにすること。

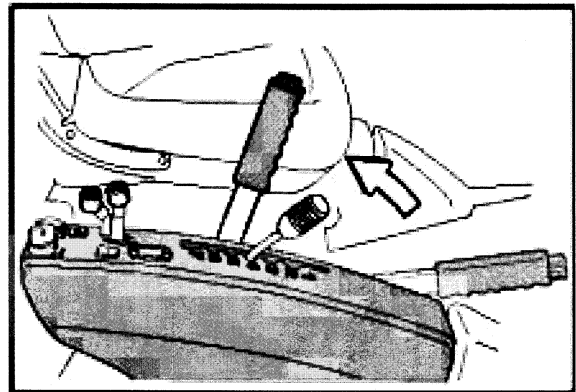
エンジンの冷却不良につながりエンジンが損傷する恐れがあります。



6026-189

始動前に

- ・ 7ページの“安全な取り扱い”と、13ページの“プレゼンテーション”をよく読んで下さい。
- ・ 29ページの“メンテナンス・スケジュール”に基づき日常のメンテナンスを行って下さい。
- ・ シートの位置を調整して下さい。

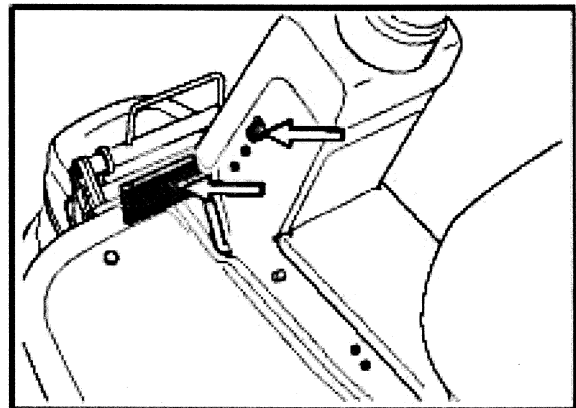


6026-324

エンジンの始動

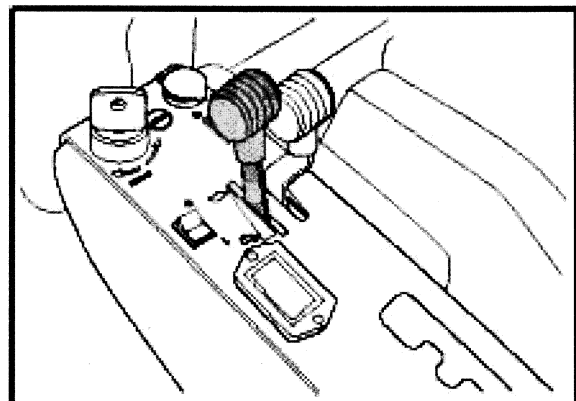
1. カuttingユニット昇降レバー（機械式）を後方に引き戻して、カuttingユニットを上げて移動の位置にします。

2. 駐車ブレーキをかけます。



6026-328

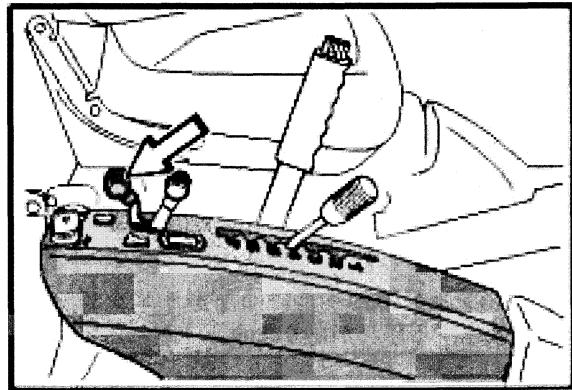
3. スロットルレバーを中間の位置にします。



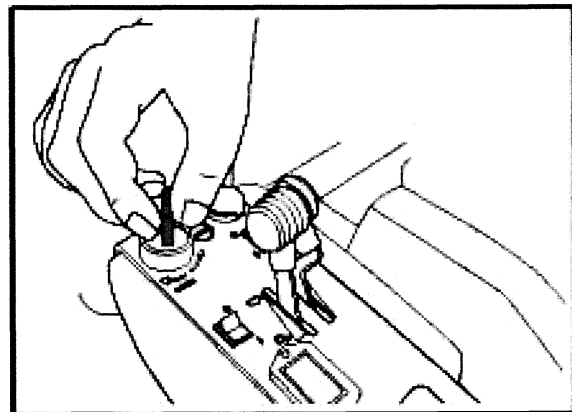
6026-562

運転

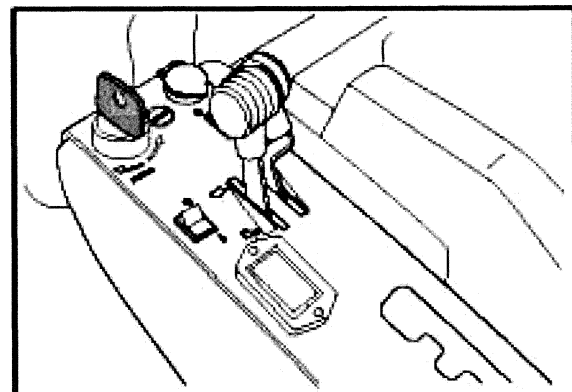
4. 冷機始動の場合、チョークレバーを後方に端の位置まで動かします。



5. イグニッションキー（スタータースイッチ）を始動（START）の位置まで回します。



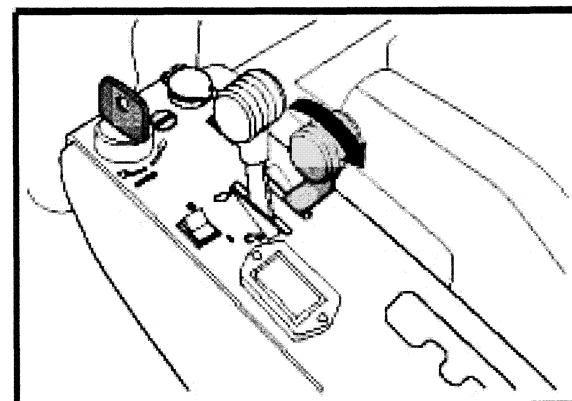
6. エンジンが始動したら、直ちにイグニッションキー（スタータースイッチ）を放して、中間の位置まで戻して下さい。



重要情報

スターターを一度に5秒以上回さないこと。エンジンがかからない時は、約15秒待ってから再びスターターを回すこと。

7. エンジンが始動してから、チョークレバーをゆっくりと前方へ押し戻します。



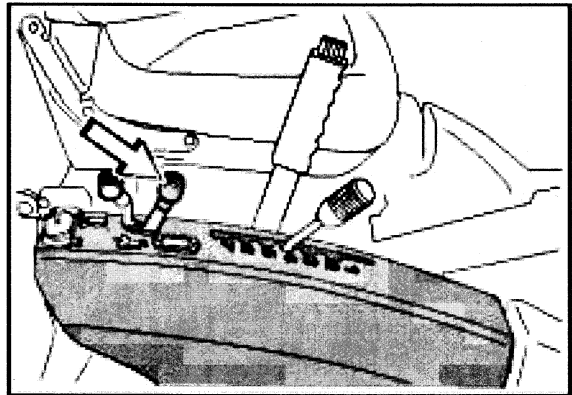
運転

8. スロットルレバーを所要の位置にセットします。激しい負荷をかける前に、3～5分ほど“ハーフスロットル”で適度に運転させます。



警告！

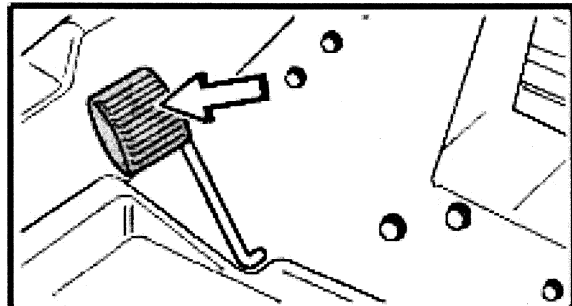
室内や閉め切った場所、あるいは換気の悪い場所ではエンジンを運転しないこと。エンジンの排気ガスは有毒な一酸化炭素を含みます。



8006-639

ライダープロフレックス18の運転

1. ブレーキペダルを一杯に踏み込み駐車ブレーキを解放します。



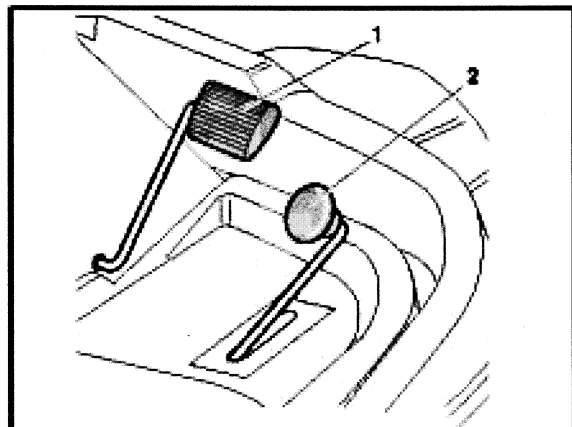
8007-258

2. 注意しながら、所要の速度になるまでペダルの1つを踏み込みます。
ペダル（1）は前進走行、ペダル（2）は後進走行用です。



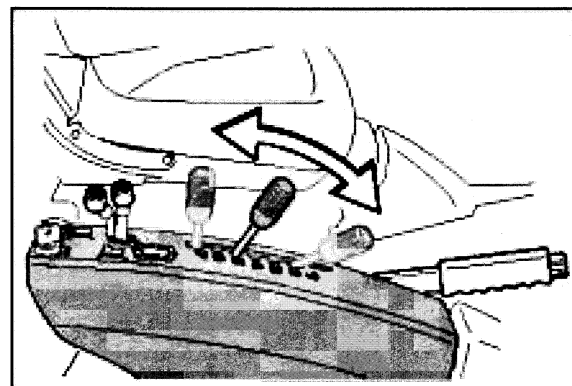
警告！

室内や閉め切った場所、あるいは換気の悪い場所ではエンジンを運転しないこと。エンジンの排気ガスは有毒な一酸化炭素を含みます。



8007-259

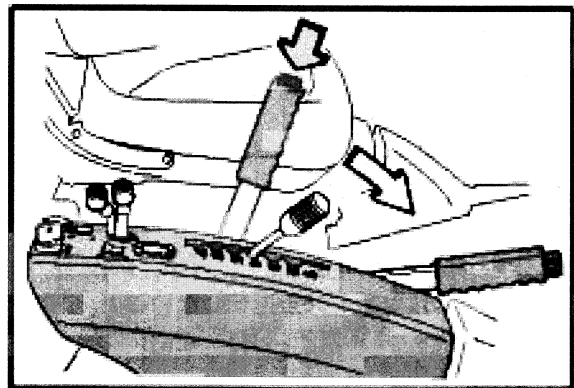
3. 刈高調整レバーで所要の刈高（1～7段階）にセットします。



8008-567

運転

4. カuttingユニット昇降レバー（機械式）のロックボタンを押し、レバーを前方へ倒します。Cuttingユニットが下降しスタートします。

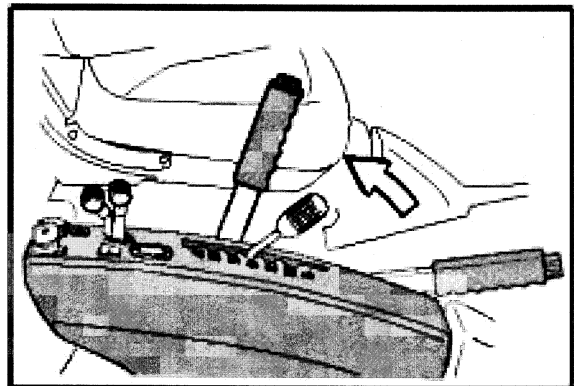


0000-0000

エンジンの停止（プロフレックス18）

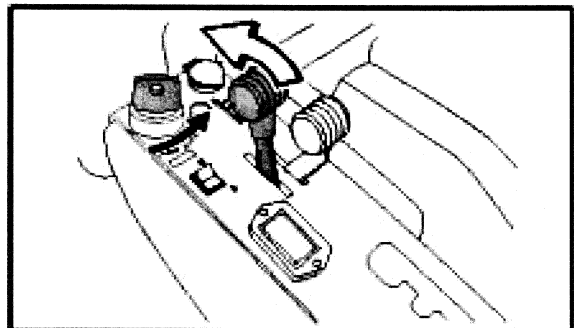
激しい作業の場合、エンジンを停止する前にアイドリング運転を1～2分間行い、エンジンを冷却して下さい。スパークプラグへのカーボン堆積を防ぐため、長時間のアイドリングは避けて下さい。

1. カuttingユニット昇降レバー（機械式）を後方に引き戻してCuttingユニットを上げます。
Cuttingユニットが下がっている場合は、安全回路が働きエンジンを始動することができません。



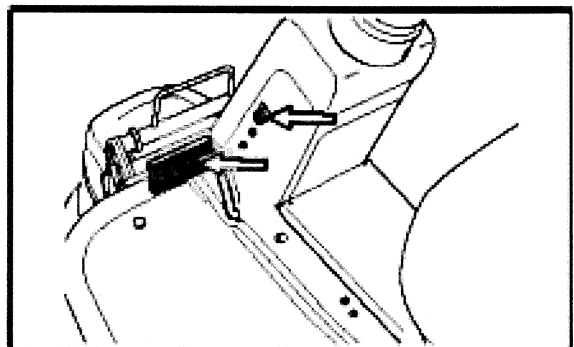
0000-0000

2. スロットルレバーを“MIN”位置に動かします。イグニッションキー（スタータースイッチ）を“STOP”に回します。



0000-0000

3. 本機が停止したら駐車ブレーキをかけます。

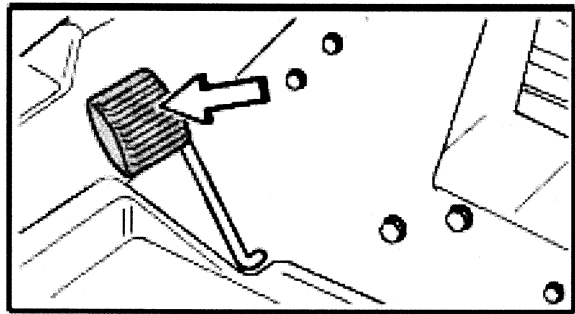


0000-0000

運転

プロフレックス 21 の運転

1. ブレーキペダルを一杯に踏み込み駐車ブレーキを解放します。

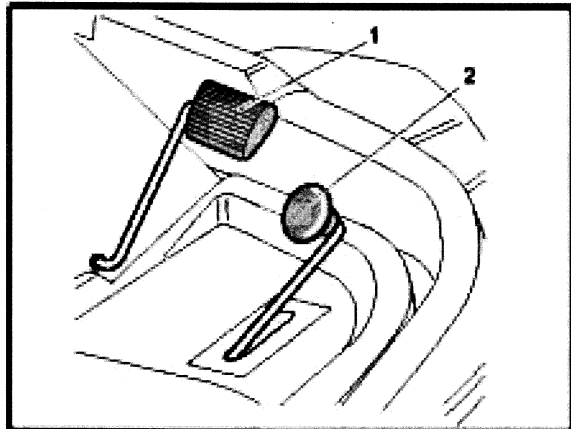


2. 注意しながら、所要の速度になるまでペダルの1つを踏み込みます。
ペダル（1）は前進走行、ペダル（2）は後進走行用です。

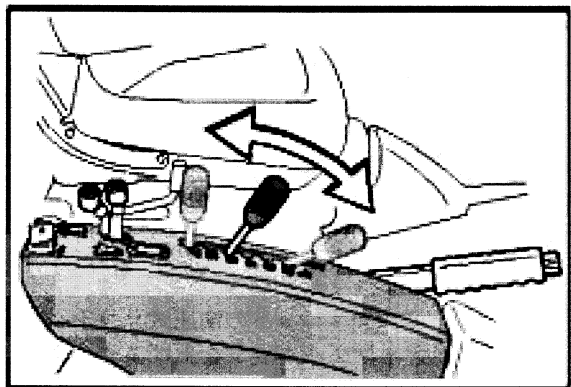


警告！

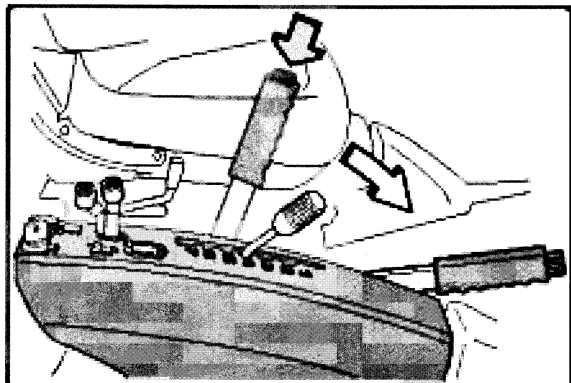
室内や閉め切った場所、あるいは換気の悪い場所ではエンジンを運転しないこと。
エンジンの排気ガスは有毒な一酸化炭素を含みます。



3. 刈高調整レバーで所要の刈高（1～7段階）にセットします。



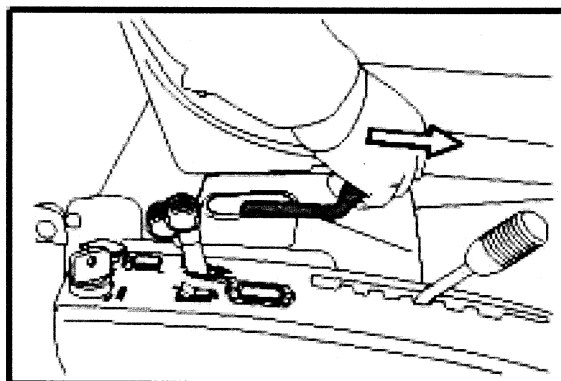
4. カuttingユニット昇降レバー（機械式）のロックボタンを押し、レバーを前方へ倒します。カuttingユニットが下降しスタートします。



運転

5. もしカッティングユニットが完全に下がっていない、あるいはブレードが回転しない場合は、カッティングユニットを油圧式リフトレバーで完全に下げます。

油圧シリンダーが外側位置であることを確かめるために、レバーを前方位置に半分程度保持します。

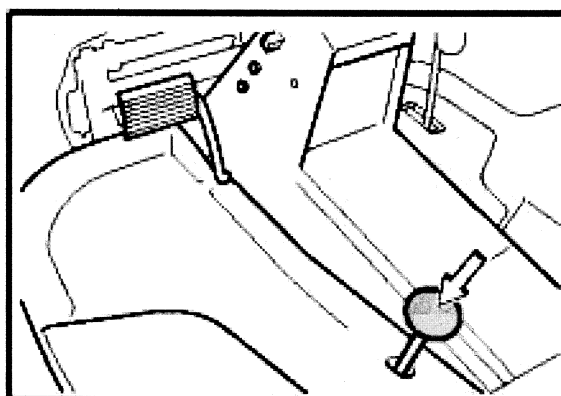


8009-008

ディファレンシャルロック (プロフレックス 21)

ディファレンシャルロックは左側のペダルを経由して運転中に使用されます。スタックさせないためには、障害物に差し掛かる前に素早く作動させます。

1. 必要な場合、ペダルを踏み込みディファレンシャルロックを接続します。もしホイールが空転したら、ドライブペダルを少し上にします。
2. ペダルが放されるとディファレンシャルロックは解除されます。ペダルが通常位置に戻るまで、小さなステアリングの動き、あるいは若干の後進を行って下さい。

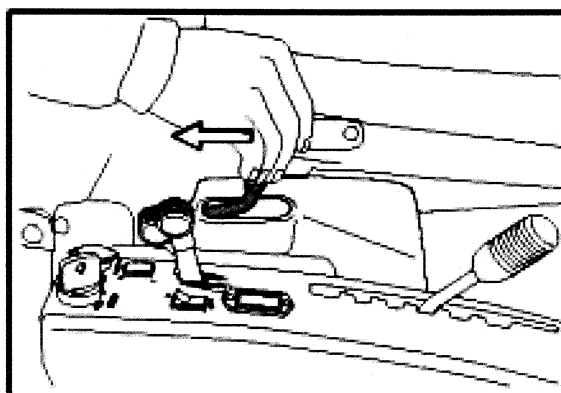


8009-009

エンジンの停止 (プロフレックス 21)

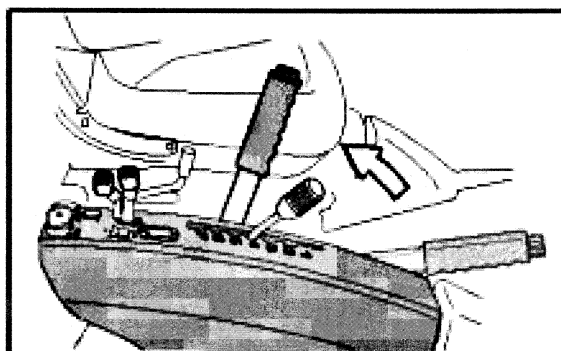
激しい作業の場合、エンジンを停止する前にアイドリング運転を1～2分間行い、エンジンを冷却して下さい。スパークプラグへのカーボン堆積を防ぐため、長時間のアイドリングは避けて下さい。

1. カッティングユニットの油圧式リフトレバーでカッティングユニットを上げます。



8009-010

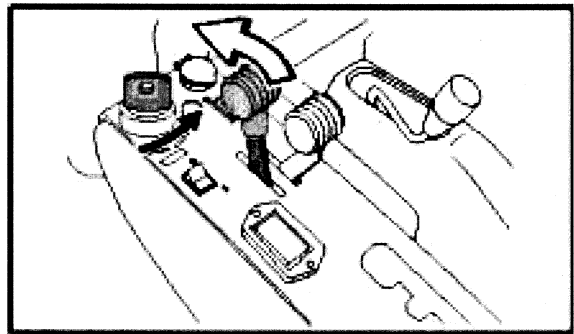
必要であれば、カッティングユニット昇降レバー（機械式）後方に引き戻してカッティングユニットを上げます。カッティングユニットが下がっている場合は、安全回路が働きエンジンを始動することができません。



8009-011

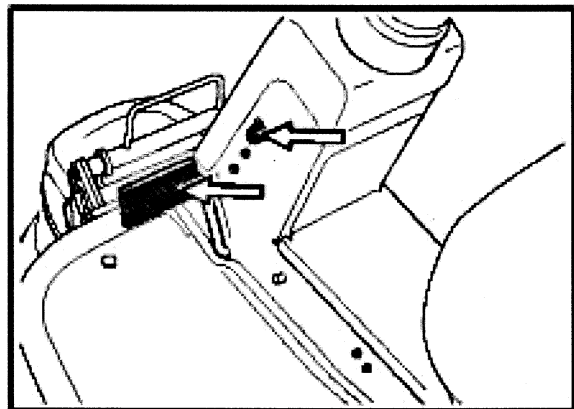
運転

2. スロットルレバーを“MIN”位置に動かします。イグニッションキー（スタータースイッチ）を“STOP”に回します。



0920-044

3. 本機が停止したら駐車ブレーキをかけます。



0320-328

メンテナンス

メンテナンス

メンテナンス・スケジュール

下記に記載されたメンテナンス・スケジュール表にしたがって、本機のメンテナンスを行って下さい。

4) の項目は、正規販売代理店に依頼して下さい。

●＝本書に記載あり ○＝本書に記載なし									
メンテナンス	ページ	日常点検		毎週の点検	最低1年に1回の点検	メンテナンス間隔時間 (交換時間)			
		使用前	使用后			25時間	50時間	100時間	300時間
燃料とオイル漏れ点検	-	○							
駐車ブレーキ点検	38	●							
エンジンオイル量点検 (給油毎)	64	●				●			
燃料ポンプのエアーフィルター点検	42	●							
シートの安全スイッチ点検	45	●							
カuttingユニット昇降レバーの安全スイッチ点検	45	●							
ペダルの安全スイッチ点検	45	●							
エンジン冷却エアーインテークの点検・清掃	33		●			●			
カuttingユニットの点検：	50		●						
・ブレード締結	52		●						
・ブレードの状態 (鋭さ、形状など)	52		●						
ステアリングケーブルの点検 (遊びなど)	35		●						
締結状態の点検 (スクリュウ、ナットなど)	-		○						
エンジン、ブレードからの異音点検	22		●						
カuttingユニット下部の清掃	51		●						
トランスミッションの冷却エアーインテーク清掃	34		●			●			
バッテリー液レベルの点検	43			●					
トランスミッションオイルレベルの点検	69			●					
ベルト、ベルトプーリーなどの状態点検	-			○					
破損状況の点検	-			○					
タイヤ空気圧の点検 (60 kPa)	43			●					

メンテナンス

●＝本書に記載あり ○＝本書に記載なし									
メンテナンス	ページ	日常点検		毎週の点検	最低1年に1回の点検	メンテナンス間隔時間 (交換時間)			
		使用前	使用后			25時間	50時間	100時間	300時間
ワイヤーに損傷がないか	37			●					
エンジン周辺の清掃	33			●					
トランスミッション周辺の清掃	-			○					
ベルト、ベルトプーリー周辺の清掃	61			●					
ディファレンシャルロックケーブルの給油、プロフレックス21	63			●					
マフラー周辺の清掃	33			●					
シートへの給油	66			●					
全てのワイヤーへの給油	61			●					
カッティングユニットの安全キャッチへの給油	66			●					
カッティングユニットのインナーブラグへの給油	66			●					
カッティングユニットフレーム溝への給油	66			●					
カッティングユニットのリンク部への給油	66			●					
フレーム内部への給油	-			○					
フレーム内部のペダル機構への給油	62			●					
ギアーレバーへの給油	66			●					
駐車ブレーキケーブルへの給油	69			●					
スロットルレバーへの給油	67			●					
チョークコントロールへの給油	67			●					
フレーム内部のガイドチェーンへの給油	63			●					
フレーム内部のステアリングケーブルへの給油	35			●					
エンジン冷却エアークリーナー清掃	33				●	●			
エアークリーナーのプレフィルター（湿式）清掃	39				●	●			
エンジンオイル交換 ¹⁾	64				●			●	
エアークリーナーのフィルターカートリッジ ²⁾ （ペーパーフィルター）	39				●		●		

メンテナンス

●＝本書に記載あり ○＝本書に記載なし									
メンテナンス	ページ	日常点検		毎週の点検	最低1年に1回の点検	メンテナンス間隔時間 (交換時間)			
		使用前	使用后			25時間	50時間	100時間	300時間
刈高の点検/調整	50				●		●		
駐車ブレーキの点検/調整	38				●		●		
スパークアレスター (付加装置) の点検	-				○		○		
油圧オイルフィルターの交換 (200時間毎)	68				●			●	
エンジンオイルフィルターの交換 (200時間毎)	68				●			●	
スパークプラグの清掃/交換	44				●			●	
燃料フィルターの交換	42				●			●	
パルスエアーフィルターの交換	42				●			●	
冷却フィンの清掃	-				○			○	
エンジンバルブクリアランス確認 ⁴⁾	-				○				○
ギアボックスのオイル交換が必要か確認 ⁴⁾ あるいはフィルター交換が必要か確認 ⁴⁾ (500時間毎)	-				○			○	
エアーフィルターのプレフィルター (湿式) 交換 ²⁾	39				●				●
エアーフィルター (ペーパーフィルター) の交換 ²⁾ (200時間毎)	39				●			●	
300時間整備の実施 ⁴⁾	-				○				○

- 1) 最初の8時間後に交換。激しい負荷をかけた操作や気温が高い環境での使用では、50時間毎に交換。
- 2) ホコリの多い場所ではより頻繁にメンテナンスと交換が必要。
- 3) ライダーを毎日使用する場合は、1週間に2回の給油が必要。
- 4) 正規販売代理店にて実施。



警告！

エンジンやカッティングユニットのサービスを行う際には以下の事項を守ること。

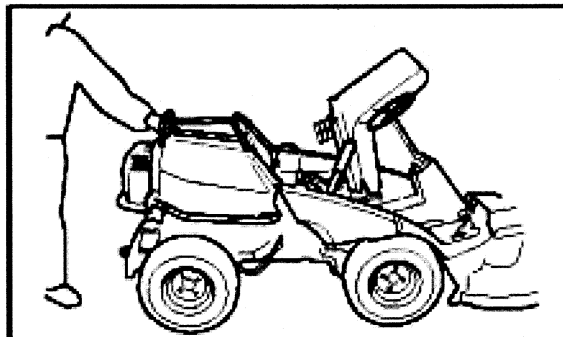
- ・ エンジンが停止していること。
- ・ 駐車ブレーキが作動していること。
- ・ イグニッションキーが抜いてあること。
- ・ カッティングユニットがつながれていないこと (移動用位置にあること)。
- ・ スパークプラグからイグニッションケーブルが抜かれていること。

メンテナンス

本機のカバー取り外し

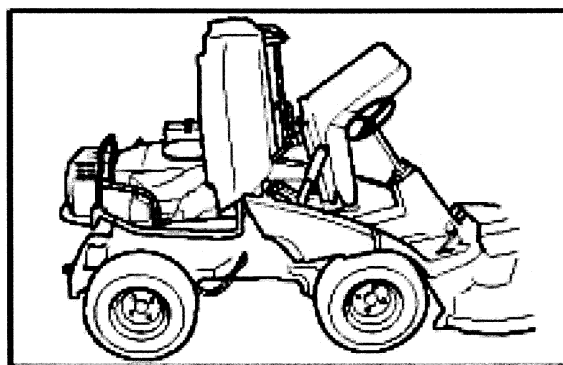
エンジンフード

1. シートを前側に倒します。
2. エンジンフード上部のカバーロックを反時計回りに1/4回転回します。



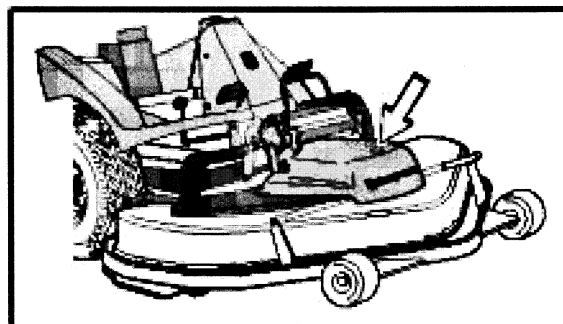
3. エンジンフードを開けます。

必要であれば、ヒンジを取り外すことによりエンジンフードを持ち上げることができます。



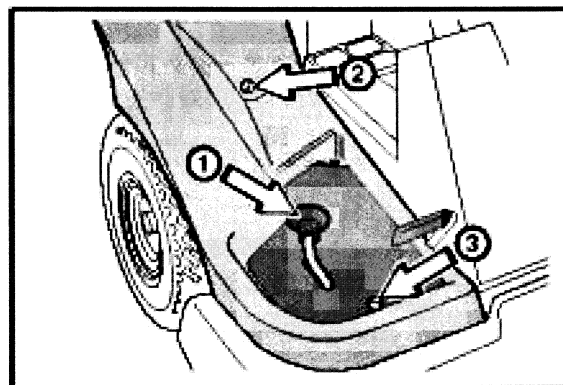
フロントカバー

ロックを緩め、カバーを持ち上げて外します。



右側フェンダーカバー

後進ペダル(1)、スクリュー(2、3)を外し、フェンダーカバーを取り外します。



メンテナンス

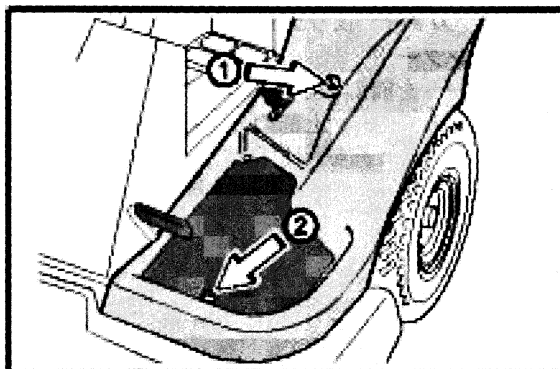
左側フェンダーカバー

プロフレックス18

スクリュー（1、2）を緩めて、フェンダーカバーを取り外します。

プロフレックス21

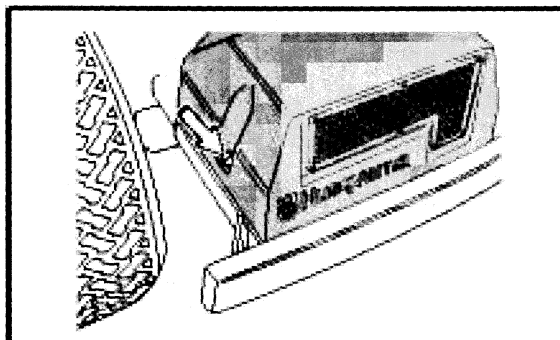
ディファレンシャルロックペダルを取り外します。スクリュー（1、2）を緩めて、フェンダーカバーを取り外します。



8020-008

トランスミッションカバー

両方のスクリュー（片側に1個）を緩め、トランスミッションカバーを持ち上げます。



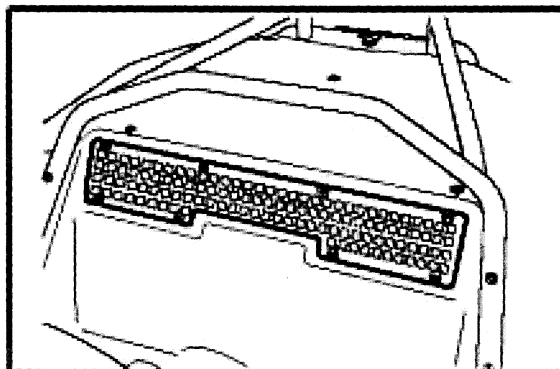
8008-006

エンジン冷却エアークの点検
シート裏のエアークグリルを清掃します。
エンジンフードを開きます。



警告！

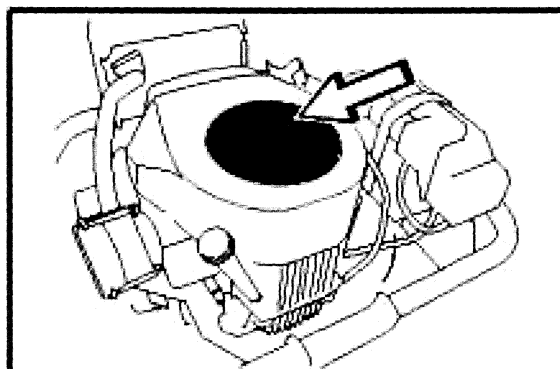
冷却エアークはエンジン運転中に回転します。指先に注意すること。



8008-489

エアークグリル

冷却インテークに落ち葉や草が詰まっていないか点検して下さい。
エンジンフード内側のエアークダクトを点検し、冷却エアークインテークに対して擦れていないことを確認します。
冷却インテークが詰まっていると、冷却効果に影響を与え、エンジンが損傷します。



8008-152

冷却エアークインテーク

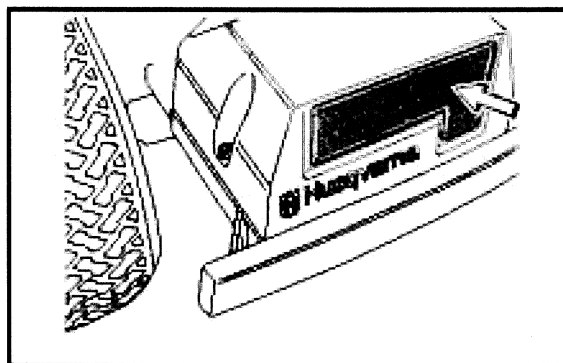
メンテナンス

エンジンとマフラーの清掃

エンジンとマフラーに付着している草やゴミを取り除きます。燃料やオイルがしみ込んだ草がエンジンに付着していると、火災を引き起こす恐れが増加し、またエンジン冷却に悪影響を与えます。清掃前に、エンジンを冷やしておきます。ゴミがオイルと混ざっているような場合は、脱脂材で取り除くか、あるいは水とブラシを用いて下さい。マフラー周辺に付着した草は火災の原因につながります。マフラーが冷えているときにブラシあるいは水で取り除きます。

トランスミッションのエアークリーナー点検

トランスミッションのエアークリーナーが詰まっているか点検して下さい。



4008-209

メンテナンス

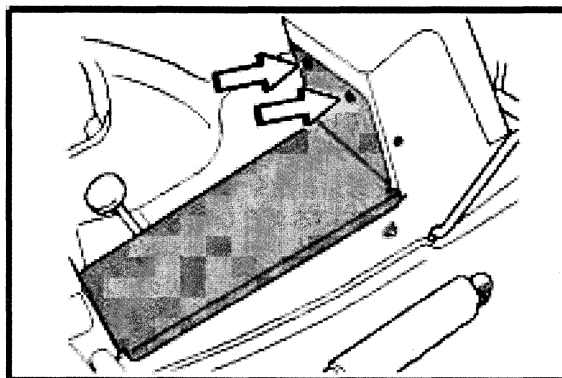
ステアリングワイヤーの点検と調整

ステアリングはワイヤーによりコントロールされます。

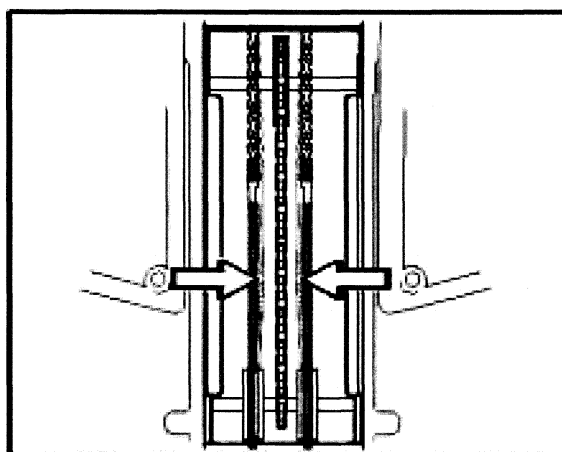
ワイヤーは時間の経過と共に緩み、ステアリングの調整が変化してきます。

下記の手順でステアリングの点検と調整を行います：

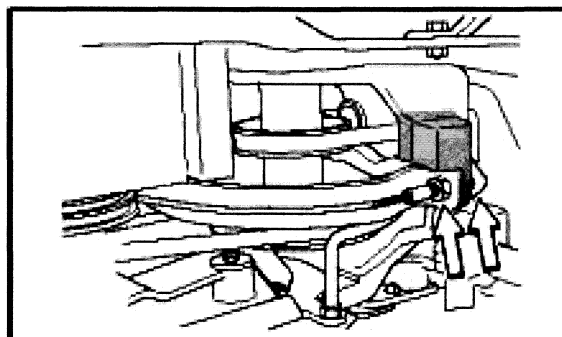
1. 2個のスクリューを緩めて、フレームプレートを取り外します。



2. フレーム内部のステアリングワイヤープーリーにワイヤーが正しく取り付けられていることを確認します。2本のワイヤーを内側に押して張力を点検します（矢印方向）。ワイヤーを押して、半分の距離になるのが適正の張力です。損傷したワイヤーは交換して下さい。



3. 必要であれば、ロックナットを緩めてから調整ナットを締め込み、ワイヤーを引くことができます（機械の片側に1本）。例えば、ケーブルをレンチで押さえて、ねじれないようにします。片側のワイヤーのみを調整する場合は、ステアリングの中間位置が影響を受けます。ワイヤーを締め過ぎないこと。手順2に記載されているように、調整後はワイヤー張力を確認すること。



メンテナンス

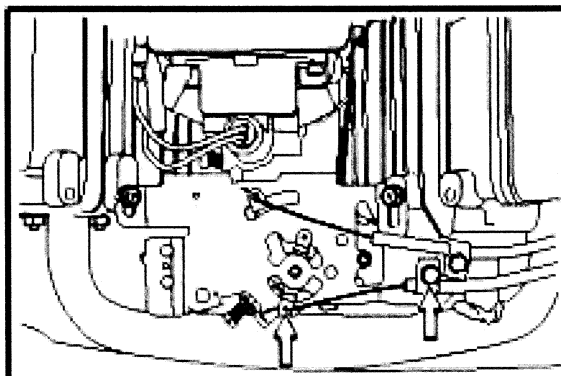
スロットルワイヤーの点検と調整

エンジンがスロットルの動きに追従し、フルスロットル時にエンジン回転数が適正であることを確認します。

不明な点は、正規販売代理店にお尋ね下さい。

調整が必要な場合、下側のワイヤーを次の手順で調整します：

1. アウターワイヤーの固定スクリューを緩め、スロットルを全開位置に合わせます。
2. イラストのように、スロットルワイヤーが下側レバーの正しい穴に取り付いているか確認します。
3. スロットルワイヤーのアウターワイヤーをできるだけ左側に押し、固定スクリューを締め込みます。



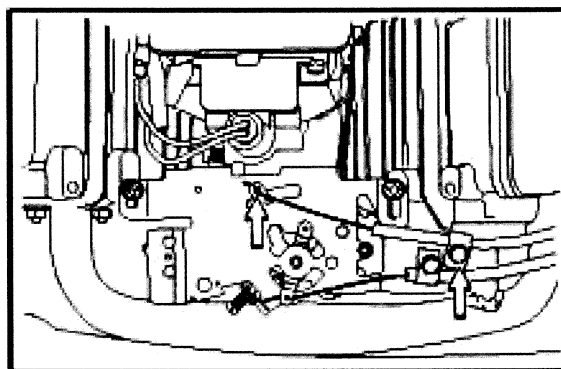
チョークワイヤーの点検と調整

エンジンから黒煙が出る、または始動が困難な場合、チョークワイヤー（上側のケーブル）の調整不良が考えられます。

不明な点は、正規販売代理店にお尋ね下さい。

調整が必要な場合、次の手順で行います：

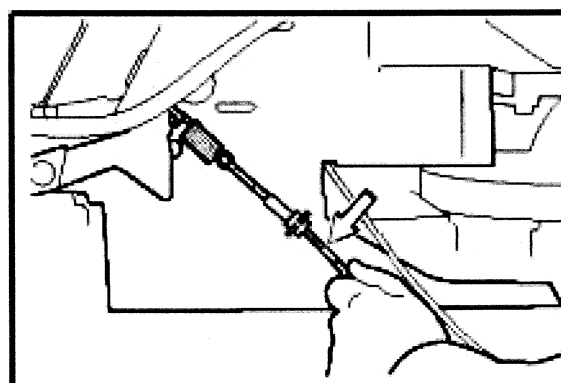
1. アウターワイヤーの固定スクリューを緩めて、チョークレバーを最大位置に合わせます。
2. イラストのように、チョークケーブルが上側のレバーに取り付いていることを確認します。
3. チョークワイヤーの外側ケースを可能な限り右側に押して、固定スクリューを締め込みます。



ディファレンシャルロックの調整 (プロフレックス21)

ディファレンシャルロック（左側）は次の手順で調整します：

1. ディファレンシャルロックが解除され、ペダルが上がっていることを確認します。
2. アウターワイヤーと調整スクリューにある2つのナットのすき間がなくなるように調整します。アウターを引いたときに、遊びがないようにします。
3. ネジ部を痛めないよう適度にナットを締め付けます。

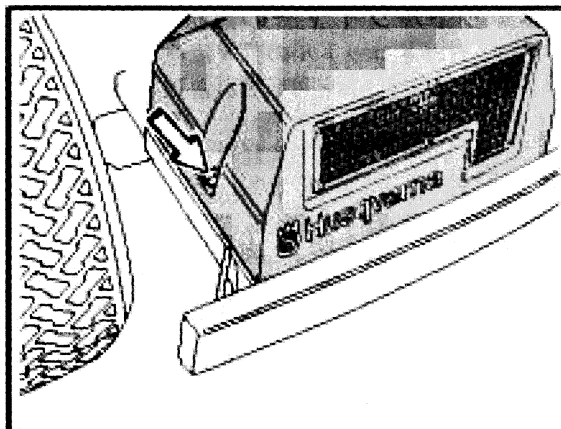


メンテナンス

油圧トランスミッションワイヤーの調整

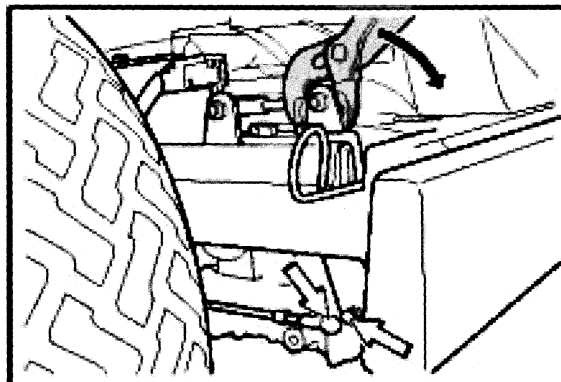
油圧トランスミッションのワイヤー（左側）は次の手順で調整します：

1. トランスミッションのカバーを外します。両方のスクリュー（片側に1つ）を緩め、トランスミッションカバーを持ち上げ外します。
2. 下側ボールジョイントを分解します。ロックスプリングにより固定されています。
3. 前進ペダルが完全に押し下げられていることを確認します。



6006-209

4. 垂直のアームを最大位置にし、下部ボールジョイントのボールとソケットの位置が合っているか、確認します。
5. 必要であればワイヤーのソケットを調整します。
6. 下部ボールジョイントを組み立てます。
7. ボールジョイントのロックスプリングを元の位置に取り付けます。

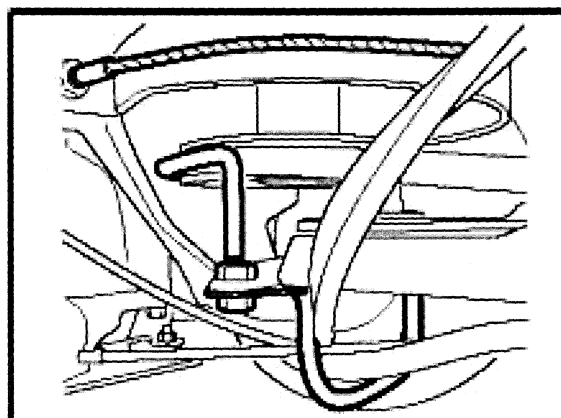


6020-022

ワイヤーホルダー

中間のワイヤーホルダーは、旋回時に挟まれないようにワイヤーと油圧配管を保護します。特に後進時に、異物や無理な運転により、地面に近くなり損傷する恐れがあります。

損傷がないか確実に点検し、ベルトガイドがプーリーの後ろ側中心になっていることを確認します。



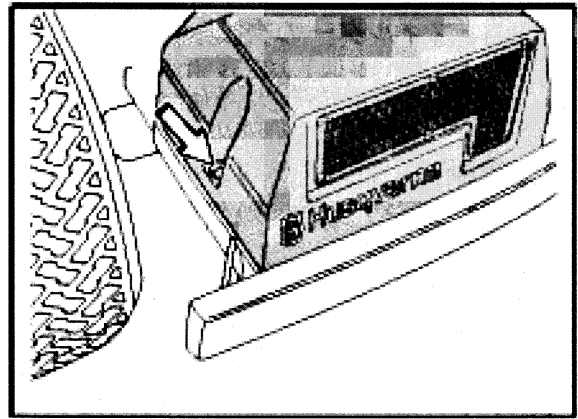
6024-084

メンテナンス

駐車ブレーキの調整

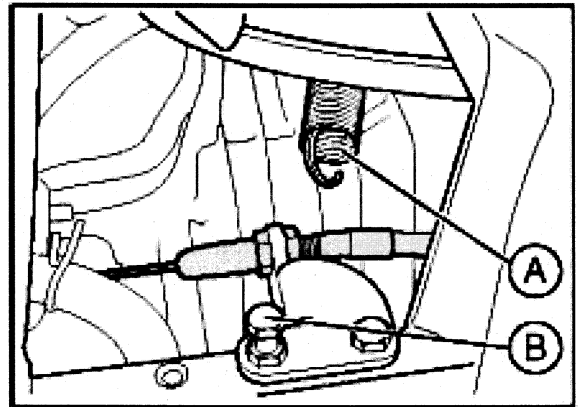
駐車ブレーキ（右側）は次の方法で調整します：

1. トランスミッションカバーを取り外します。
両方のスクリュー（片側に1つ）を緩めてトランスミッションカバーを持ち上げて外します。



8384-004

2. スプリング（A）をスクリュー（B）から取り外します。



0620-006

3. 駐車ブレーキが作動していないことを確認します。
4. アウターワイヤーを引いたときに、アウターワイヤーと調整スクリューの間の遊びが1 mmになるように調整します。調整スクリューのナットで調整します。
5. ネジ部をいためないように、徐々にナットを締め付けます。
6. スプリング（A）を再取り付けします。
7. 駐車ブレーキが正しく働くか、テストします。



警告！

調整が不十分なブレーキは、ブレーキ性能を劣らせます。

メンテナンス

エアフィルター交換

エンジンの出力が低下、あるいは滑らかに回転しない場合、エアフィルターの詰まりが考えられます。

汚れたエアフィルターで運転すると、スパークプラグにカーボンが堆積し、故障の原因につながります。

従って、エアフィルターは定期的に交換することが重要です（29ページの“メンテナンス・スケジュール”参照）。

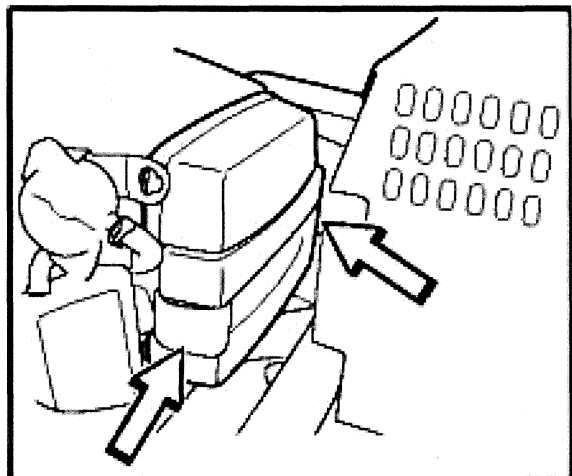


警告！

サービスを行う前に排気システムを十分に冷却すること。火傷の危険があります。

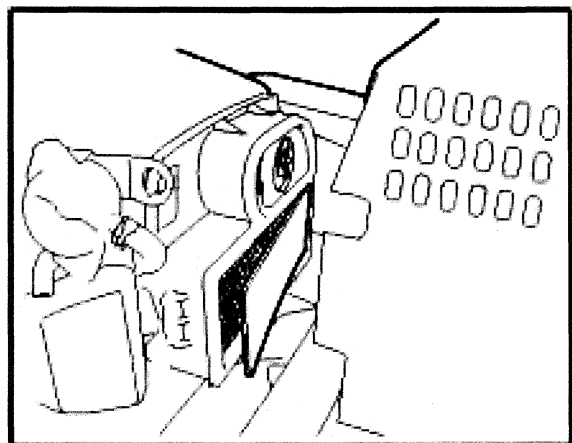
エアフィルターの交換（プロフレックス18）

1. エンジンフードを開けます。
2. スナップロックを両方とも外し、フィルターハウジングのカバーを取り外して下さい。



8006-148

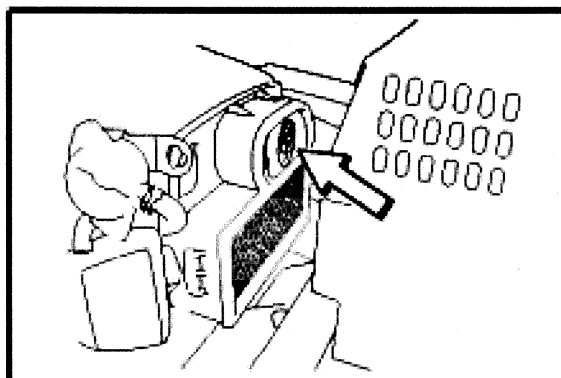
3. フォームラバー（スポンジ）製プレフィルタを取り外し、中性洗剤を使用して清潔にしてください。それを清潔な布を使用して乾燥するようにしぼってください。



8006-149

メンテナンス

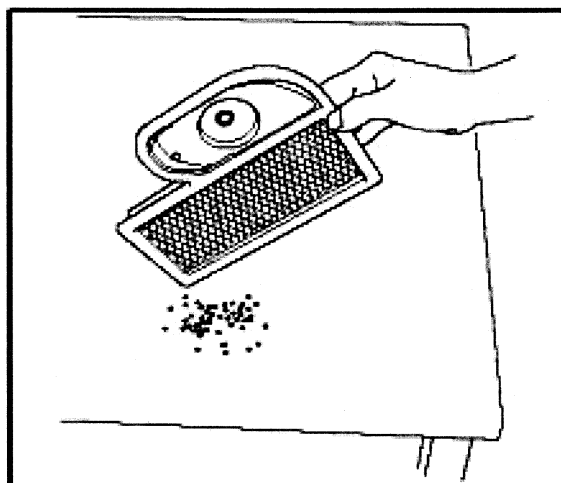
4. エアフィルターのウイングナットを取り外し、ペーパーフィルターを取り外します。



5. ペーパーフィルターを固定された表面に軽く叩き、汚れを取り除きます。
清掃してもペーパーフィルターが汚れている場合は交換して下さい。

重要情報

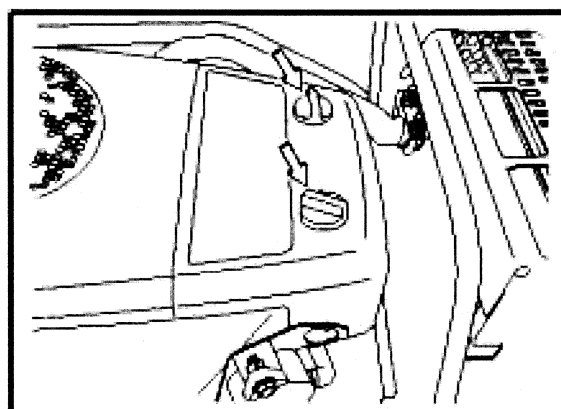
ペーパーフィルターを清掃する際に圧縮空気を使用しないこと。
ペーパーフィルターは水洗いしないこと。
ペーパーフィルターに注油しないこと。



6. 下記の手順でエアフィルターを取り付けて下さい：
エアフィルターハウジングにペーパーフィルターを取り付け、ウイングナットを締め付けます。
7. ペーパーフィルターの長方形部にプレフィルターを入れます。
8. エアフィルターカバーを取り付けます。カバーを下から上に動かし、プレフィルターが位置から落ちないようにします。スナップロックで固定します。

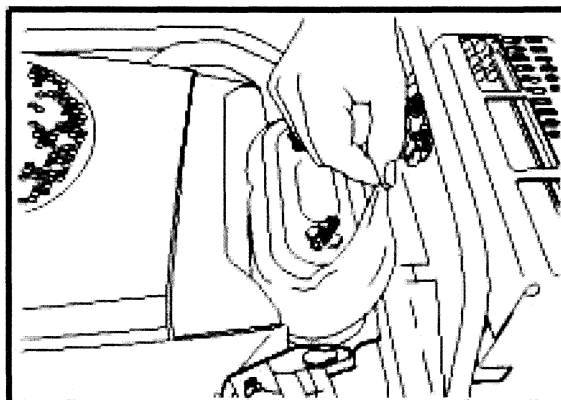
エアフィルターの交換（プロフレックス21）

1. エンジンフードを開けます。
2. スナップロックを両方とも外し、フィルターハウジングのカバーを取り外して下さい。



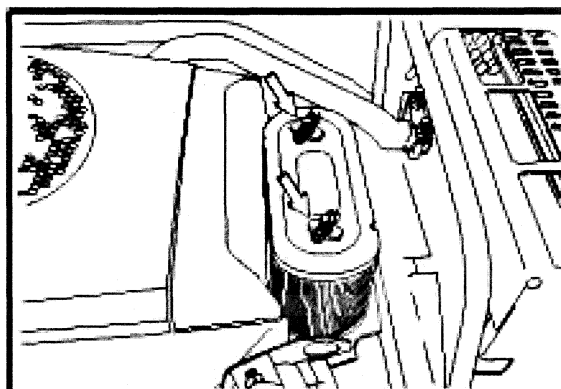
メンテナンス

3. フォームラバー（スポンジ）製プレフィルターを取り外し、中性洗剤を使用して清潔にしてください。それを清潔な布を使用して乾燥するようにしぼってください。



8000-180

4. エアフィルターのウィングナットを取り外し、ペーパーフィルターを取り外します。

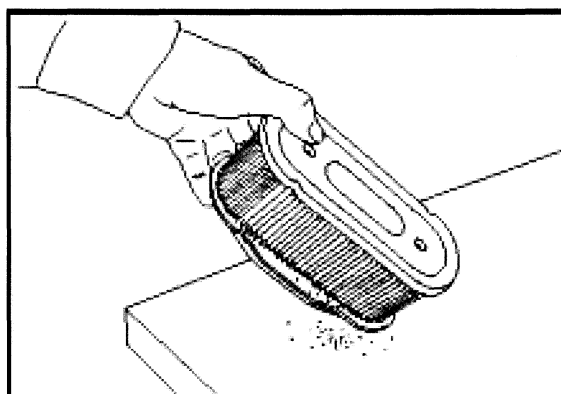


8000-182

5. ペーパーフィルターを固定された表面に軽く叩き、汚れを取り除きます。
清掃してもペーパーフィルターが汚れている場合は交換してください。

重要情報

ペーパーフィルターを清掃する際に圧縮空気を使用しないこと。
ペーパーフィルターは水洗いしないこと。
ペーパーフィルターに注油しないこと。



8000-181

6. 下記の手順でエアフィルターを取り付けて下さい：
エアフィルターハウジングにペーパーフィルターを取り付け、ウィングナットを締め付けます。
7. ペーパーフィルターの長方形部にプレフィルターを入れます。
8. エアフィルターカバーを取り付けます。カバーを下から上に動かし、プレフィルターが位置から落ちないようにします。スナップロックで固定します。

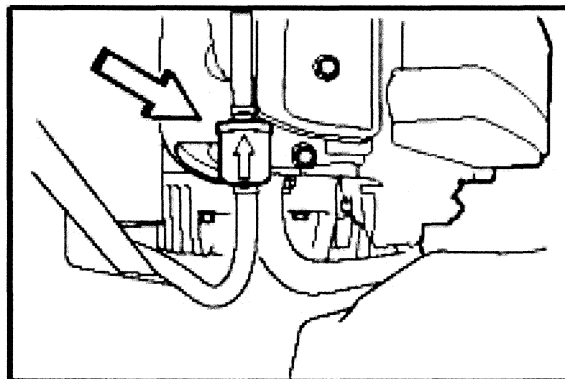
メンテナンス

燃料フィルターの交換

燃料フィルターは100時間運転毎(1シーズン毎)に交換して下さい。詰まっている場合はより頻繁に交換して下さい。

下記の手順で交換して下さい：

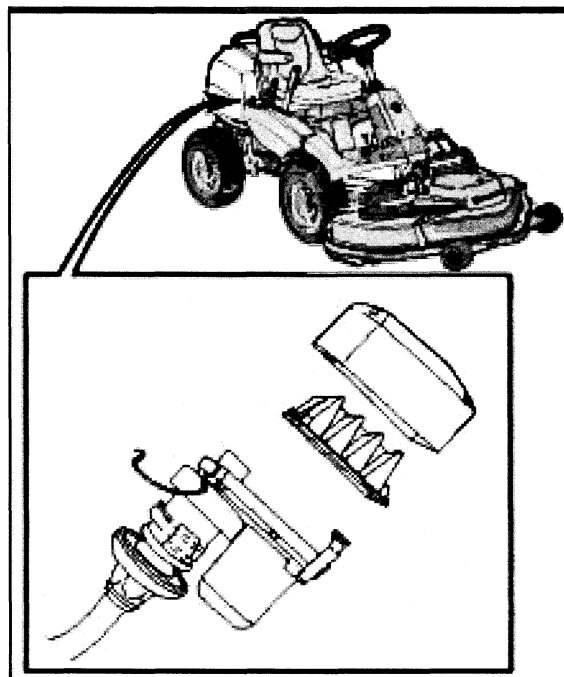
1. エンジンフードを開きます。
2. フィルターからホースクリップを外します。
平プライヤーを使用して外します。
3. ホース端からフィルターを取り外します。
4. 新しいフィルターをホース端から取り付けます。“FLOW”の矢印を燃料ポンプ側に向けて下さい。必要であれば、石鹼液をホース端に塗布すると簡単に取付けることができます。
5. ホースクリップを取り付けて、締め付けます。



8006-146

パルスエアーフィルターの清掃

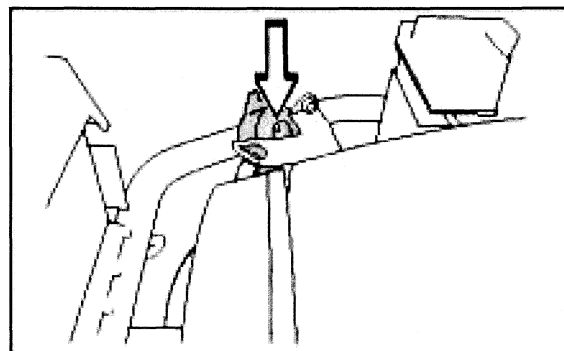
1. エンジンフードを開きます。
2. 4本のクリップを外してカバーを取り外し、フィルターを取り外します。
3. 圧縮空気を使ってフィルターを清掃します。
フィルターが損傷している、あるいは清掃してもきれにならない場合は、交換して下さい。
4. フィルターをカバーの中へ取り付け、クリップで固定します。エンジンフードを閉めます。



8006-142

燃料ポンプのエアフィルター点検

燃料ポンプのエアフィルターがゴミで詰まっているか、定期的に点検して下さい。
スクリューを取り外し、ポンプを開きます。ホースを取り外す必要はありません。
必要であれば、フィルターをブラシで清掃します。
コンソールのポンプを交換します。



8006-147

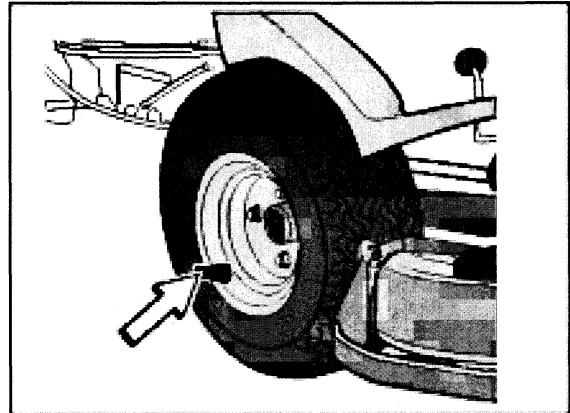
メンテナンス

タイヤ空気圧の点検

すべてのホイールで、空気圧は 60 kPa (0.6 kg/cm^2) に調整します。
運転パワーを改善するために、リヤタイヤは 40 kPa (0.4 kg/cm^2) に減圧することができます。上限の空気圧は 80 kPa (0.8 kg/cm^2) です。

重要情報

フロントタイヤの空気圧が異なっていると、異なる芝面の刈高結果につながります。



8016-126

バッテリー液レベルの点検

バッテリー液レベルがマークの間にあることを確認します。バッテリー液補充時は、蒸留水のみを使用して下さい。

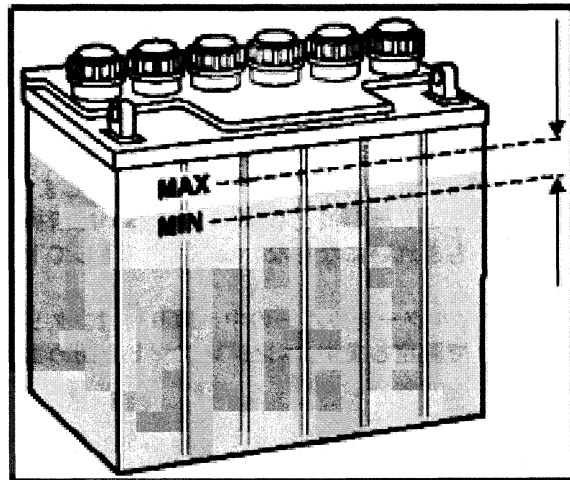


警告！

バッテリー液に触れてしまった場合

- ・ 外的：しっかりと水で洗浄すること。
- ・ 内的：大量の水あるいは牛乳を飲むこと。
- ・ 目：しっかりと水で洗浄すること。ただちに医者に診断してもらうこと。

バッテリーは爆発しやすいガスを発生します。火花、炎、タバコは絶対にバッテリーに近づけないこと。



8006-216

イグニッションシステム

エンジンは電子イグニッションシステムを装備しています。スパークプラグのみ、メンテナンスが必要です。

推奨スパークプラグは79ページの“テクニカルデータ”を参照して下さい。

重要情報

間違ったスパークプラグ型式はエンジンを傷めます。

メンテナンス

スパークプラグの交換

1. スパークプラグケーブルを抜き、スパークプラグ周辺を清掃します。
2. 1 3/16" (21 mm) のスパークプラグソケットレンチでスパークプラグを取り外します。
3. スパークプラグを点検します。
電極が溶けている場合、あるいは絶縁部にヒビや損傷がある場合は、スパークプラグを交換して下さい。
スパークプラグが再利用できる場合は、ワイヤーブラシで清掃します。
4. シックネスゲージで電極隙間を測定します。
電極隙間は0.7~0.8 mm/0.030"です。必要に応じて電極を曲げて調整して下さい。
5. スパークプラグを再び取り付け、ネジ部をいためないように手で締め付けます。

重要情報

スパークプラグの締め付け不足はオーバーヒートやエンジン損傷を引き起こします。スパークプラグの締め付け過ぎはシリンダーヘッドのネジ部を傷めます。

6. スパークプラグの座が接したら、スパークプラグレンチで締め付けます。
ワッシャーが圧縮されるようにスパークプラグを締め付けます。
使用されたスパークプラグは、座が接してから1/8回転締め付けます。新しいスパークプラグは、座が接してから1/4回転締め付けます。
7. スパークプラグケーブルを再取り付けします。

ヒューズ

メインヒューズは、バッテリー前のバッテリーケースのカバー下にある取り外し可能なホルダー部にあります。

タイプ：平ヒューズ、15 A

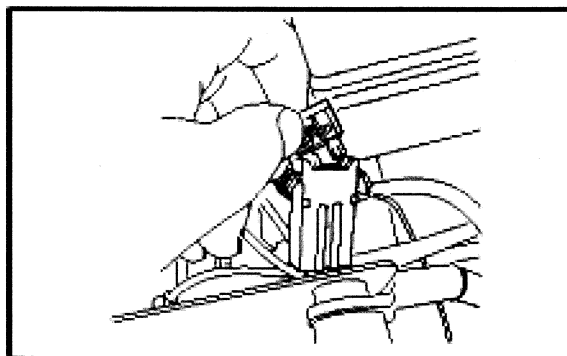
電源出力用ヒューズはコントロールパネル横のプレート下のイグニッションスイッチ（スタータースイッチ）下にあります。

タイプ：平ヒューズ、7.5 A

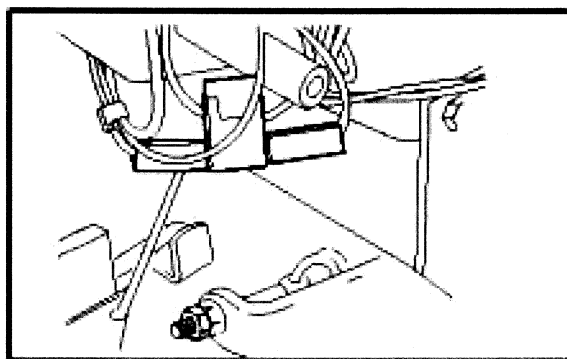
交換時には異なるタイプのヒューズを使用しないこと。

茶色のヒューズはコネクター焼けを表します。交換時はホルダーからヒューズを引き出して下さい。

ヒューズは電気システムを保護するためにあります。交換後、短期間でヒューズが切れてしまう場合、回路がショートしている可能性がありますので、運転する前に修理を行う必要があります。



メインヒューズ



電源コンセント用ヒューズ

メンテナンス

安全装置の点検

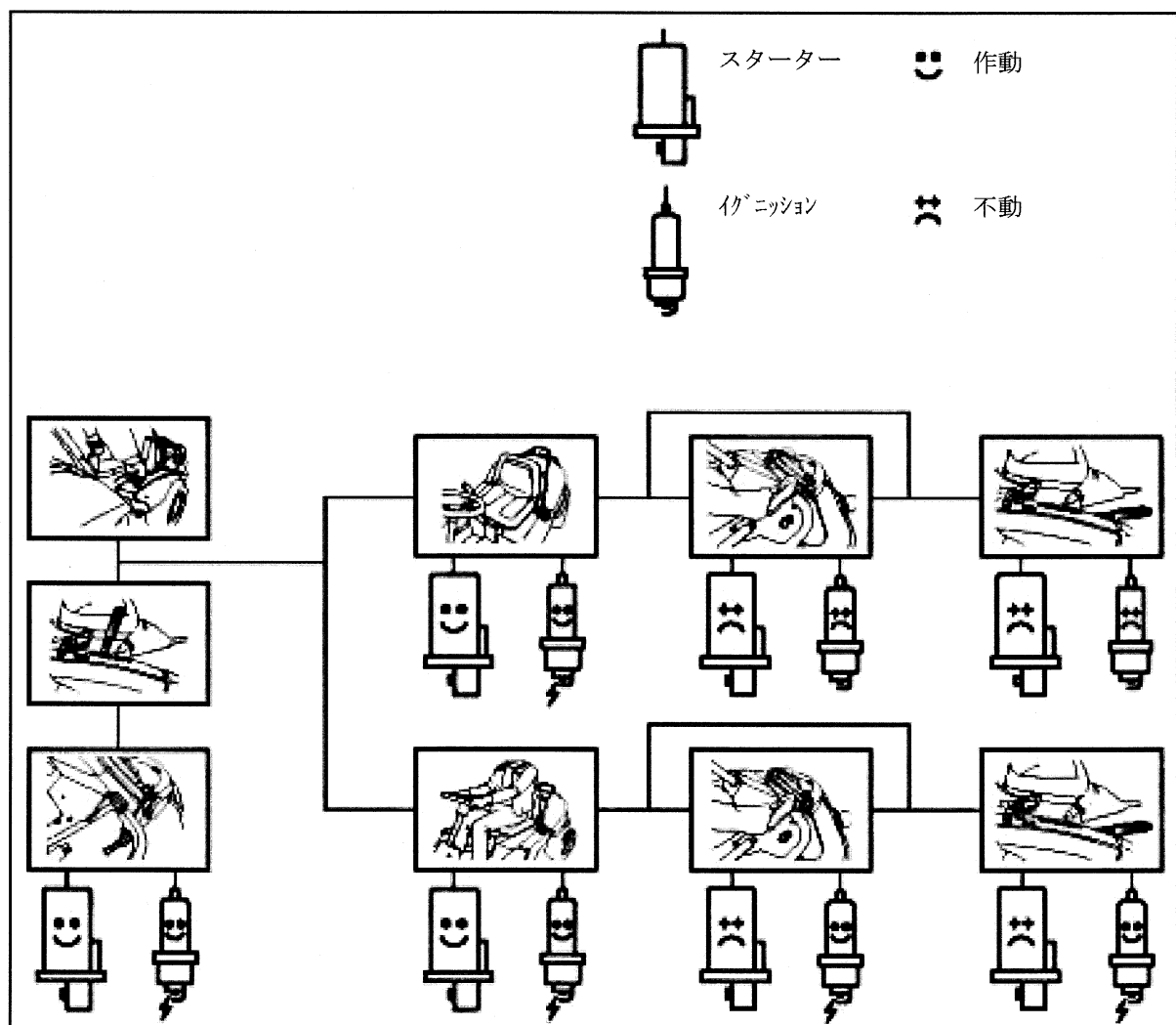
ライダーには、次の場合に始動や運転されないように安全装置が装備されています。

カuttingユニットが上がった位置でハイドロスタットペダル（前進、後進ペダル）が中立位置の時にのみ、エンジンを始動することができます。

運転者はシートに座る必要はありません。

ある条件が満たされないでエンジンが始動しないか、毎日安全装置を点検して下さい。条件を変え、再び試して下さい。

カuttingデッキが下がった状態、あるいはハイドロスタットペダルが中立ではない状態で、シートから仮に離れた際に、エンジンが停止するか点検します。

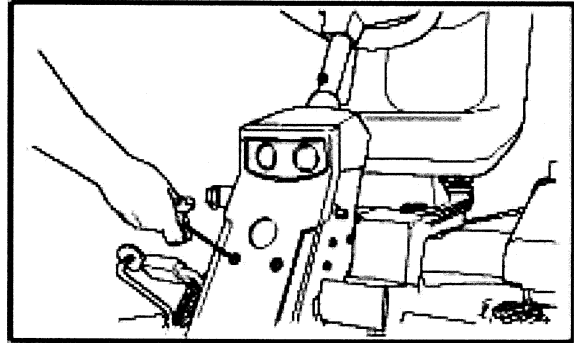


メンテナンス

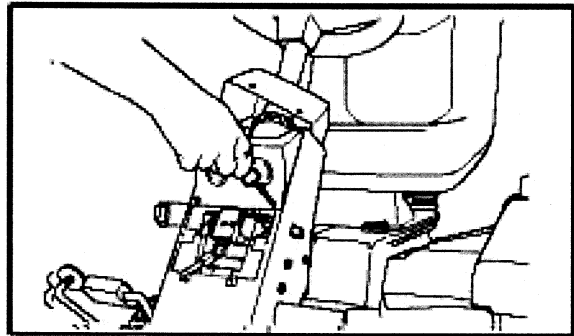
ヘッドライトバルブの交換

ヘッドライトバルブの情報については、“テクニカルデータ”の章を参照願います。

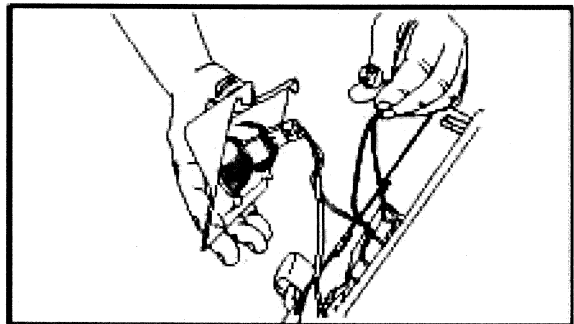
1. ステアリングコラム上のカバーを固定している2つのスクリューを緩めます。
カバーを持ち上げ、ステアリングシャフト側に向きを変えます。



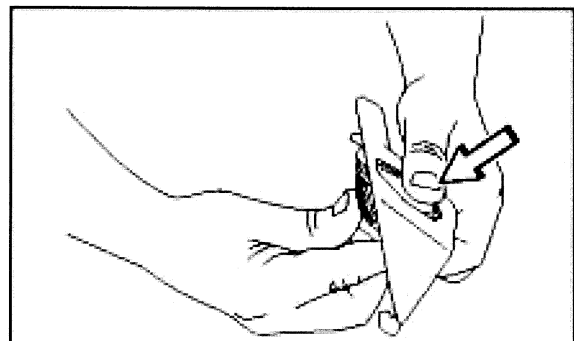
2. ランプ挿入部を固定している2つのスクリューを緩めます。
ランプ挿入部を持ち上げ外します。



3. バルブからケーブルを抜きます。
4. 挿入部からバルブを取り出します。



5. 新しいバルブを挿入します。前側を支えるために親指を使うようにします。



6. ケーブル、ランプ挿入部、ステアリングコラムのカバーを再取り付けします。

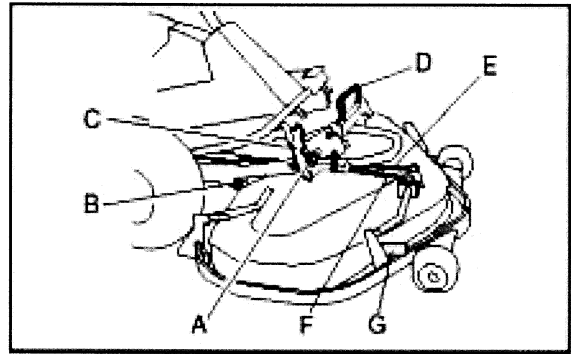
メンテナンス

カッティングユニット構成品

下記の説明では、カッティングユニットはリヤ排出になっていますが、特に指定のない限り同じ原理がすべてのカッティングユニットに適用されます。

構成品は次の通りです：

- ・ A キャッチ
- ・ B インナープラグ
- ・ C キャッチガード
- ・ D ハンドル
- ・ E 高さ調整ストラット
- ・ F 平行ストラット
- ・ G 最低高さ調整ストッパー



8009-100

カッティングユニット装着

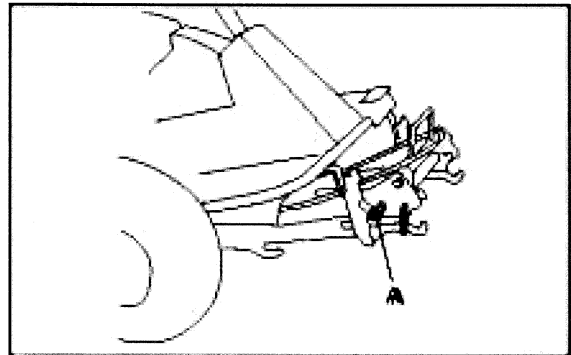


警告！

十分に注意すること。ケガをする恐れがあります。

カッティングユニット装着を始める前に：

- ・ 本機を平らな場所に置きます。
- ・ 駐車ブレーキをかけます。
- ・ 油圧式リフトレバーを低い位置にセットします（プロフレックス21）。
- ・ アタッチメントフレームを低い位置にセットします。
- ・ アタッチメントフレームを安全キャッチとロック（A）で固定し、挿入位置にします。

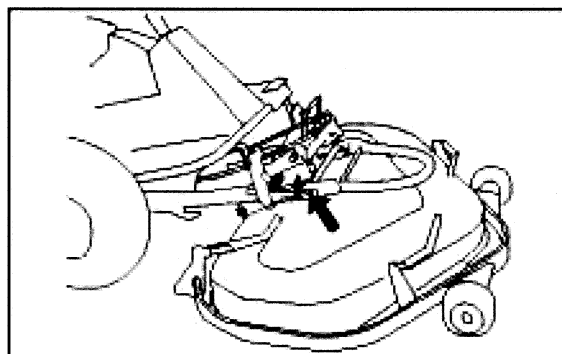


8009-002

- ・ 55ページの“ユニットフレームの取り外し”を参照し、ユニットフレームをカッティングユニットに装着します。

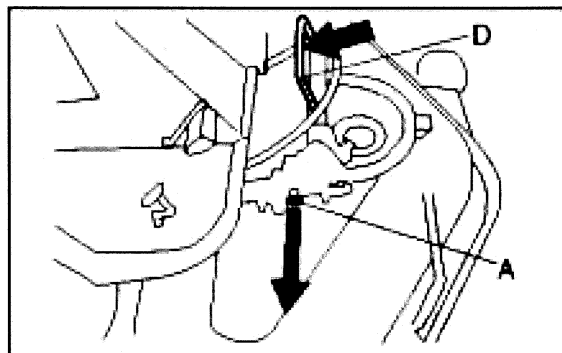
メンテナンス

1. ユニットをアタッチメントフレームのアウト
ーフックに取り付けます。



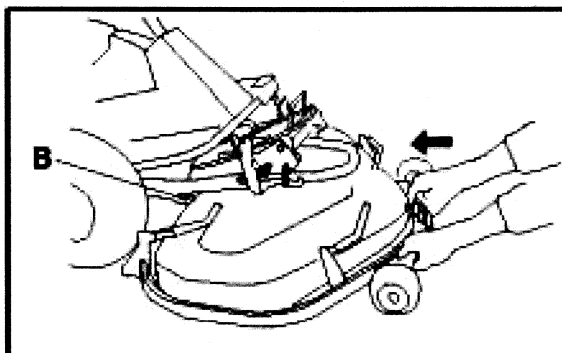
8909-024

2. キャッチ (A) を引き出し、フックガードの
ハンドル (D) を後方に押して安全キャッ
チを緩めます。



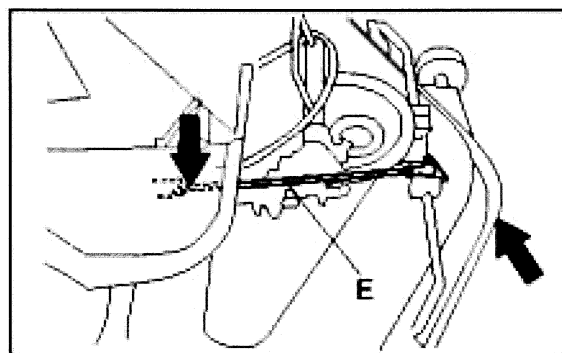
8909-157

3. 運転席の右にあるカッティング昇降レバー
(機械式) を引き上げ、ユニットを持ち上げ
ます。
4. ユニットを押し込み、インナープラグ (B)
アタッチメントフレームの溝に入れます。



8909-018

5. 高さ調整ストラット (E) を後方ブラケット
に取り付けます：
刈高調整レバーを前方位置に動かします。フ
レームの前部を上げ下げし、ストラットを緩
めます。



8909-188

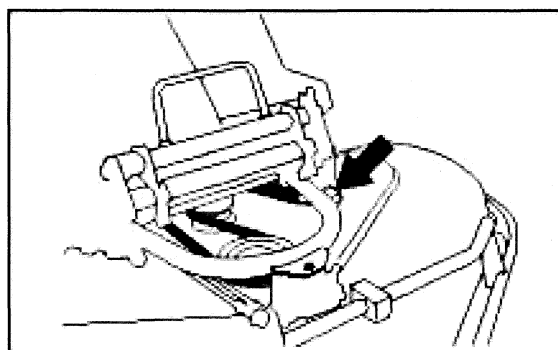


警告！

指先に注意すること。ブレードやベルトを
回転させないこと。

メンテナンス

6. ベルトテンショナーズプリングを緩めて前側のベルトプーリーにベルトを取付けます。新しいベルトは短めです。スパナを中心スクリューにかけて、前側のプーリーを回転させます。



8009-038

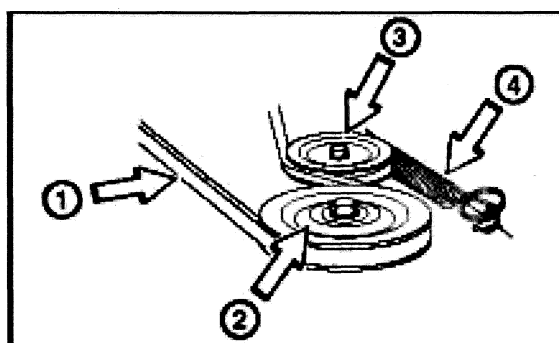
7. ベルトテンショナーズプリングを再取り付けします。

重要情報

ベルトがアイドラー周りにあることを確認すること。

ベルト概略

- ・ 1. ドライブベルト
- ・ 2. 前側プーリー
- ・ 3. ベルトアイドラー
- ・ 4. ベルトテンショナーズプリング



8016-108

8. フロントカバーを取り付けます。

メンテナンス

刈高、平行度、接地圧の調整

新しいカッティングユニットを装着した際には、刈高、平行度、接地圧の調整が必要です。

調整は次の手順で行います。

はじめに：

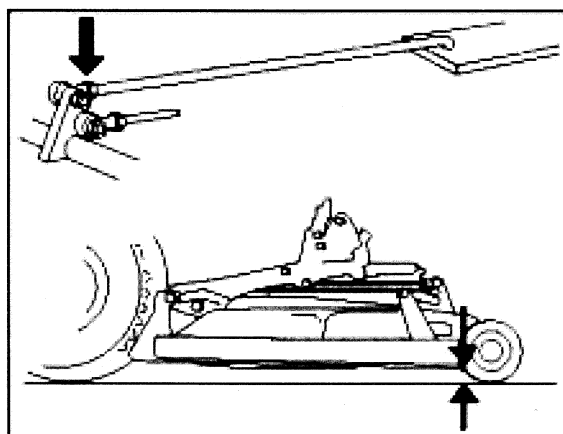
- ・ タイヤ空気圧が 60 kPa (0.6 kg/cm^2) であることを確認します。
- ・ カッティングユニットを平らな地面に下げます。
- ・ 刈高調整レバーを最低位置にします。

刈高

1. 高さ調整ストラットのナットを緩めます。
2. 地面とカバーの前端との距離を測定します。
前端と地面の距離は 35 mm が規定値です。
3. ナットを締め付けます。
4. 必要であれば平行度を点検し合わせます。
5. 必要に応じて、51 ページの“接地圧”に従い、カッティングユニットの接地圧を点検、調整します。
6. フロントカバーを取り付けます。

重要情報

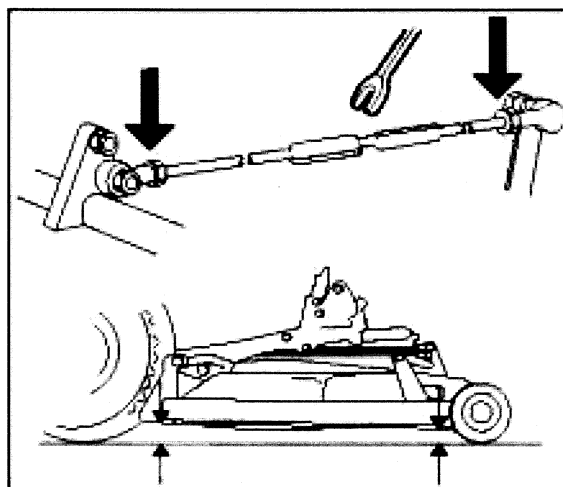
カッティングユニットを交換時は、平行度と刈高を再調整すること。



8008-026 8908-006

平行度

1. ストラットの2つのナットを緩めます。
2. 地面と正面のカッティングデッキ及び後ろのカッティングデッキの間の距離を測定してください。
3. 平行ストラットをスパナで調整してカッティングユニット後端部がフロント部より $2 \sim 4 \text{ mm}$ 高いように調整して下さい。
4. 測定値をチェックして下さい。
5. ストラットの2つのナットを締め付けます。



8008-027 8908-006

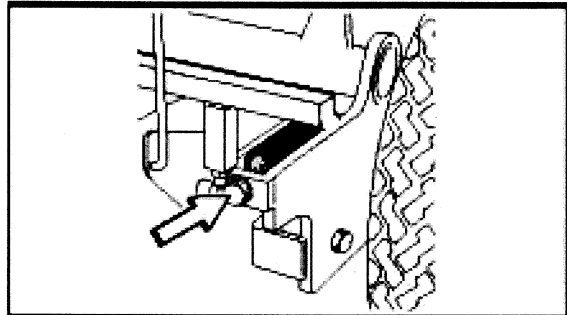
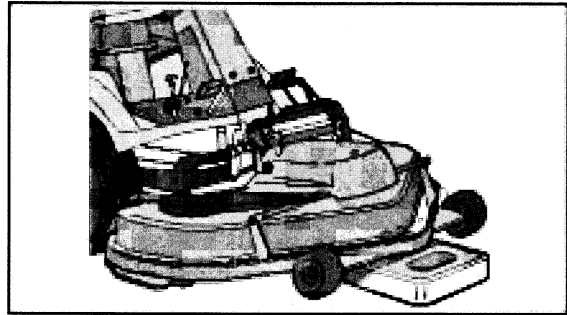
メンテナンス

接地圧

最良の作業結果を得るため、カッティングユニットは地面に対する圧力が強過ぎないように調整が必要です。接地圧は、機械の両側にあるスクリーンとスプリングで調整します。

カッティングユニットの接地圧は下記の手順で行います：

1. カッティングユニットのフレーム先端部の下に体重計を入れて計測します。必要であれば、ブロックをフレームと体重計の間にに入れてサポートローラーに重さがかからないようにします。
2. 両前輪の後にある調整スクリーンを締め込んだり（接地圧は弱くなる）、緩めたり（接地圧は強くなる）して調整します。接地圧の適正值は12～15 kgで、スプリングは均等に張られているようにします。

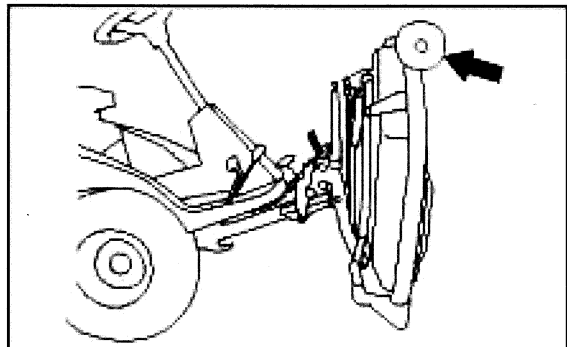


カッティングユニットのサービスポジション

容易に清掃、修理、メンテナンスができるよう、カッティングユニットはサービスポジションにセットすることができます。サービスポジションとは、カッティングユニットを上げ垂直に固定する位置のことです。

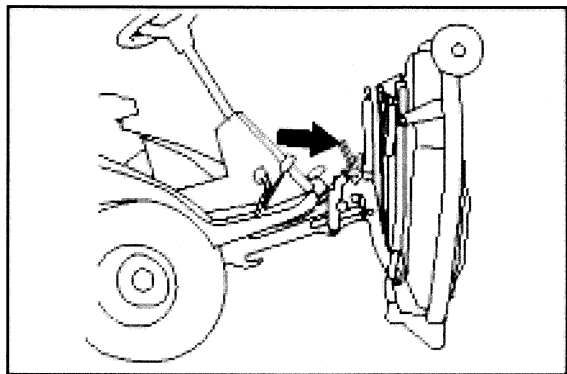
サービスポジションにする方法

1. 53ページの“カッティングユニットの取り外し”の下に記載されている項目1-11を行い、ユニットがアウターフックに掛かるように置きます。
2. ユニットのフロントエッジをつかみ垂直に持ち上げます。ユニットは自動的に垂直の位置で固定されます。



サービスポジションから解放する方法

1. ユニットの頂端部を緩め（後方に動かす）、ハンドルを前方に動かし、それからゆっくりとユニットを水平な位置に下ろします。
2. 47ページの“カッティングユニット装着”の下に記載されている項目4-8を行い、カッティングユニットを作業位置に滑り込ませます。



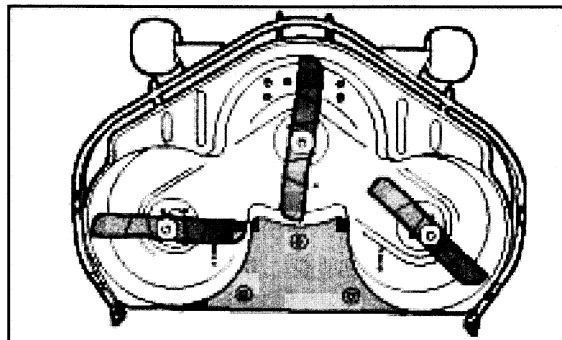
メンテナンス

カッティングユニットのモデル

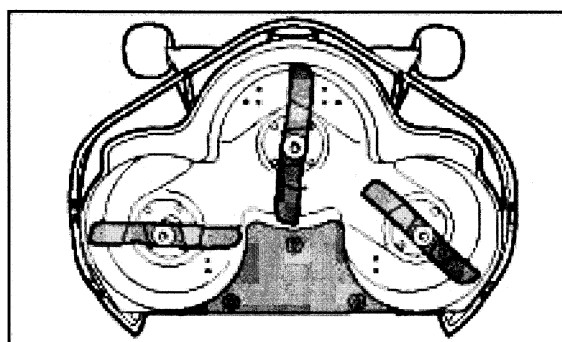
プロフレックス18とプロフレックス21は異なる2つのカッティングユニットを装着することができます：

- ・ コンビ112
- ・ コンビ122

その他のカッティングユニットは、ドライブベルトの交換無しでは装着することができません。



コンビ112



コンビ122

ブレードの点検

最高の作業結果を得るためには、ブレードに損傷がなく、良く研磨されていることが重要です。ブレード取り付けボルトが次のトルクで締結されていることを確認します：

- ・ コンビ112：
45～50 Nm/32～36 lbf t
- ・ コンビ122：
75～80 Nm/53～56 lbf t

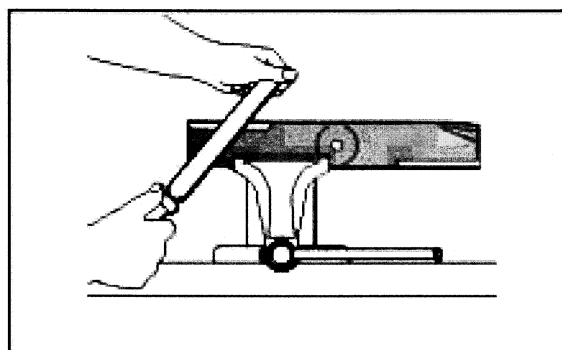
重要情報

ブレードの交換や研磨は、正規販売店にて行うこと。

研磨後はブレードのバランスを取ってください。異物などにぶつけてしまったブレードは交換して下さい。正規販売代理店に、ブレードを直すか、研磨するか、廃棄するかの判断をしてもらってください。

警告！

不十分な修理やその他の損傷によりブレードに亀裂が発生した場合、ブレードは使用中に破損します。ブレードのバランス取りが不十分であれば、その危険性は増加します。



メンテナンス

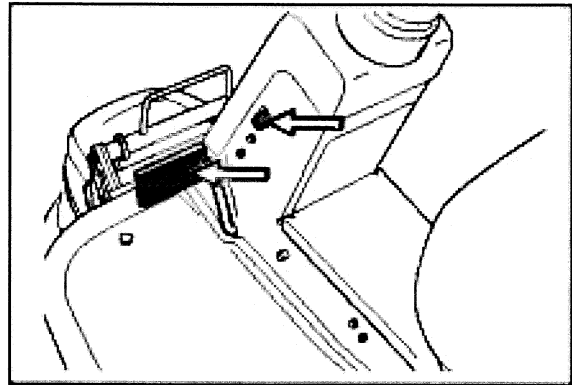
カッティングユニットの取り外し



警告！

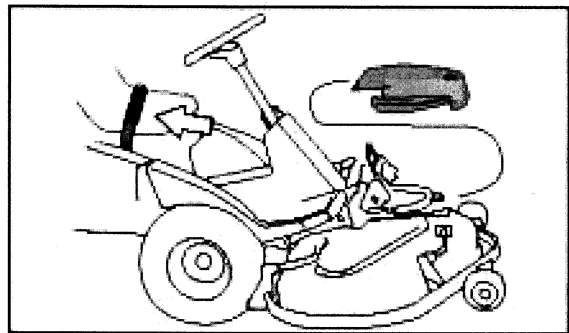
十分注意すること。ケガをする恐れがあります。

1. 機械を平らな地面に置きます。
2. ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックボタンを押して、駐車ブレーキを掛けます。



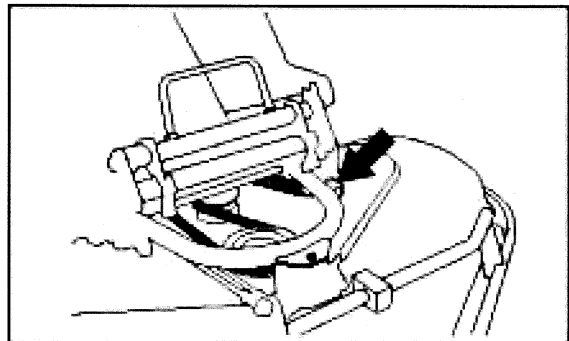
8009-369

3. カッティングユニット昇降レバー（機械式）を用いて、カッティングユニットを上げます。
4. フロントカバーを取り外します。



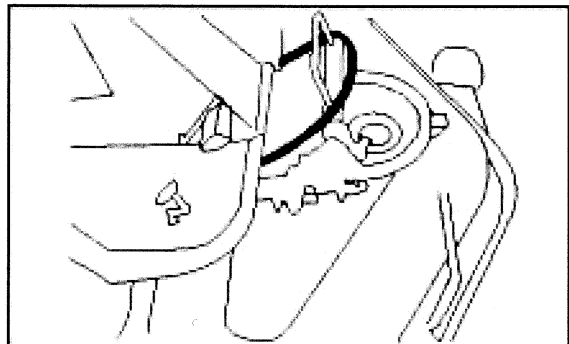
8009-375

5. ベルト調整スプリングを外します。
6. 前側プーリーからベルトを外します。
7. ベルト調整スプリングを取り付けます。



8009-008

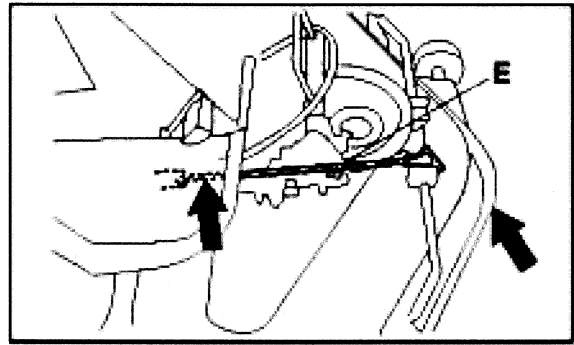
8. ベルトをハンドルの周りに掛けます。



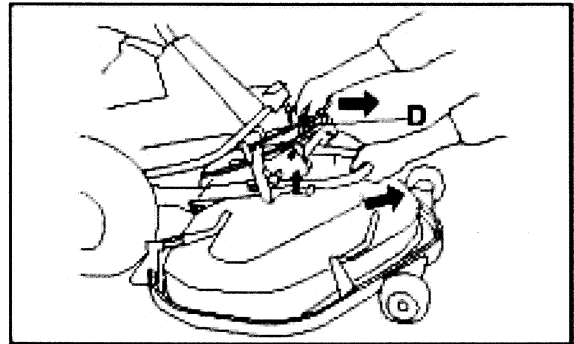
8009-009

メンテナンス

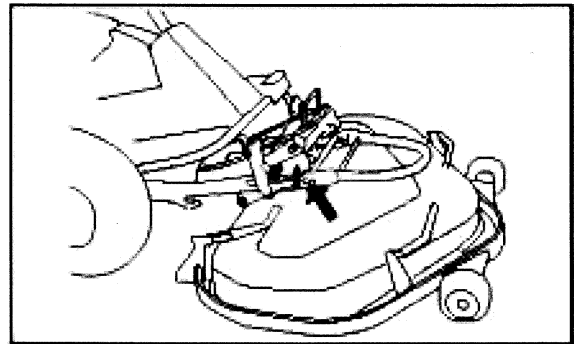
9. 高さ調整ストラット (E) の後部を持ち上げるようにして取り外します:
カッティングユニットを取り外す場合、フレームの前端部を持ち上げて、アームにかかっている荷重を取り除きます。



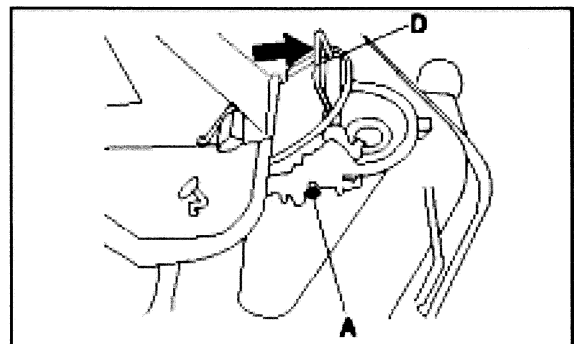
10. ハンドル (D) とユニットを同時に引っ張ります。ユニットが少し出てきたら、ハンドルを放します。



11. ユニットがアウターフックに掛かるまで引き出します。



12. 運転席の右側にある昇降レバーを使ってユニットを下ろします。
13. ハンドル (D) を引き、安全キャッチを固定します。
キャッチ (A) がはめ込み位置にあることを確認します。



14. 機械からユニットを取り外します。

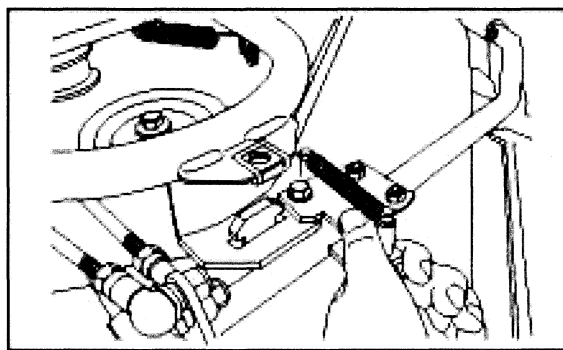
メンテナンス

ユニットフレームの取り外し

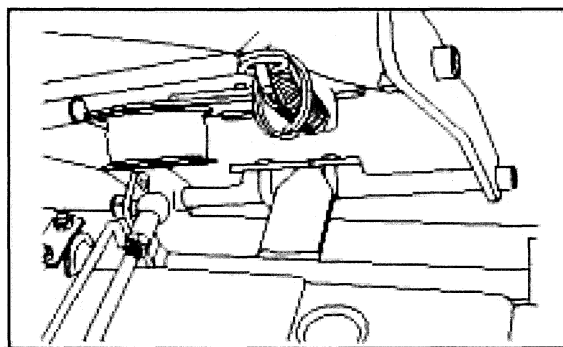
カッティングユニットフレーム取り外しのためにはカッティングユニットを下ろします：

・カッティングユニットの外し方

1. カッティングユニットから前方のファスナー（取り付け金具）をスライドさせて外します。



2. カッティングユニットの取り付け金具部を外し、デッキ全体を後方に押しデッキに対する保持力を解除して取り外します。
組み立ては上記の逆の順で行ってください。

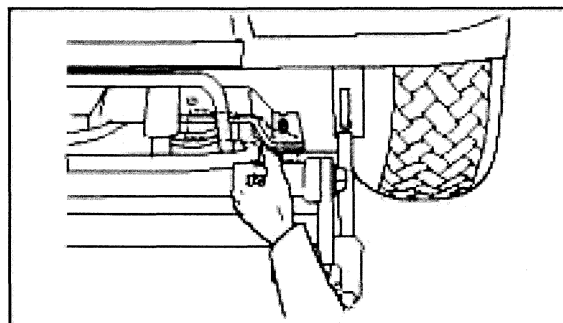


ベルトの取り外し

ベルトを取り外す場合の開始位置：

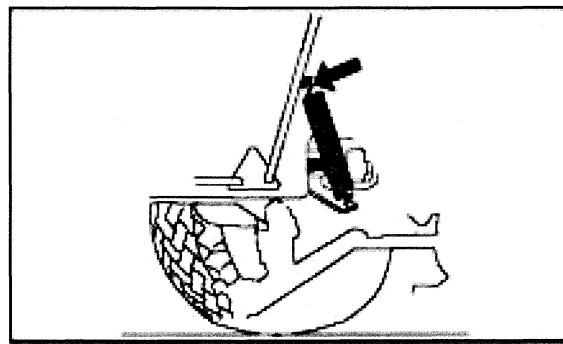
- ・機械にユニットを取り付けないこと。
- ・ベルトの前部をフックガードハンドルの周りにかけること。

ベルトプーリーからベルト前部の外し方は、53ページの5-8の“カッティングユニットの取り外し”項目に記載されています。



ライダーにスノーブレードを取り付ける場合には、全体のベルトのみ取り外す方法を参照します。

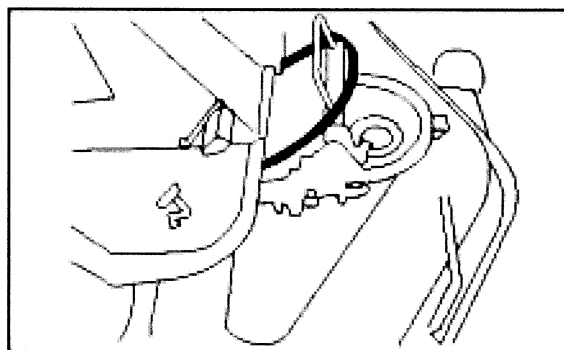
1. サポートホイール下のガイドプレートを押します。
2. ブレードブレーキの上にあるスプリングを外します。
3. 中間プーリーからベルトを外します。
4. ベルトを取り外します。



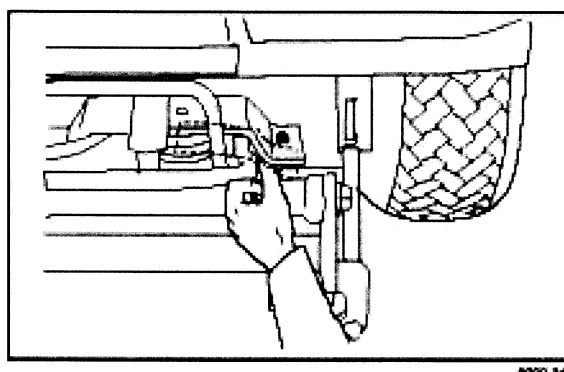
メンテナンス

ベルトの取り付け

1. ベルトを前から置き、そしてベルトの前端部をフックガードハンドルの周りに掛けます。
2. ベルトを中間プーリー、そしてサポートホイールに取り付けます。

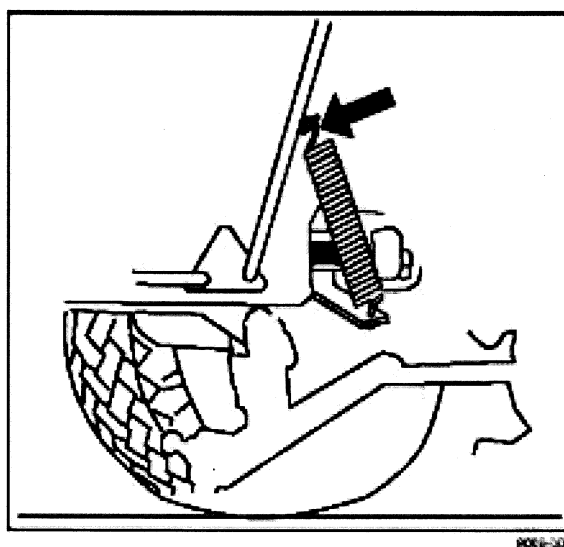


3. サポートホイールの下側にあるガイドプレートを押下げ、ベルトをそのすき間に押し入れます。



4. ブレードブレーキにスプリングを取り付けます。

フロントプーリーへのベルトの取り付け方は、47ページ“カッティングユニット装着”の項目6～7を参照して下さい。



メンテナンス

カッティングユニット・ベルト交換



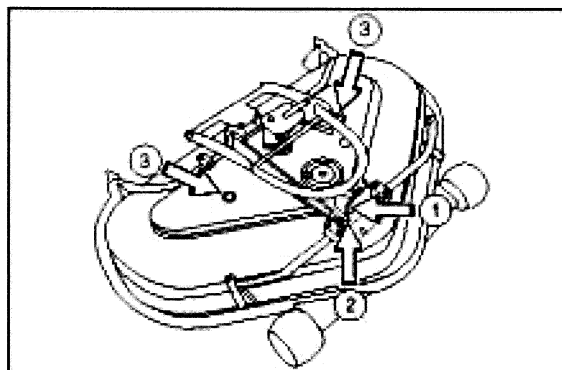
警告！

ブレードに関連する作業を行う際には保護手袋を着用し手を保護すること。
ベルトに関連する作業を行う際にはケガをする恐れがあります。

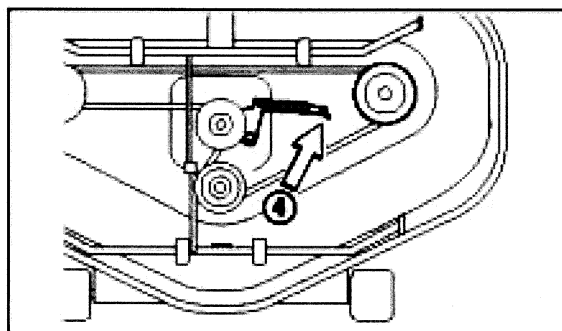
コンビユニットのベルト交換

これらのカッティングユニットの“干渉しない”ブレードは、1本のVベルトで回転します。Vベルト交換は次の手順で行います：

1. カッティングユニットを取り外します（53ページ参照）。
2. ユニットフレーム（1）（55ページ参照）、平行ストラット（2）のスクリューとカバー（3）の2つのスクリューを緩めます。ベルトから保護カバーを持ち上げます。



3. Vベルトに張力を与えているスプリング（4）を外し、ベルトを外します。



4. 新しいベルトを取り付けます。
ベルトの張り方については、保護カバー内側にシールが貼ってあります。
5. ベルトテンショナーが破損、固着していないことを確認して、スプリングを取り付けます。
6. 保護カバーを取り付け、平行ストラットとユニットフレームを装着します。
7. 47ページの“カッティングユニット装着”を参照して、機械にカッティングユニットを取り付けます。

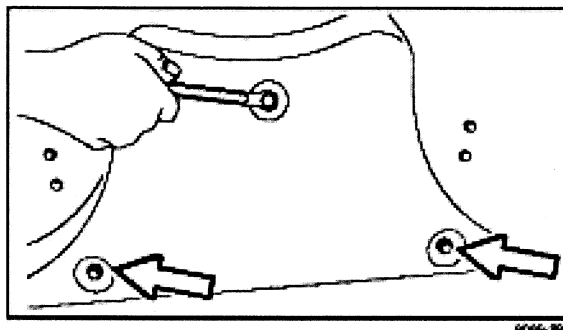
メンテナンス

バイオクリッププラグの取り外し

バイオクリップからコンビユニットに変更するために、ユニット下部にある3本のスクリューで取り付けられているバイオクリッププラグを外します。

1. 51ページの“カッピングユニットのサービスポジション”を参照し、ユニットをサービスポジションにします。
2. バイオクリッププラグを固定している3本のスクリューを外し、プラグを取り外します。
情報：ネジ部を保護するために、3本の全ネジM8×15mmを取り付けておきます。
3. ユニットを通常位置に戻します。

逆の手順で、バイオクリッププラグを取り付けます。



バイオクリッププラグの取り外し

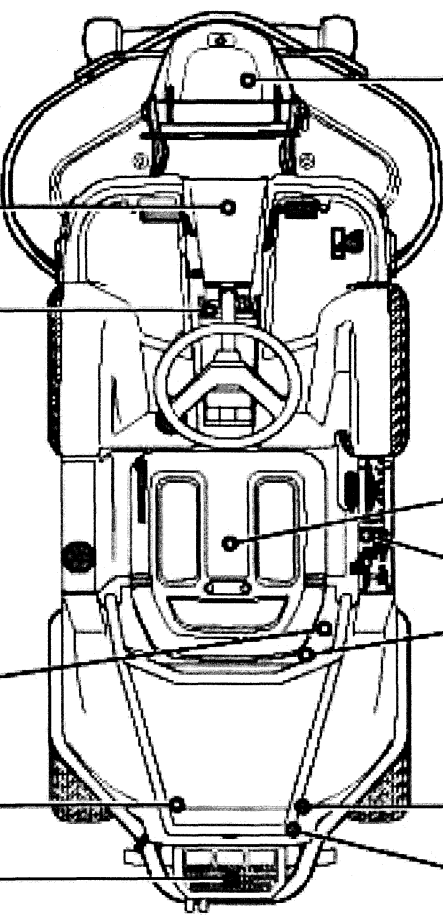
給油

給油

給油スケジュール

(プロフレックス18)

毎日ご使用の場合、週1回(1/5 2)の給油は
週2回行って下さい。

500h (250/250)	100h (50/50)	1/52 (25h)	1/365	ProFlex 18		1/365	1/52	200h (100/100)	500h (250/250)
					7				
					1				
					2				
									
									
									
				4					
				5					
				6					

B300-590

給油

給油スケジュール (プロフレックス21)

[illegible]

給油

概要

給油中は、不意に動いてしまうことを避けるため、イグニッションキーを抜くこと。

潤滑としてのオイルは、指定が無ければエンジンオイルを使用します。

グリスで潤滑にする場合、もし他の指定がなければ、グリス 503 98 96-01あるいはよい腐食保護を提示する別のシャーシか、ボールベアリング・グリスを使用します。

毎日ライダーを使用する場合、週2回の給油を行うこと。

給油後、余分なグリスは拭き取ること。

ベルト、ベルトプーリーの表面に潤滑油が付かないようにすること。付着した場合はアルコールで清掃すること。アルコールで清掃後にもベルトがスリップする場合は、交換すること。ベルトの清掃には、ガソリンや石油などを決して使用しないこと。

ワイヤーへの給油

ワイヤーの両端に給油を行い、コントロールを終端まで動かします。給油後、ワイヤーにゴムカバーを再取り付けします。被覆付きのワイヤーは、定期的に給油を行わないと動きが悪くなります。ワイヤーが固着した場合、例えばディファレンシャルロックを解除することが難しくなるなど、機械を操作することは困難になります。

もしワイヤーが固着したら、ワイヤーを取り外して垂直に吊るします。

柔らかめのエンジンオイルを下から出てくるまで注入します。

情報：小さいビニール袋にオイルを入れ、ワイヤーの上端にテープで固定して一晩垂直に吊るしておきます。それでもワイヤーへの給油がうまく出来なければ交換して下さい。

アクセサリー

潤滑等オプション装置または付属品などの他のメンテナンスについては、16ページ“アクセサリー”部を参照下さい。本書には記述されていません。

アクセサリーも当然、メンテナンスを必要とします。それぞれの説明書を参照して下さい。

この説明書の整備記録と同様の管理が必要です。

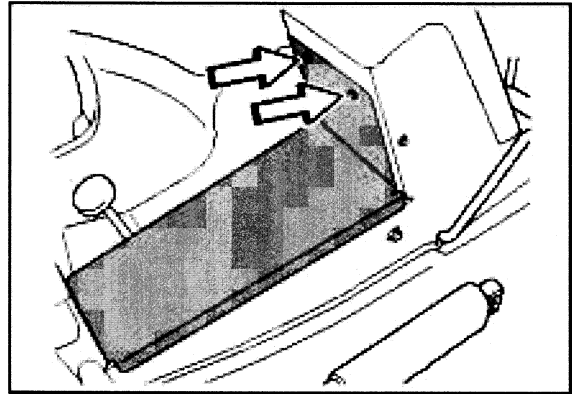
給油

給油スケジュールに従った給油法

プロフレックス18は59ページ、プロフレックス21は60ページに記載されています。

1. フレーム内部のペダル機構

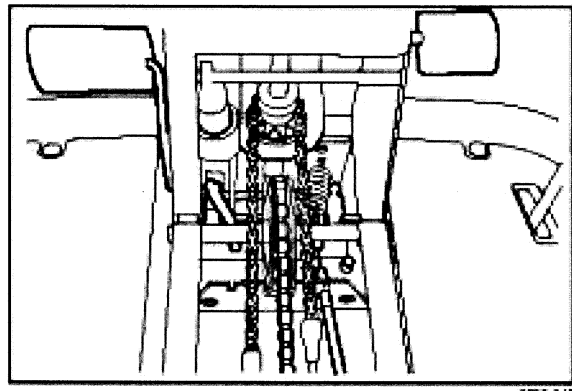
フレーム内部のペダル機構に給油します。
2つのスクリューを緩めて、フレームからカバーを取り外します。



プロフレックス21

ペダルを動かして、可動部分をオイルによって潤滑して下さい。
ブレーキケーブル及びドライブケーブルを潤滑して下さい。

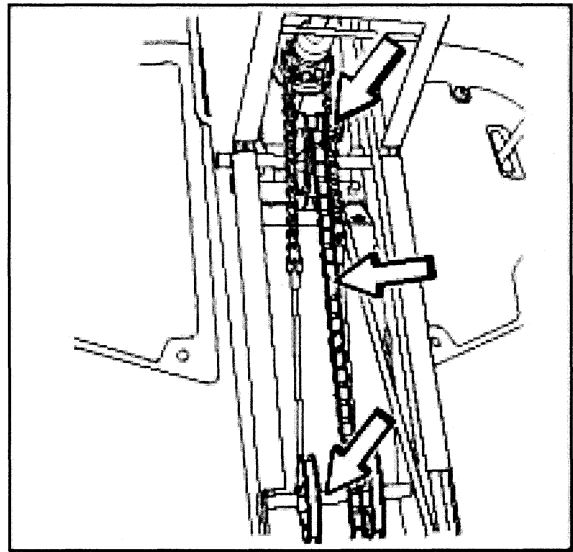
フレーム内部のカバーを取り付ける前に、63ページの“フレーム内部のチェーン”を参照して給油します。



給油

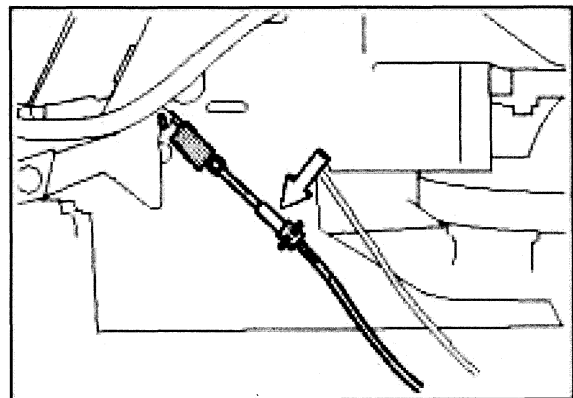
2. フレーム内部のチェーン

62ページの“フレーム内部のペダル機構”を参照して、フレーム内部のカバーを取り外します。潤滑油又は、オートバイ用のチェーンの潤滑性のスプレーでステアリングチェーンを潤滑して下さい。
ステアリングケーブルワイヤー及び滑車部はグリスを使用し潤滑して下さい。
整備後フレーム内部のカバーを取り付けて下さい。



3. ディファレンシャルロック・ワイヤー (プロフレックス21)

ワイヤーのゴム被覆を取り、オILERで給油します。ペダルを数回押し下げて再び給油し、ゴム被覆を取り付けます。



給油

4. エンジンオイル

エンジンスイッチを切り機械を水平にして、エンジンのオイルレベルを点検して下さい。

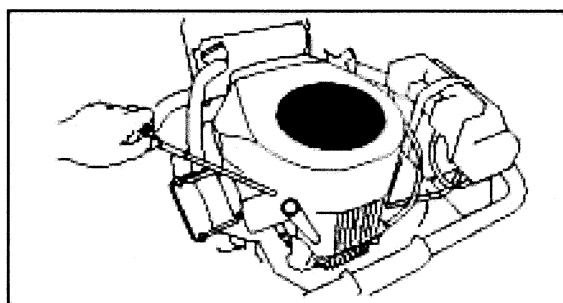
エンジンフードカバーを取り外します。

ディップスティックを抜き、オイルを拭き取り、**ねじ込まず**に再び差し込みます。

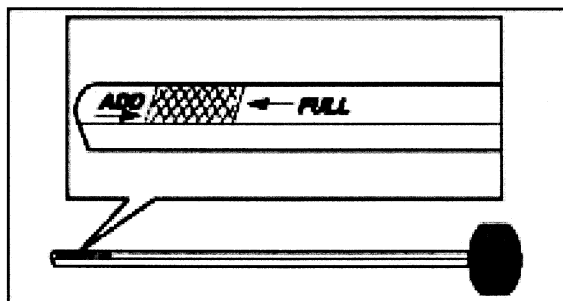
ディップスティックを再び抜き取り、オイルレベルを点検します。

オイルレベルは、ディップスティックのマークの間にあることを確認します。“ADD”マークに達した場合は、“FULL”マークまでオイルを補給して下さい。

オイルは“FULL”マークを超えないようにすること。



8009-156



8009-158

オイルはディップスティックが入っている穴から補給します。

オイルはゆっくりと補給すること。エンジン始動前に、ディップスティックをしっかりとねじ込むこと。エンジンを始動して30秒程度アイドリングで運転させます。エンジンを停止します。

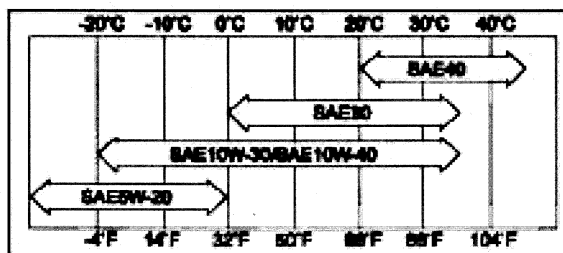
30秒待ち、オイルレベルを点検します。必要であれば、オイルをディップスティックの“FULL”マークまで補給します。

エンジンオイルはSAE 30またはSAE 10W/30または10W/40のSC-SH規格

(0℃以上時)を使用して下さい。

20℃以上であれば、SAE 40を使用することも出来ます。

0℃以下の場合、SAE 5W/20のSC-SH規格のエンジンオイルを使用します。



8009-140

エンジンオイルの容量はフィルターを含まず1.5 L (フィルター含み1.7 L) です。

給油

エンジンオイルの交換

エンジンオイルは初回8時間運転後に交換して下さい。その後、100時間の運転ごとに交換して下さい。



警告！

エンジン停止直後はエンジンオイルが非常に高温になるため、若干エンジンを冷却してからオイルを抜くこと。

重要情報

肌への接触を避けること：こぼれた場合は石鹸をつけて水洗いすること。

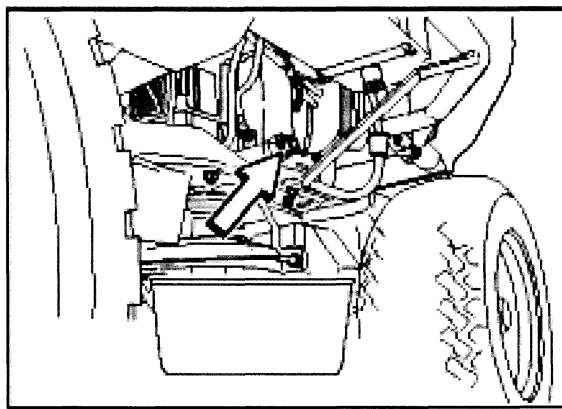
1. エンジンフードカバーを開きます。
2. エンジン左側のオイルドレンプラグ下に、容器を置きます。

3. ディップスティックを取り外します。エンジン左側からドレンプラグを外します。
4. オイルを容器に排出します。

重要情報

使用済みエンジンオイルは人体に有害ですので地面や自然界に決して廃棄しないこと：ワークショップや廃棄処分業者に依頼すること。

5. その後、オイルドレンプラグを取り付け、締め付けます。
6. 必要であれば、オイルフィルターも交換して下さい。
7. ディップスティックの“FULL”マークまでオイルを注入します。既述のエンジンオイルを使用して下さい。
8. 暖機運転を行い、ドレンプラグからオイル漏れがないことを確認します。



給油

5. 油圧駆動ロック解除レバー

トランスミッションカバー、2本のスクリューを取り外します。

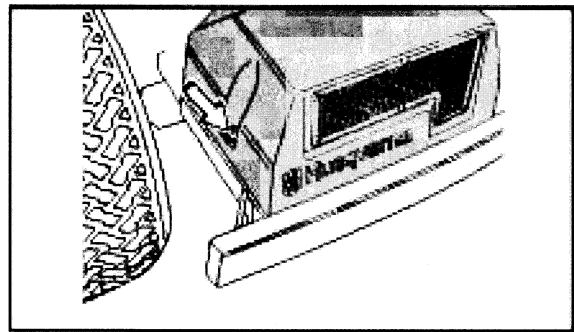
オイラーにて左側のジョイントとベアリングを潤滑します。

ゴムケースを取り外し、ハイドロスタティックトランスミッションワイヤーをオイラーで潤滑します。

ペダルを数回踏み込み、再び潤滑します。

ラバーカバーを取り付けます。

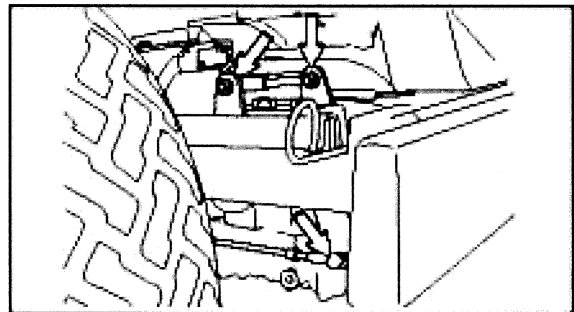
トランスミッションカバーを取り付けます。



6328-22

6. トランスミッション

オイルとフィルターは、サービスマニュアルに記載されている通りに、正規販売代理店にて交換して下さい。



6329-02

7. カuttingユニット

フロントカバーを取り外します。

オイラーにて潤滑：

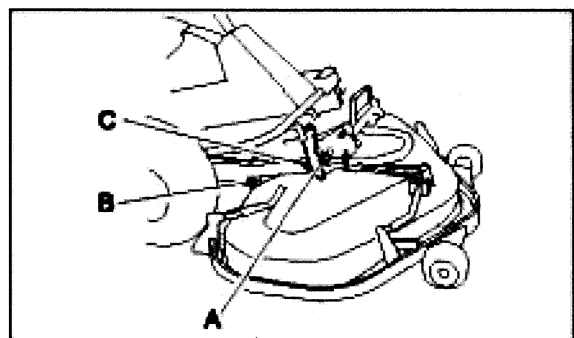
A 安全キャッチ

ジョイントとベアリング

グリスにて潤滑：

B インナープラグ

C アタッチメントフレームの溝



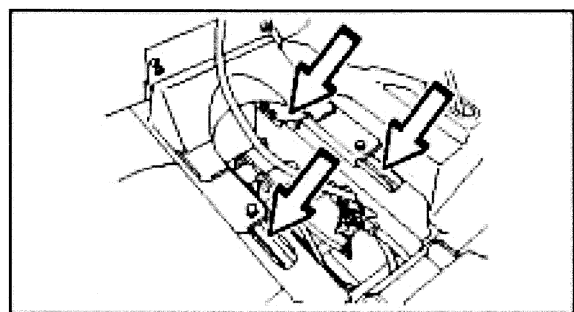
6330-02

8. シート

シートを前に傾けます。

オイラーでシート位置調整機構を潤滑します。

グリスでシート位置調整レールを潤滑します。シートを前後に動かして両側を潤滑します。



6331-347

給油

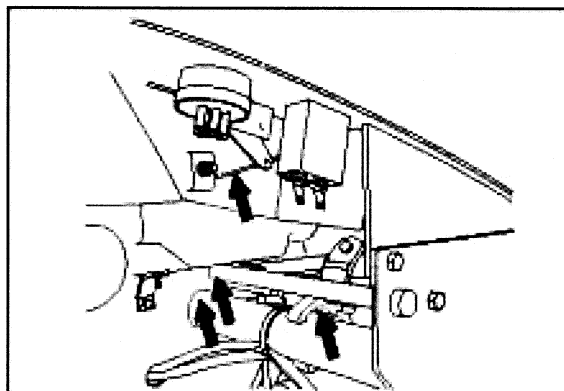
9. スロットル/チョークワイヤー、レバーベアリング

プロフレックス18

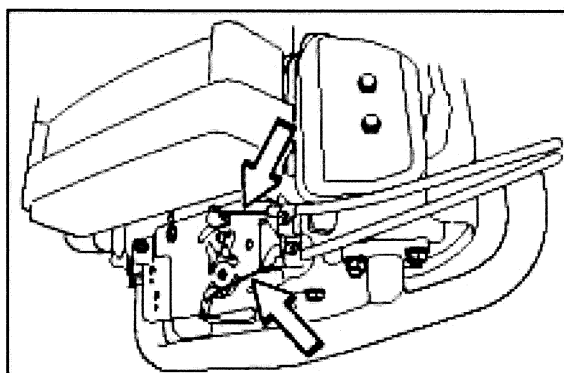
レバーハウジングの右側カバーを取り外し(3本のスクリュー)、エンジンカバーを開きます。オイラーでワイヤー両端を潤滑します。コントロールを端まで動かして再び潤滑します。

オイラーでカッティングユニットコントロールレバーのジョイント、キャッチ、ベアリングを潤滑します。

間違った組み立てがないか気をつけます: サイドカバーのスクリューは外側から取り付けます。レバーハウジングのサイドカバーを取り付けます。



プロフレックス18



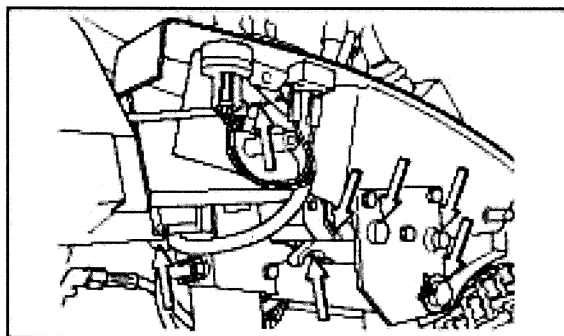
プロフレックス18

プロフレックス21

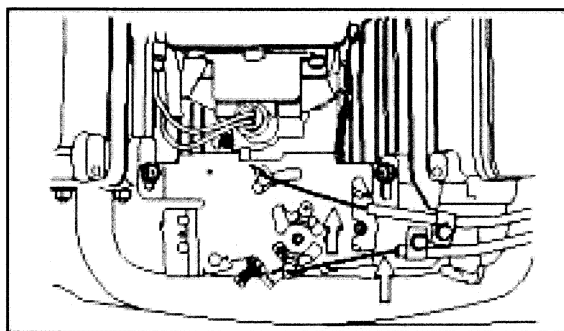
レバーハウジングの右側カバーを取り外し(2本のスクリュー)、エンジンカバーを開きます。オイラーでワイヤー両端を潤滑します。コントロールを端まで動かして再び潤滑します。

オイラーでカッティングユニットコントロールレバーのジョイント、キャッチ、ベアリングを潤滑します。

間違った組み立てがないか気をつけます: サイドカバーのスクリューは外側から取り付けます。レバーハウジングのサイドカバーを取り付けます。



プロフレックス21



プロフレックス21

給油

10. 油圧オイルフィルター交換、プロ フレックス21

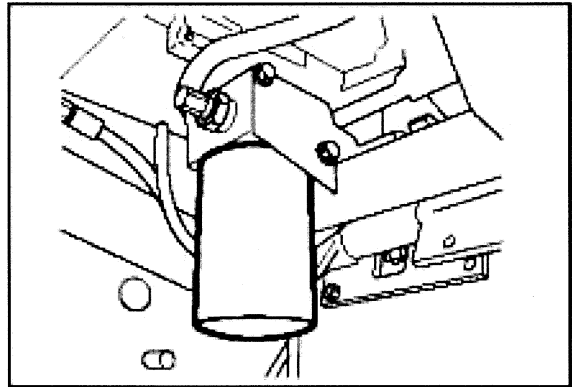
重要情報

使用したエンジンオイルやトランスミッションオイルは人体に有害ですので、決して地面や自然界に廃棄しないこと。

使用済みフィルターはワークショップや専用の廃棄場所で処分すること。

肌への接触は避けること：こぼれた場合は石鹸を付けて水洗いすること。

1. オイルフィルターを取り外します。必要であればフィルターレンチを使用します。
2. 新しいフィルターのパッキン部に新しいきれいなエンジンオイルを塗布します。
3. 手でフィルターを3/4回転時計回りに締めます。
4. トランスミッションカバーを取り外し、トランスミッションオイルを約0.3 L注入します。
69ページ の“13. トランスミッションオイルレベル”を参照して下さい。エンジンを始動する際には、下記注意事項とトランスミッションオイルタンクが空になっていないことを守って下さい。
5. エンジンを暖機運転し、リフト装置とパワーステアリングを動かし、そしてオイルフィルターシール周辺にオイル漏れがないことを確認します。
6. トランスミッションオイルレベルを確認し、必要であれば補給します。オイルフィルター容量は0.3 Lです。
7. トランスミッションカバーを取り付けます。



6026-260

11. オイルフィルターの交換

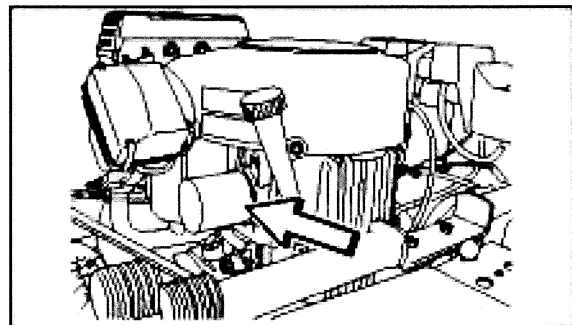
重要情報

使用したエンジンオイルやトランスミッションオイルは人体に有害ですので、決して地面や自然界に廃棄しないこと。

使用済みフィルターはワークショップや専用の廃棄場所で処分すること。

肌への接触は避けること：こぼれた場合は石鹸を付けて水洗いすること。

1. エンジンフードを開きます。
2. 64ページ “4. エンジンオイル” に記載されているように、エンジンオイルを抜きます。
3. オイルフィルターを取り外します。必要であればフィルターレンチを使用します。
4. 新しいフィルターのパッキン部に新しいきれいなエンジンオイルを塗布します。
5. フィルターを手で3/4回転時計回りに締め付けます。
6. エンジンを暖機運転し、オイルフィルターシール部周辺にオイル漏れがないか確認します。
7. エンジンのオイルレベルを点検し、必要であれば補給します。オイルフィルター容量は0.2 Lです。



6026-181

給油

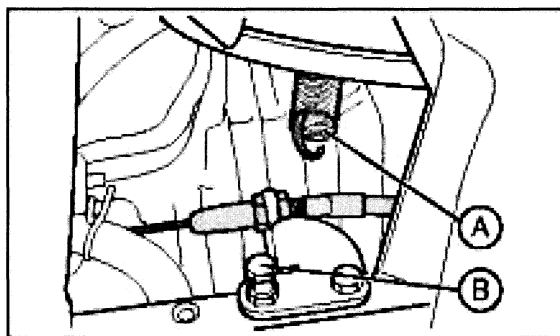
12. 駐車ブレーキワイヤー

66ページ“5. 油圧駆動ロック解除レバー”を参照して、トランスミッションカバーを取り外します。

必要であればスクリュー（B）からスプリング（A）を外して下さい。

潤滑時はワイヤーのゴム被覆を外して下さい。
オイラーでワイヤーを潤滑し、ブレーキペダルを数回踏み込み、再び潤滑します。

スプリング（A）とトランスミッションカバーを取り付けます。



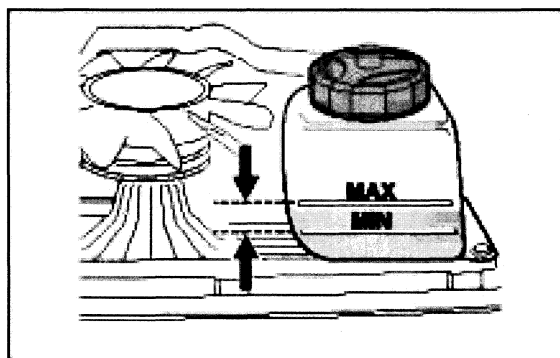
6920-800

13. トランスミッションオイルレベル

1. トランスミッションのオイルレベルをエアインテークのメッシュを通して目視します。
20℃時に、オイルレベルはオイル容器のMINとMAXマークの間になります。

オイル補給時は、まずはトランスミッションカバーを外す必要があります

2. オイル容器のカバーを回して外し、SAE 10W/30 エンジンオイルをMAXマークまで注入します。そして容器キャップをねじ込み取り付けて、トランスミッションカバーを取り付けます。



6920-310

トラブルシューティング

トラブルシューティングガイド

問題点	原因
エンジンが始動しない	・ 燃料タンクが空 ・ 燃料種類の間違い ・ スパークプラグの不良 ・ スパークプラグの配線、接続不良 ・ キャブレターまたは燃料系統の汚れ
セルモーターが始動しない	・ カuttingユニット位置の間違い ・ ブレーキを作動していない ・ 走行ペダルが中立位置ではない ・ バッテリーの低電圧 ・ バッテリーターミナルケーブル、イグニッションロック、スターターの接続不良 ・ メインヒューズ断線(ヒューズはバッテリーの前、バッテリーカバーの下) ・ イグニッションの固定不良 ・ スターターの不良
エンジン回転が不安定である	・ スパークプラグの不良 ・ キャブレターの調整不良 ・ エアーフィルターの詰まり ・ 燃料タンク通気バルブの詰まり ・ イグニッションの取り付け不良 ・ キャブレターまたは燃料系統の汚れ ・ チョークレバーを引いている、あるいはチョークケーブルの調整不良 ・ 燃料種類の間違い
排気ガスの異常	・ 黒煙： ・ チョークレバーを引いている、あるいはチョークケーブルの調整不良 ・ キャブレターの調整不良 ・ エアーフィルターの詰まり ・ 青い煙： ・ 燃料タンク内にオイル混入 ・ エンジンの損傷 ・ 白い煙： ・ 燃料タンク内に軽油混入
エンジンの出力不足	・ エアーフィルターの詰まり ・ スパークプラグの不良 ・ キャブレターまたは燃料系統の汚れ ・ キャブレターの調整不良 ・ チョークレバーを引いている、あるいはチョークケーブルの調整不良 ・ 燃料種類の間違い

トラブルシューティング

問題点	原因
エンジンが過熱する	・ エンジンの過負荷 ・ エアーインテークあるいは冷却フィンの詰まり ・ ファンの損傷 ・ エンジンオイル不足 ・ イグニッションの不良 ・ スパークプラグの不良
バッテリーが充電されない	・ バッテリー内部のセル不良 ・ バッテリーターミナルとケーブルの接続不良 ・ ジェネレーターあるいはレギュレーター の不良 ・ バッテリーメンテナンス不足
機械が振動する	・ ブレード取り付けの緩み ・ エンジン取り付け部の緩み ・ プーリーの緩み、あるいはベアリングの磨耗 ・ ブレード研磨後のバランス不良、あるいは損傷
芝刈面が不均一である	・ ブレードの刃先不良 ・ カッティングユニットの調整不良 ・ 長い、又は濡れた芝草 ・ カッティングデッキ内側に草やゴミの堆積 ・ 左右タイヤ空気圧の不一致 ・ 速すぎる走行 ・ エンジン回転の低過ぎ ・ 駆動ベルトのスリップ

保管方法

保管

冬季の保管

芝刈作業のシーズン終了後または30日間以上機械を使用しない場合は、ライダーを格納して下さい。燃料を長期（30日以上）そのままタンクに入れっ放しにしておくと、キャブレターが詰まるなどのエンジン機能に悪影響を与えます。

燃料スタビライザー（スタビル）は、保管時の燃料が粘り気を帯びてしまうための対策として使用できます。アルキレート燃料が使用されている場合、この燃料は安定性があるためスタビライザーは必要ありません。しかしながら、繊細なゴム部品が硬化するため、通常の燃料とアルキレート燃料を切り換えるのは避けるべきです。タンクの燃料あるいは保管容器にスタビライザーを入れます。常にスタビライザーの製造社が指示している混合比を使用すること。スタビライザーを入れた後、最低でもエンジンを10分間運転し、スタビライザーがキャブレターに到達するようにします。

スタビライザー使用時は、絶対に燃料タンクとキャブレターを空にしないこと。



警告！

タンクに燃料が入った状態でエンジンを屋内に保管したり、燃料の蒸気が裸火、火花、あるいはボイラー、給湯タンク、ドライヤーなどのパイロット灯に触れる恐れがある換気の悪い場所で保管したりしないこと。十分に注意をして燃料を取り扱うこと。非常に可燃性が高く、不注意により重大なケガや資産損失につながる恐れがあります。

燃料は屋外で専用の容器に排出し、炎から遠ざけること。清掃目的で燃料を使用しないこと。脱脂材や温水を代わりに使用すること。

ライダーの保管手順は次の通りです：

1. ライダーを十分に清掃します。特に、カッティングユニットの下を清掃します。サビを防ぐため、剥がれた塗装面をタッチアップします。
2. 磨耗、損傷部品がないかライダーを点検し、すべてのナットやスクリューが緩んでいるかもしれないので増し締めします。
3. エンジンオイルを交換します。正しく廃油処理すること。
4. 燃料タンクを空にします。エンジンを始動し、キャブレター内の燃料までもが完全になくなるまでエンジンを運転させます。

保管

5. スパークプラグを外し、各シリンダーにスプーン一杯のエンジンオイルを入れます。エンジンを回してオイルが均一に行き渡るようにし、それからスパークプラグを取り付けます。
6. すべてのグリスニップル、ジョイント、シャフト部にグリスを給油します。
7. バッテリーを取り外します。清掃、充電して涼しい場所に保管します。
8. ライダーをきれいで、乾燥した場所に保管し、保護のためカバーをして下さい。

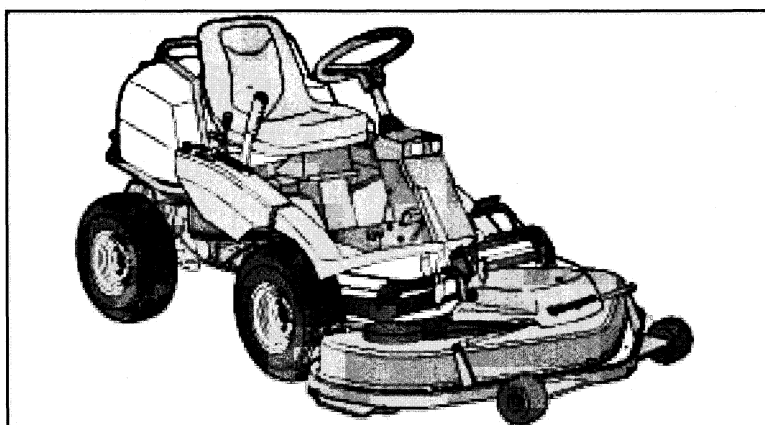
サービス

芝刈シーズンに機械を安全に使えるように、シーズンオフは機械のサービスあるいはオーバーホールを行うのに最適な時期です。

部品注文の際には、購入年月日、モデル、タイプ、製造番号を提示して下さい。

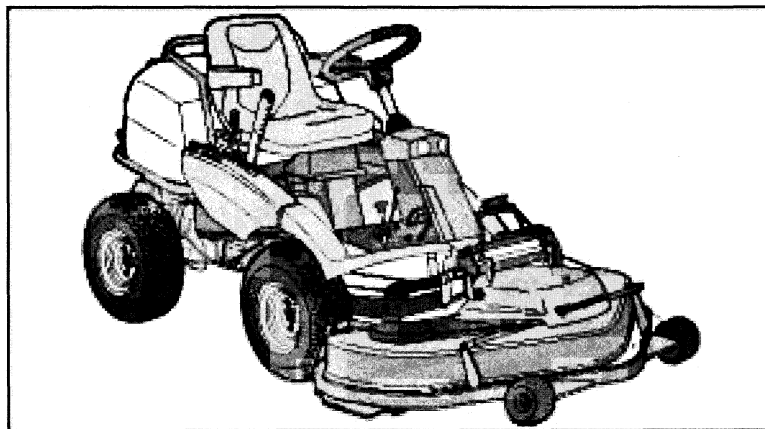
常にハスクバーナ純正部品を使用して下さい。

定期点検や調整を正規販売代理店で行うと、来シーズン最良の状態でスタートできます。



8009-601

プロフレックス18

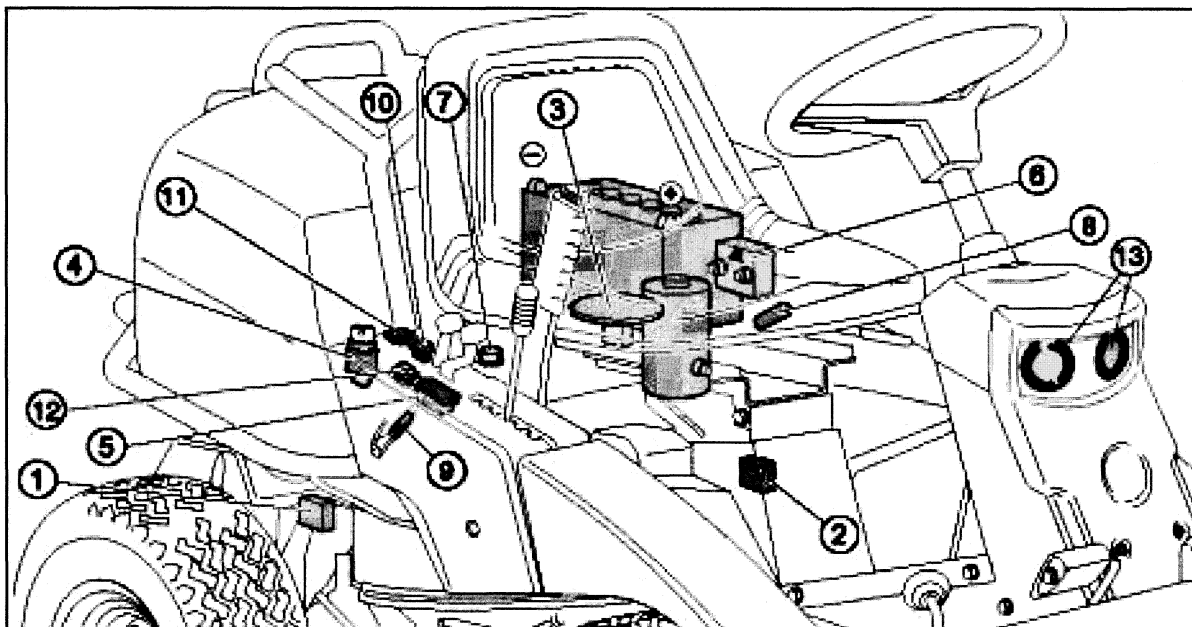


8009-602

プロフレックス21

電気・油圧システム

電気システム

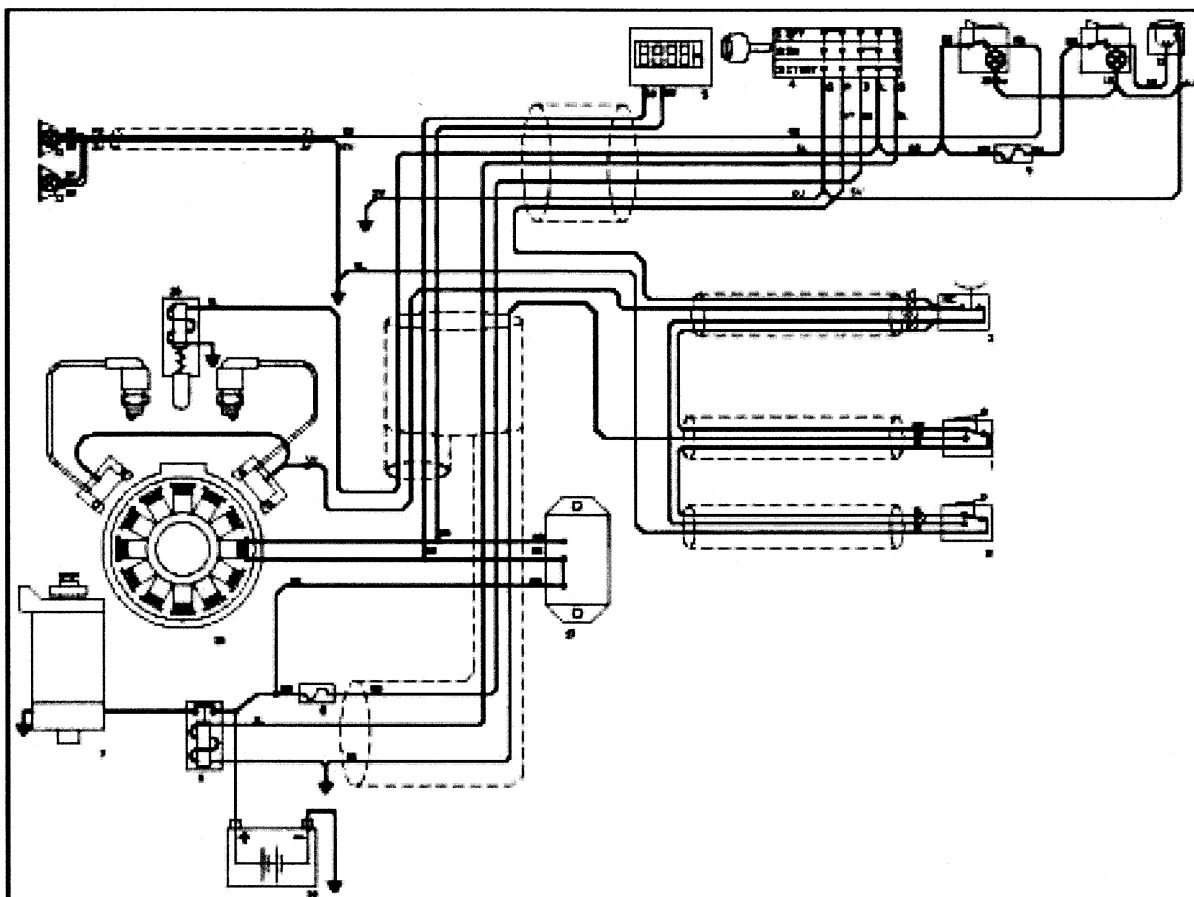


8009-540

電気システム

1. マイクロスイッチ (油圧トランスミッション)
2. マイクロスイッチ (カッティングユニット)
3. マイクロスイッチ (シート)
4. イグニッションキー (スタータースイッチ)
5. カウンター (アワーメーター)
6. スターターリレー
7. エンジンコネクター
8. メインヒューズ 15 A
9. ヒューズ 7.5 A
10. スイッチ
11. 電源コンセント
12. ライトスイッチ
13. ライト

電気・油圧システム



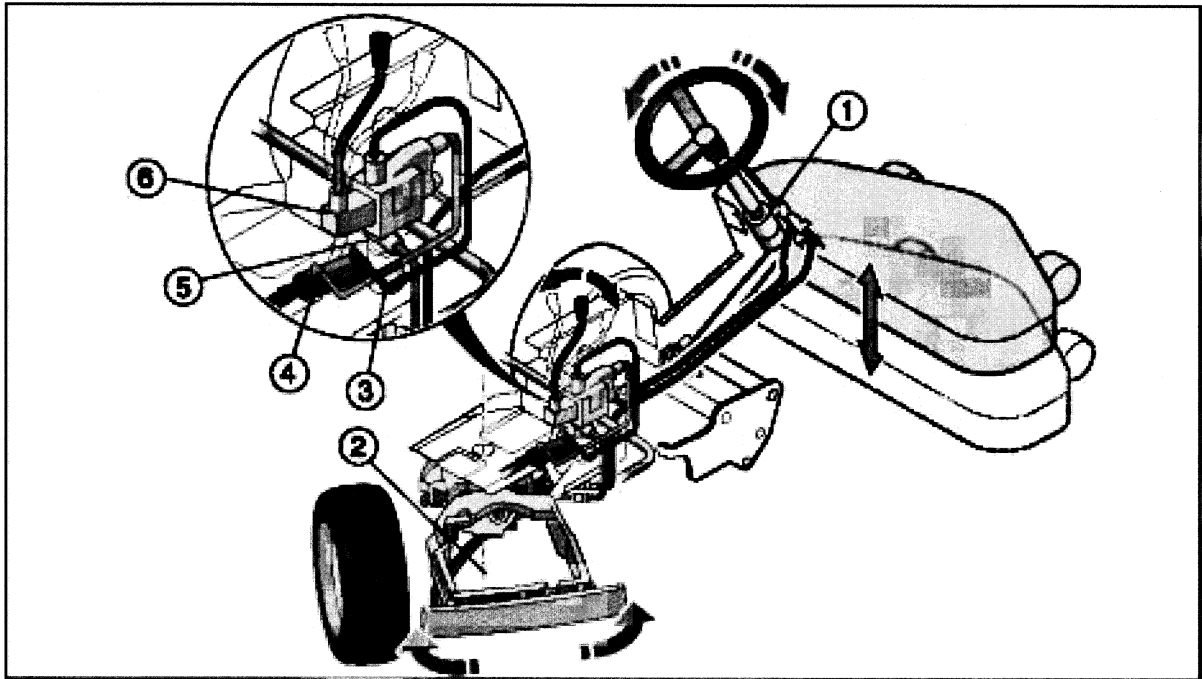
SC04-5M

電気システム

該当番号	配線色区分
1. マイクロスイッチ (油圧トランスミッション)	RD=赤色
2. マイクロスイッチ (カッティングユニット)	BL=青色
3. マイクロスイッチ (シート)	VT=白色
4. イグニッションキー (スタータースイッチ)	SV=黒色
5. カウンター (アワーメーター)	GL=黄色
6. スターターリレー	GR=緑色
7. エンジンコネクター	BR=茶色
8. メインヒューズ15A	
9. ヒューズ7.5A	
10. 電源出力スイッチ	
11. ライトスイッチ	
12. ライト	

電気・油圧システム

油圧システム (プロフレックス 21)



8006-257

油圧システム: 構成品配置

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. パワーステアリング | 4. 空圧シリンダー |
| 2. 油圧トランスミッションポンプ | 5. 圧力制限バルブ |
| 3. 油圧オイルフィルター | 6. 空圧シリンダー制御バルブ |

油圧システムをきれいにしておくこと。以下の点に気を使うこと:

- ・ キャップを開ける前やコネクターを外す前に、十分に清掃すること。
- ・ オイルを注入する際には、きれいな容器を使用すること。
- ・ 密閉された容器内で保管されていた、きれいなオイルのみを使用すること。
- ・ 廃油を再利用しないこと。
- ・ 29ページ“メンテナンス・スケジュール”に記載されている期間に従い、オイルとフィルターを交換すること。

問題なく油圧システムを使用するには、異物などの混入がないことが大切です。使用されると粒子が発生し、それらが磨耗と機能の異常の両方を引き起こします。それらの粒子を取り除くことのためにフィルターが装着されています。フィルターは生成された粒子を捕らえるように大きさが決められています。システムの外部から要因物が入ってくると、フィルターはすぐに詰まり意図する役割を失います。システムに要因物があると、悪循環でより多くの要因物が生成されます。機能の破壊とよりシステムの清掃する作業が必要な結果となります。

テクニカルデータ

データ	ライダープロフレックス 1 8	ライダープロフレックス 2 1
寸法		
長さ	2080 mm / 6.82 ft	2080 mm / 6.82 ft
幅	900 mm / 2.95 ft	900 mm / 2.95 ft
高さ	1160 mm / 3.80 ft	1160 mm / 3.80 ft
質量	309 kg / 682 lb	309 kg / 682 lb
ホイールベース	1000 mm / 3.28 ft	1000 mm / 3.28 ft
トラック幅	710 mm / 2.38 ft	710 mm / 2.38 ft
タイヤサイズ	195/65 x 8	195/65 x 8
エンジン		
メーカー	カワサキ (Kawasaki)	カワサキ (Kawasaki)
モデル	FH 531V-BS50	FH641V-BS50
出力	13.2 / 18 kW/hk	15.5 / 21 kW/hk
排気量	494 cm ³	675 cm ³
燃料	無鉛ガソリン (オクタン価87以上)	無鉛ガソリン (オクタン価87以上)
燃料タンク容量	10 L	17 L
エンジンオイル	SAE 30 又は SAE 10W/30 SAE 10W/40 SC-SHクラス	SAE 30 又は SAE 10W/30 SAE 10W/40 SC-SHクラス
エンジンオイル容量	1.5 L / 1.6 US qt	1.5 L / 1.6 US qt
エンジンオイル容量(オイルフ ィルター含む)	1.7 L / 1.8 US qt	1.7 L / 1.8 US qt
始動法	セルモーター	セルモーター
騒音		
測定値	101 dB(A)	101 dB(A)
保証値	102 dB(A)	102 dB(A)
電気システム		
タイプ	12 V、アース接地	12 V、アース接地
バッテリー	12 V、24 Ah	12 V、24 Ah
メインヒューズ	フラットピン、15 A	フラットピン、15 A
ヒューズ	フラットピン、7.5 A	フラットピン、7.5 A
スパークプラグ	チャンピオン製 RCJ8Y	NGK BPR4ES
プラグギャップ	0.75 mm / 0.030"	0.75 mm / 0.030"
バルブ (ヘッドライト)	2x12 V 20W	2x12 V 20W

テクニカルデータ

データ	ライダープロフレックス 1 8	ライダープロフレックス 2 1
油圧系統		
最大作動圧力	—	45 kg/cm ² / 630 PSI
トランスミッション		
メーカー	Tuff Torq K 66	Tuff Torq K 66
オイル	SAE 10W/30 SF-CCクラス	SAE 10W/30 SF-CCクラス
オイル容量	3.2 L	3.2 L
カッティングユニット	コンビ 1 1 2	コンビ 1 1 2
刈幅	1120 mm / 44"	1120 mm / 44"
刈高	40 - 100 mm / 1.57" - 3.93"	40 - 100 mm / 1.57" - 3.93"
ブレード長さ	420 mm / 16.5"	420 mm / 16.5"
幅	1230 mm / 48.4"	1230 mm / 48.4"
質量	50 kg / 110 lb	50 kg / 110 lb
追加質量 (プロフレックス)	8 kg / 17.6 lb	8 kg / 17.6 lb
長さ (カッティングユニット含む)	2450 mm / 8.04 ft	2450 mm / 8.04 ft
カッティングユニット	コンビ 1 2 2	コンビ 1 2 2
刈幅	1220 mm / 48"	1220 mm / 48"
刈高	40 - 100 mm / 1.57" - 3.93"	40 - 100 mm / 1.57" - 3.93"
ブレード長さ	450 mm / 17.7"	450 mm / 17.7"
幅	1330 mm / 52.4"	1330 mm / 52.4"
質量	60 kg / 17.6 lb	60 kg / 17.6 lb
追加質量 (ProFlex)	8 kg / 17.6 lb	8 kg / 17.6 lb
長さ (カッティングユニット含む)	2550 mm / 8.37 ft	2550 mm / 8.37 ft

重要情報

本機を使い切り廃棄する際には、販売店あるいはリサイクル業者にお渡し下さい。

重要情報

予告なく機械の改良や仕様・設計変更を行うことがあります。
 本取扱説明書に記載されている情報に基づき、いかなる場合も法律や地域の条令に従うこと。
 修理の際は純正部品のみ使用すること。純正部品以外の使用は保証対象外となります。

E U (欧州連合) 適合宣言

E U (欧州連合) 適合宣言

EU Declaration of Conformity (only applies to Europe)

We, Husqvarna AB, SE-561 82 Huskvarna, Sweden, tel: +46-36-146500, declare under sole responsibility that Rider Husqvarna Rider ProFlex 18 and ProFlex 21 dating from 2002 serial numbers and onwards (the year is clearly stated on the rating plate, followed by the serial number), comply with the requirements of the COUNCIL'S DIRECTIVE:

-of June 22, 1998 "relating to machinery" **98/37/EC, annex II A.**
-of May 3, 1989 "relating to electromagnetic compatibility" **89/336/EEC**, and applicable supplements.
-of May 8, 2000 "relating to the emission of noise to surroundings" **2000/14/EC.**
Information regarding noise emissions and the cutting width, see Technical Data.

The following harmonised standards have been applied: **EN292-2, EN836.**

The registered body **0404, SMP Svensk Maskinprovning AB, Fyrstorgsgatan 3, SE-754 50 Uppsala, Sweden** has issued the report with number

ProFlex 18: 01/901/009

ProFlex 21: 01/901/010

regarding the assessment of conformity according to annex VI to the COUNCIL'S DIRECTIVE of May 8, 2000 "relating to the emission of noise to surroundings" **2000/14/EC.**

Huskvarna, January 3, 2002



Roger Andersson, Development Manager/Garden Products